

逐次刊行物

平成元年6.20 成

国民教育会館

成人教育情報センター

自立した女と男を  
人間らしい生活を  
差別のない社会を  
育み 創り出す

新しい家庭科

We

ウイ



7

1989

特集 生涯学習社会はバラ色?

さん てん りょう ふう  
山巔涼風



風の地図

佐藤哲生

# 詩 頭 卷

## 遊 び

幼い孫娘と遊んでいると

孫娘の「いま」は

いましかない というのが

突然 光り輝いて

わたしは 日の光にとけそうになりながら

遊びます

子 槇 生 羽

# We

ウ イ

1989. 7 月号

## 【特集】生涯学習社会はバラ色？

●インタビュー 庄司和晃さん（インタビューー 半田たつ子） 4

ー人間ばっかり主義では、スマレたちがさみしがるー

✓■生涯学習社会をバラ色にするには 金森トシエ 12

✓■より自分になっていくためのオープンスペース

——『ミズ・オープンスクール』 落合恵子 16

■『さらば、履歴書！』

ー学歴社会を裏側から崩すには②ー ・保坂展人 20

## 【発言】

学びにかかわり続けて ・篠田登美江 24

私の生涯学習ー男女平等社会を目指してー ・小池寿哉 26

農業の中で学ぶ日々 戸西葉子 28

## 【学習の主人公たち】

学ぶ主人公ー生きる主人公 30

ー小金井市公民館『月刊こうみんかん』の15年から

●新しい家庭科を創るために

小学校では／「こぎゃん、あまかて知らんだった」 ・岡田みつよ 40

中学校では／「保育学習」から学んだこと ・島田喜美子 46

高等学校では／消費者教育の試み（その1） ・田村より子 50

●こだま 「平井レポート」に対する異議 56

●春の公開セミナー報告 「わたしにとっての1月7日」 84

## ◀情報▶

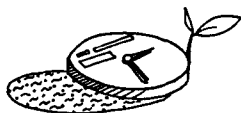
1. 「生涯学習」って何、文部省の意図は？ 34  
 2. 「生涯学習」に関する国の予算 38

## ■連載

風の地図／山嶺涼風	佐藤哲生	
巻頭詩／遊び	羽生楨子	1
家族と家庭科／「家族領域」40年の歩みに着手するにあたって	酒井はるみ	64
親子論と心理学／親子関係診断テストをめぐる	小沢牧子	66
海の輝く日／齢ということ	佐藤通雅	68
広がるネットワーク／〈Ⅳ〉私、捨て子だったんです	平井雷太	70
あっちゃ、こっちゃ、フフフ／学校氏の欲望(1)	田中正彦	73
筐／アニマの風	村田直文	74
幼児クラブやってみる？／リュックの中身は着替えと弁当	佐多和子	75
KNOW HOW共学家庭科／高遠高校での共学 その3	湯沢静江	76
私の朝鮮史／花郎徒(ファランド)	岡百合子	77
食べもの文化史／こめの食べ方②	石川尚子	78
よそおい／パンツ大好き人間インタビュー(4)	内山裕子	79
コンピューターと暮らし／その4	碧海酉癸	80
石けんコンサート通信／失敗なんて気にせずに石けんづくり は手づくりのおもしろさ	よしだあきひろ	81
波／五月二十一日、晴天	半田たつ子	82

## ●ひと 岡百合子さん 62

- 今月の読書から 33    ○イキイキぐるうぶ 55    ○Weの会通信 63  
 ○わたくしからあなたに 86    ○Weになんでも言おう なんでも聞こう 88  
 ○泉 90    ○Weの読者会だより 91    ○十字路 92    ○アンテナ 94  
 ○編集室からあなたに 85    ○WE EDITOR'S NOTE 96



インタビュアー・半田たつ子

### 「人間ばかり主義 では スミしたちが さみしがる」



庄司和晃氏。覚えていらつしやる方もあるでしょう。夏、江の島の神奈川県立婦人総合センターで開かれたWeのフォーラムで「子育ての習俗」を講演されました。ワイシャツはもとより、ネクタイの色も変わるほど汗グツシヨリになりながら、身ぶり手ぶりをまじえての熱演でした。一同笑いこるげながら、豊かな世界にひき入れられたのです。行政のおはやしで「生涯学習」踊りをしたくないと思う私は、昔と今を結び、科学・前科学・非科学をくるめたい、スーパールの大きい「学び」の世界を、もう一度聞きしたい、と願ったのです。

一九二九年、山形県に生まれる。日本文学部卒。成城学園初等科教諭を経て、現在大東文化大学文学部教授。「全面教育学」を提唱（本誌四月号74頁参照）。

著書に『仮説実験授業』（国士社）

『柳田国男と教育』（評論社）

『コトワザ教育のすすめ』（明治図書）

『全面教育学の構想』（明治図書）などがある。「今の世に、創造性のある

実質的な実教育なり教育学なりをつくり上げようと思うならば、教育学関

係の専門書や学術論文に当たるよりは

むしろ、芸談や職人芸ないしは武道談

や行者話などのたぐいに、しかと目を

注いで見る方が、早道だ。芸談や職人

話の方が未来を開く可能性に満ちてい

るからである」『庄司和晃著作集』

（明治図書刊）第5巻より

## 「生涯学習」のもう一つの意味

——臨時教育審議会が、教育改革の目玉として「生涯学習」を挙げてから、にわかにかこの言葉が飛び交いはじめました。文部省は機構改革をして、生涯学習局を筆頭局としました。人間は、学校に通っている時だけでなく、生涯学び続ける者だ、という考え方に私も共感します。けれども、どうもうさなくさく、素直に「生涯学習社会」を肯定できないのです。その思いを「生涯学習社会はバラ色？」というタイトルに込めました。そして、生涯学習という言葉を、別の意味でとらえる時、「人の生涯について学ぶ」と考えることもできると思ったのですね。

庄司先生は、民俗学や仏教などの広いご研究の上に立つて、壮大な「全面教育学」の構築に取り組んでいらっしゃるが、先生の「人間一生論」は、懷妊から誕生、成人式、結婚式、葬式、そして死後の世界までを、視座にいられていらっしゃると思います。教育の本質を「渡世法体得」ととらえていらっしゃるのも面白いし、「人間ばっかり主義では、スマイレたちがさみしがる。これが言わば、全面教育学の思想である」とのお考えには、うれしくなってしまう。生涯学習を、もっとゆつたりと、大きなスケールで考えたくて、お訪ねしました。

庄司 全面教育学という「渡世」とは、この世を生き抜く術、つまり「生き方・死に方」のこと。人間ばかりでなく、動物や植物、山川岩石などもつ、それぞれの渡世法体得としての自然内教育と、人間における達人教育、平凡教育、表街道教育、裏街道教育、そして死の教育からなる人間教育とを含めて教育を考えようというものです。

ものの見方・考え方には三つの相があります。「前科学的認識」は、日本の中で生まれ育った「しきたり」です。学校で科学的な教育を受けなかった私たちの祖先は、科学にあらざる教育を受けてちゃんと育ち、世渡りをしてきました。年玉・餅花・蘭玉・節分・田植日・虫送り・鳥追い……などなど豊かな年中行事が各地にあります。昭和40年代の高度経済成長期にほとんど消えてしまったのですが……。一つ一つにドラマのようなイメージがあって、見事なアニメズム文化なのですね。

「絵馬」というのも、神様にお願いをする際に、言葉や文字だけでなく、具体的に絵で表すのです。大阪の四天王寺布袋堂に「乳しぼり」の絵馬がありますが、これは、乳が出過ぎるので、蓄えたいとか、逆にこのくらい出てほしいとかの願いを、絵で表しているものです。

いま、概念教育とか文字教育だけでなく、表象教育が叫ばれているのですが、昔の連中はこれだけのものを持ってい

たのです。

学校教育では、原理・法則・概念・事実等を中心に「科学的認識」を教えます。科学にも前科学にもよらない「非科学的認識」もあって、俗信・信仰・宗教を指します。

日本人が自然とどうつきあってきたか、人間だけでなく、サルたちの学習も、ミミズの生きかたも、ススキやクズの世渡りの仕方をも、みなだきかかえていく。科学教育に限らず前科学や非科学の教育をも、みなだきかかえていく……。

これらを文部省が言う意味とは違うかも知れませんが「人間一生の教育」と考えたいですね。

## 民衆の豊かな知恵

——ほんとうに、こんな豊かな民衆の知恵を、科学的でないというだけで顧みないのは惜しいですね。

**庄司** 仏教でも、死後「年忌」というのがありますね。人間一生に止まらず、死後にも節目を信じてきたのは、神秘的な世界の発見でもあるわけです。年忌（仏教）・年祭（神道）・記念（キリスト教）いずれも節目を設けています。

仏教で、初七日から始まって、一周忌……七回忌……三十三回忌……五十年まで。この祭りはていねいにやって、以後は五十年毎に行う、となっているのも、目に見える人間一生だけでなく、死んだあとまで見渡して生きている、ということですね。

ね。

——全面教育学のグループの一人である植垣一彦さんが熱心にコトワザ教育をやっていらつしやいますが、コトワザも三つ子の魂百までも、五つ六つは憎まれざかり、七つまでは神のうち、十で神童、十五で才子、二十過ぎればただの人間……六十の手習い……など、人間の一生をつかんでいますね。小學生がおもしろがって、続々と傑作なコトワザをつくり出しています。ここにも「科学的」だけでは見落としてしまう大事なものがあると思います。植垣さんがコトワザ教育を楽しいマンガで語る本をお出しになりましたが、中三の女の子が、「これ知ってる、あ、これ知らない」と、大変おもしろがったとの話を聞いて、コトワザの時代を越えた普遍性を感じました。

**庄司** 子供たちに、そういうものに触れる機会を意図的に作ることが必要ですね。

柳田国男さんが、明治以降すたれていくものを、意識的に拾ってくれたものですから、戦後柳田社会科というものができたときに、道が一つ生まれただけです。これは、教育内容の問題で、何を教育に盛込むか、ですね。コトワザ教育も、柳田社会科の何を継承するか、の財産整理もある程度できて、いま僕が一番やりたいのは、人間一生の教育を大きくとらえて内容論として作りあげたいということですね。



一方で俗信教育—おまじない・占い・ばけものなど、今まで迷信と言われてきたものを見直して見たい。もちろん人を傷つけたり、差別を作ったりするのはいけません。これから世の中がすすむにつれて、鎮魂—魂を鎮めるということが大切になってくる。それを昔の連中は、おまじないという方法でやっていたんですなあ。科学的にはバカみたいなものですが、精神を安定させる意味では、大きな役割を果たしていたと思うんです。

## 柳田国男との出会い

—先生が成城の初等科にいらつしやって、柳田の学問にお入りになったのは、どういうきっかけからだったのですか？

庄司 昭和24年に上京して、成城小学校に勤め、何をやらうかとうろろうしていた時に、校長さんが「柳田国男さんの所で、毎週木曜日に社会科の内容を創る会があるから、参加してみたらどうか」と勧められたんです。それまでは名前も知りませんでした。初めは値打ちが分かりませんでした、昭和37年になくなられて、それから学問や教育に関する意見の素晴らしさが分かってきたんです。若い時に柳田さんと出会ったことは、以後、科学だけの教育ではいけない。科学でないところにも素晴らしいものがあるということ、今の全面教育学を考える上で、非常に貴重な財産となりました。

## 仮説実験授業を創る営み

庄司 私には仮説実験授業を創る営みにも参加して、科学教育のギリギリのところをどう教えたいのかということもやってきました。そこで科学教育が分かると、科学でない教育も分かっちゃったんですなあ。

—この号の前に「家庭科、何を評価するのか」をテーマにして、家庭科の先生からアンケートをいただいたのですが、ある方がとても面白いことを書いて下さいました。家庭科の教師になったときは、家庭科が実用教育と見られているのが悔やしくて、他教科なみに科学的でありたいと躍起になっていた。ところが、いま家庭科は科学的だけで割切ることができないことが分かってきた。むしろ家庭科で一番大切な問題は、科学を越えたところにあるように思う。科学的に、と願っていたときは、テストの問題も作りやすかったが、いまはとても難しく、容易に作れない。学校ではテスト問題の作り方の遅い、だめな教師、トロイ教師ということになっている。テストには、私への注文でも、授業への感想でも何でも書いていいスペースを設けているが、ここを読むのが一番楽しい、というのです。今の学校教育の一面的であることを、よく突いた文章だと思いました。

庄司 いやあ、それはすばらしいですなあ。

——先生が仮説実験授業に熱心に取り組まれて、科学教育のギリギリのところは分かった。が、科学教育だけではつかめない世界に気付かれて、そこに目を向けていらっしゃった。そして逆に科学教育が分かったとおっしゃったことは、アンケートに言葉を添えられた方と共通するものがあるように思えたのですが…。

庄司 そういうふうに進んでこられたのは、いいですなあ。

### 「評価」ということ

庄司 僕らも仮説実験授業に取り組んで、これがいいのか悪いのか分からないという時は、評価によって確かめて見なければなりませんね。だから評価は、自信のない時にはしなればなりません。しかし、人間がどう生きていくかというような問題に対しては、評価などしていいのか、ということなんです。そういう問題に対しては自己評価が一番いいのではないのでしょうか。家庭をつくるということについて、自分はこのままで考えるようになった、ということは、自己評価が最もふさわしいんじゃないでしょうか。

——ほんとにそうだと思います。

庄司 そちらは指導要領に浮かび上ってこないところですか。な。

——家庭科では、十何歳まで育ってきた家庭なり環境なりが

あるわけですね。一人ひとりの生徒がそういうものを背負っているのに、一斉に同じことを学んだからといって、同じ考えを持つことはない。そう思うと、テストで計れる面には当然限界があるわけです。評価については、このことを前提に置かなければなりませんね。

庄司 どうして評価しなければならないか、ということですね。本当は、子供がどう受けとってくれたかを知るのは、教師の側の問題ですね。僕らが仮説実験授業でやりたかったのは、そのことなんです。子供が50点しか取れないといったら、相当こっちが責任を取らなきゃいけない。

### 「学ぶ」ということ

——「学ぶ」ということのとらえ方が違うように思いますね。「生涯学習」でもそうですが、学んで何かの資格を取るとか、資格を取るためのテストに合格するとか、何でも数字で判断したり、自分にとって得する資格を得たりすれば、学んだことになる、というのが、今の社会の常識になってしまいましたが…。

庄司 それも学ぶことの一つでしょうが、資格社会の中でそっちが先行しちゃうと自分を見失ってしまうでしょうね。

——確かに自動車の運転免許を取るという時は、そのための資格試験に合格しないと、命にかかりますから、「運転免

許を取るための学び」というものもあるでしょうが、その面だけがさばってしまうと、大切なものを見失ってしまうように思いますね。

**庄司** 幼稚園から始まって、学校教育に、自分の思想を形成させるような営みが乏しかったのでしような。大学に行けば自分のしたい学習ができるのかと思ったら、そうではなかった、という学生もかなりいますが、これも資格社会下の大学教育の姿ですなあ。

——私も母校で、家庭科教育法を担当していますが、学生のレポートに、「何時になったら、家庭科の授業の仕方を教えてくれるんだろう。他の大学では、もうすでに授業の仕方を教わっているのかもしれないのに。教育実習に行っても、採用試験を受けても、不利になるんじゃないか、とイライラした。でも、半年学んできて、教え方を教わっても、それでは力にならないことが分かった」というのがありました。

最後に模擬授業をするのですが、この時、学生は本当によく学び、「大学で一番学んだのは、模擬授業の準備をした時だ」との感想もありました。右から左にすぐ役に立つことだけを教わったり、教わらなければできないと思ひ込んでいた学生にとっては、ハツとする体験だったようです。

**庄司** 授業における主体性というのも、そういうことです。僕は大学で、教育原理を教職課程の学生に講義していま

すが、「授業では、相当自分のやりたいことがやれるんだよ」ということを分かせたいと願っています。「教育とか、授業とかを手玉に取るようになってほしい」と…。

教師は、現場に出て、子供に向きあい、授業をしていくなかで自分の勉強の足りないところ、もつと突っ込んで学びたいところが分かってくるんですね。そこで自分のテーマを持つて研究するというのが、本当の力になるんです。それは、僕自身、成城の小学校教師になったあとで学んだことが本物だったので、そう言えます。いま初任者研修とか言っていますが、お仕着せの学習では力がつきませんね。

——学校教育を終えた後、生活経験を重ねる中で、本当に学びたいことができた時、ややこしい条件抜きで、誰でも、何時でも、どこでも学べるように保障する、というのが「生涯学習社会」なら素敵ですね。先生方も、現場経験を七、八年積んだら、自分のテーマを持って、大学で学びなおすもよし他の職業についてみるもよし、外国で教えたり、国の内外を旅行したり、地域社会の一員として、ボランティア活動を体験したり…。豊かな体験を持つことで、再び教室にもどった時、いつそいい授業ができる。こんな考え方がごく一般的になるなら、「生涯学習社会は、バラ色」と言えるのでしょうか…。

## 「法則化運動」について

**庄司** そうなんです。それを何でも一斉に、というのが上の方の考え方で、もつとも、それほど信頼されてないということも、あるのかもしれないが……。「法則化運動」の人達もかなり一生懸命やっています……。

——「法則化運動」にはかなり批判があり、私も問題だと思っていますけれど。

**庄司** そうなんです。全面教育学研究会の人達でも、支持しているのは僕くらいで、あとはみんな反対なんです。

——そうでしょうかとも。

**庄司** でも、法則化の人達はかつての師範教育時代に作られた教育技術とか、名人・達人といわれる人の教え方に学び、それを何らかの形に残していくというのは、すばらしい仕事ですね。しかもそれをやりはじめたのが向山洋一さんという現場の先生だったので、早速に支持したんです。私もかつて小学校の現場で教育技術にすっかり悩んできたし、何とか先人のそれを残したいとも思っていたもんですから。それに仮説実験授業に似たところもありました。ただ「仮説」と違うのは、誰でもやれるという域を越えて、名人とか、プロとかを目指すと言うんですなあ。そこにちよつと違和感を覚えています。

——私もテレビで跳び箱を誰でも跳べるようにする指導を見ましたが、細かいステップを考えたもので、その手順を踏めば誰でもできるという、あれなどは面白く思いました。

**庄司** 授業を自分で運営するには、何だ、そうすればいいのか、というものは一杯あるわけで、そういうものは早く習得して乗越えていけばいいんじゃないかと思うんですよ。手玉に取ればいいんです。

世阿弥が「花伝書」のなかで、花を咲かせるという具体的イメージで、教育論を唱えていますね。

七歳——心のままにせさすべし

一二、三より——わざをば大事にすべし

一七、八より第一の花失せたり

二四、五——さだまる初めなり

三四、五——盛りの極めなり

四四、五——よき脇の為手を持つべし

五〇有余——花は残るべし

若さで舞台に登ってきた時に拍手喝采を受けるけれど、それにおごってしまうと、第一の花だけでは続かなくなる。その時は技術習練でカバーしろと。そして真の花を咲かせていく。そしてついには、世阿弥は、口伝のなかで「花とてべち（別）にはなきものなり」と言っています。僕は、それに「悟りの花」という名をつけたんです。若さの花、真の花、悟り

の花：世阿弥が五十近くになって到達したのが、花って別になり、ということだったんですな。しかし、真の花を咲かせるまでは階段のような稽古のプロセスがどうしても必要なんですね。

「教育技術は、法則化できるほどに研究したほうがいいよ。植垣さんのコトワザ教育で、第一時限にどう入っていくか、なんていうのは、もう法則化されてるんじゃないの？」なんて僕は言うんですよ。そんなわけで、僕は反対派も賛成派もだきかかえるほうなんです。手玉にとって、だきかかえてやっていくには、自分の教育哲学を固めないと流されちゃうんです。

人間をどうつかむか、学習って何なのか、をはっきり持っていれば、無手勝流で20年かかるところを、仮説実験授業なり、法則化なりで、何か月かで身につけてしまいうってこともありますから。

——「法則化」になびいている若い教師たちが、手玉に取るどころか、教組様のように崇めて、べったりすがっている、ということも、批判の生まれる一因だと思うんですが…。

庄司 いや、それはよくあることです。人間関係ですから。

### 独創的教育理論よ、生まれよ

庄司 先日、昭和時代を代表する教育理論を十個挙げてほし

いとある出版社から頼まれて、一か月悩みました。そしてアカデミックでないもの、未完成のものを挙げました。一宗一派に相当するほどのつかいものはない、とみたんです。それはこれから出てくる、と。日本には、デューイとか、コメニウスに相当する独創的なものは出ていませんね。今後、きっと出ます。『家庭科時代』の本おもしろく拝見しましたが、こういう中から、新しい教育理論が生まれるといいですね。

——先生は、教育を考えられる視点が随分広く抱擁力がおありになるんですね。

庄司 いや、僕は、一方に偏ったためにつまづいた人を沢山見てきましたから。教育というものは、いい面だけじゃなくて、戦争中の教育で言えば、人殺し集団もつくれるし、ちよつと待った！、といわなきやならない教育も一杯あるわけですよ。また禅宗の坊さんのように、人間を相手にしない教育もあるんですよ。だから教育は人間だけにあるんじゃない。草や木にもあるんだということで、全面教育学が出てきているんです。

教育がファシズムに陥らないためには、どんないい教育論にも欠点はあると思わなければいけませんね。だから何にでも学ぼうという僕の態度はなまめくると思われるかもしれませんが…。

# 生涯学習社会は バラ色？

## 生涯学習社会を

## バラ色にするには

●金森 トシエ



### 〈Nさんのこと〉

まず、Nさんという女性のことから書かせていただく。

私はNさんを知ったのは、ちょうど三十年前である。当時私は東京の新聞社の婦人部記者として働いていた。「ぬかみそから売春防止法まで」と自称していた広い範囲の仕事のひとつに、婦人面の人生案内欄の投書の整理があった。一九五九年―一月のある日の投書のなかに、二十六歳の主婦・Nさんの一通があった。

高校卒業後OLとして働き、職場結婚して退職した平凡なサラリーマン家庭の二児の母―とNさんは書き出していた。

「子どもは一歳と三歳の男児で、かわいさに溺れそうになるだけに将来の巣立ちのあと、長く続くであろう私の人生はどうなるのか……。子供たちの巣立ちをさわやかな笑顔で見送れるためにも、私は私自身の世界をライフ・ワークを持っための準備を心掛けたいのです。よい助言を……」

失業者や生活苦に重ねて夫の浮気、嫁姑など、涙と吐息の溢れる当時の人生案内への投書の中で、それは画期的ともいえる積極的な、自立の意志をひそませた内容であった。間もなく「国際化時代にむけて外国語の勉強は？」という回答が紙面にのり、そのままNさんと私は会うこともなく、それぞれの上に十六年の長い歳月が流れた。

その後のご報告をしようと、Nさんが新聞社に私を訪ねてきたのは七五年の春で、以後Nさんと私の間には現在にいたるまでつきあいが続くことになったのだが、Nさんの歳月を要約すると次の通りである。

人生案内欄の回答を胸にあためながら約十年家事・育児に専念したのち、Nさんは三十六歳で中国語の勉強をはじめた。四年後、通訳の国家試験の難関を突破したが、なお勉強を続けるための費用を自分の手で得るためと、同居の老母の看取りのときに備えて看護婦養成学校に入学し、二年後進学

護婦の資格を得て家の近くの病院で週二日働きはじめた。七年のりのNさんの報告はここまでであった。

やがて地域の主婦と中国語の学習サークルをつくり、女の人生四十からの意味をこめて「しじゅうから四十雀の会」と命名。その名のようにNさんは四十四歳で、当時社会人入学を認めていた数少ない大学のひとつ和光大中国文学科の一年生になった。四年後卒業したが、卒論に選んだ中国清代の長篇小説「紅樓夢」——その研究が、長い歳月をへてNさんがさぐりあてたライフ・ワークになったのである。

そして、念願通り老母の最後を看取り、二人の息子の巣立ちを笑顔で見送ったNさんは、いま夫との二人暮らしの日々とあわせて中国語通訳のかたわら、自分の企画で年二回の中国ツアーを主宰し、自宅や地域の文化サークルで中国語を教え、内容の濃い中国旅行のガイド・ブックをシリーズで刊行し、水泳を楽しむゆとりも持っている。

### 〈自立と「球型」の成長と〉

児童期から青少年期にかけての学校教育の時期、続く労働期、そして短い隠退期——人生五十年時代の人びとは三つの時期を単線状につないで生涯を終えた。しかし人生八十年時代の現在は、学習と労働と余暇を交互・循環させるリカレント型人生が提唱されている。Nさんは時代に先がけてそれを実行した一人といえるが、同時に私は二つのことを考えさせ

られるのである。

私は時おりPTAなどから「子の自立後の母親の自立について」といったテーマで講演を頼まれることがある、しかし子供の自立と母親のそれとは時系列のものではなく、同時進行のはずである。Nさんの場合、子と母の自立は平行してすすみ、二人の子はそれぞれ自由に自分の生き方を選択し、かつ父親（主）とともに三人の男性たちは家事をふくめて日常生活の自立能力を十分に身につけた。相互依存でたもたれる従来の日本型家族と違い、互いの自由と可能性を尊重しあうNさんファミリーは、私の望む家族像と重なるのである。同時にNさんの学習が自身はもとより家族員の自立をもすすめたことを、生涯学習のありかたと結んで重視したのである。

第二は——私たちは発達、成長、向上といった言葉を好んで使うが、とかく知能や成績さらには地位や名声や富などの上昇と結んで考えがちではないだろうか。しかし、そうしたいわば縦にとらえる成長とは別に、縦に見れば一点に止まっているように見えても、横に広がり深く掘るような成長にこそ意味があるのではないだろうか。

Nさんの肩書は十数年来「中国語通訳」であるが、学習・仕事・余暇活動を通して多くの日中の人びととのふれあいによる横の広がり与中国文化への理解の深まりを増し、Nさんの人生は縦型評価ではとらえられないいわば球型の豊かさをた

もっているように思われる。それが私に生涯学習の意味を人間らしい豊かな生き方と結んで考えさせてくれるのである。

### 〈個人・職業人・市民〉

生涯学習社会が望まれる背景には、次のような事情があるといわれる。①過去の学校中心教育が知識・偏差値の重視や受験競争の過熱・学歴社会などの弊害をうみ出したこと ②所得水準が高まり自由時間がふえ、一方高学歴化や高齢化などによって、多くの人がひとの間に若い一時期だけでなく生涯にわたる学習への意欲が高まり、かつ多様化したこと ③科学技術の進歩、産業構造の変化、国際化、情報化などの時代の動きとともに新しい知識・技術を習得する必要が高まったこと

こうした背景をふまえながら、私はこれからの生涯学習の方向に三つの柱を考えている。

①はごく一般的な、趣味・教養・スポーツなどをふくめた領域だが、仕事や自身の健康管理など日常生活の自立能力をふかめる学習とともにも必須としたい。高度経済成長期を通して私たちはモノを買い・持ち・労を省くことをよるこびとして、暮らしをサービス経済化の波に委ねてしまった。暮らしの文化を取りもどすためにも、モノを“持つ”満足感から頭と心と手足を使って“する”よろこびへ、意図的に学び技を養うことを心掛けたい。

②は職業能力を開発し深めるための学習である。ことに女性にとつて職業は若い時期だけのものではなく長い生涯にわたって比重を増し、経済的な自立と自己実現の柱となりつつある。日本の男女の平均賃金格差は一〇〇対五三、先進工業諸国中最大といわれるだけに、就職・再就職・転職・継続などさまざまな需要にこたえる学習は重要な柱といえよう。

③は前記①②に対して、いわば市民的責務をはたすための社会志向型の学習である。高齢化、国際化あるいは自然・環境の破壊・汚染化など、社会的課題は年々重さを増している。

### 〈現状適応ではなく変革を〉

女性の社会参加——家庭外活動は年々進んでいるといわれるが、全体としてみると趣味・教養など個人型参加に傾き、集団型参加でもPTA・町内会・婦人会など親睦中心が多くを占め、目的を明確にした主体的な運動への参加はきわめて低い。また、政策決定の場合の女性の参加も低く、地方議会の女性議員比率はわずかに二％に過ぎず、一方PTAやボランティア活動は多くの女性の“手足としての参加”でなわれている。

こうした現状を変えて、男女が共同して草の根の市民活動を広げ、政策を動かしていく——そのためにも③の学習を重視したいが、つけ加えたいことがひとつある。いま地域では老人福祉にかかわるボランティア活動が広がりがつつあるが、



行政側の要請・期待にこたえる形で、ときに町内会や婦人会などの動員による事例があることを、私は危惧している。老人自殺率が世界の最高位にあるように、日本の社会福祉はきわめて遅れている。貧しい福祉の現状を社会に提起し、より良い「変革」を目指す姿勢を欠く活動は現状の不備の補完、ひいては公的福祉の停滞・後退をすら招く恐れがある。

現状適応ではなく変革へ、その意識を持ち高めることを私は学習と、学習に連動する活動としつかり据えたいと思う。わが国は明治以来「追いつき型の発展」の道を、追いつくモデルの点検抜きで走ってきた。点検や変革の意識を欠く学習や行動は決して人間を幸せにしないだろう。例えば日本の男性の長時間労働の点検抜きに女性が職業能力の開発に励み、科学技術の進展が人類の幸せに結ぶか否かの点検抜きに「追いつき型の新知識・技術」の取得につとめても、それらの学習は未来を拓かないだろう。生涯学習社会をバラ色にするためには、現状適応ではなく点検と変革にむけてのみずみずしい目が何より必要ではないだろうか。

#### 〈平等と共生にむけて〉

私は長い記者生活の間に、近代女性史に関連する企画連載をいくたびか手がけた。「お母さんの百年史」「女の教育100年」「日本の人脈―婦人運動論」「女を生きる人生案内60年」など、その経験を通して私なりに考えたことを要約すると……

わが国は明治以降の富国強兵策から第二次世界大戦後の経済大国路線を通して、国家と産業が一体となって強・大・勝・富に価値をおき、発展の道をひたすらあゆみ続けた。そのため「生産」は「生活」に、「公」は「私」に優先するものとし、前者の担い手を男性、後者の担い手を女性と位置づけることによって、滅私奉公と重ねて女性差別と生活軽視の社会をつくってきた。と同時に、老人や障害者などを生産や発展に寄与しない者と見くだして社会保障制度を立ち遅らせるとともに、国民の側も貧しさのなかでそれらの人びとを厄介視し、人権に対する鈍感さを根づかせてしまった、といえる。

しかし第二次世界大戦以後、国連は人権の平等を平和の大前提として、性差別や障害者差別あるいは南北格差の是正を提唱し続けている。そしていま日本は高齢化・国際化時代のなかで自立の力の弱い後期高齢者の増加と、東南アジアなど発展途上国からの労働者増加などの現実に直面している。

性の違い、老いや障害の有無、さらに国籍や肌の色の違う人びととの平等・共生の未来にむけて、私たちはまず自らの人権感覚を問う学習を基本におく必要がある。それが、生涯学習社会をバラ色にする土壌ではないだろうか。

(Nさんは長沢信子さん。近著に「専業主婦のアフターファイブ」(主婦の友社)「中国の旅―上海・江南」(昭文社)など)

(かなもり としえ・神奈川県立婦人総合センター館長)

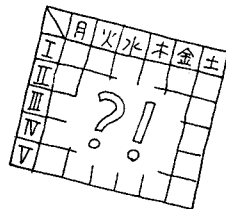
生涯学習社会は  
バラ色？

より自分になっていくための

オープンスペース——

『ミズ・オープンスクール』

落 合 恵 子



従来マイナス記号で社会的に登録されていた「女・子ども」の存在や論理をプラスに転化させたい……。私自身の表現活動の原点はいつもそこにあったような気がする。今もまさに、そこにある。

競争原理が支配するこの社会。

主権在民といえながらも、明らかに存在する階級性。

管理社会そのものが内側から再生産・助長していく更なる管理システム。

そして、そういったものが生み出す差別や抑圧、サクシュの実態……。

それらの構造に風穴をあけ、オルタナティブな文化のありようを探るアンテナは、歴史的にも社会的にも、男性社会の力学の外側に置かれてきた「女・子ども」の感受性や論理の

中にある、と考えてきた。

むろん、この場合の「女」とは、性別「女」に限定することはない。

現行の社会のありように何らかの疑問を抱き、女性のために、というより、自らのために、女性と対等な関係性を創りだそうとしている男性もまた（まだまだ少数派かもしれないが）、彼の内なる女性性、という意味においては、「女・子ども」のグループに入るだろう。

最近、「表現」という表現が、いたるところで目につく。

個人的に、「表現の自由」とはまず、それぞれの私たちが可能な限り捉われず、決めつけられず、既成のものではない自分の価値観で「自分を生きていく」、その「選択の自由」である。そう、私は解釈している。

ひと握りのジャーナリストやもの書きや芸術家のために、「表現の自由」があるのではない。

それぞれの「私」——女も男も子どもも老人も、障害者も健常者も——が、国籍や性別、思想や信条などによって分断されることなく、対等に自分自身を生きていくこと……。

選択を保障され、多様を等身大で認め合った、それぞれの「生」の自由。生きていることの自由と権利こそ、もつとも大きな「表現の自由」である。

そんなふうに、私は「表現の自由」を考えている。

むろん、それぞれの「私」が、十二分に「私」を生きっていくことは、とても難しい。

第一、「私は一体、誰なのか？」という問いかけに、正確に答えられる人は決して多くはないだろう。

あるいは、「私は一体、どういう私になりたいのか」という問いかけにも。

「あるがままの『私』で、なぜ悪い？」

抑圧された歴史の中から、「私たち」はそう声をあげてきた。

社会や歴史や国が求める「私」に「私」を合わせたくない……。

私もそう思う。長い間、女性は眺められ、ランク付けされ、評価される「対象」であつただけから。

けれども、「あるがままの私って、一体どういう私なのかしら？」

さらに問いを深めていくと、コントンとした「私」しか見えなくなる。それはそれでいいのだと思う。コントンとした状況、ムジューンも丸ごと抱えこんで、「私」なのだから。

しかし、その「私」が、より「私らしい私」になりたいと望む時、「私」はどうしたらいいのか。

九月に開校する『ミズ・オープンスクール』のコンセプトも、そこにある。

抽象的に言うなら、「私がより私になっていくための」オープンスクールといえる。

「教える者」と「教わる者」という従来の対位関係から、「共通するものを抱きつつ、個を生きるそれぞれの私のランデブーの場」。

そんなふうに考えている。

十三年間、子どもの本の専門店クレヨンハウスを、青息吐息の中で、それでもどうにか続けてきた。子どもを巡る文化を考える切り抜き情報誌『月刊子ども』、保育をひらく方向で考える月刊『音楽広場』も、これまた経済的な意味でも青息吐息の中で、どうやら発行し続けている。

三月八日、国際女性デイには、クレヨンハウスの三階に、女性の本の専門店（ウイメンズ・クラフトコーナを常設）ミ

ズ・クレヨンハウスもスタートさせた。どれもこれも、国内はもとより海外も含めて、多くの個々の女性たち、またグループの方々の惜しみない協力に支えられ、励まされてのスタートであり、続行である。

そういった活動の中から、ごく自然に出てきた声が、前述のミズ・オープンスクールである。

準備に手間どって、スタートが遅れ、ようやく九月開校ということになったが、ミズ・オープンスクールと一緒にやりませんか？ という私たちのメッセージに、嬉しい応援歌が昨年から次々に寄せられた。そのうちの幾つかをご紹介します。

○学校はギリシャの昔から、男の、男による、男のためのものであった。女の、女による、女のための学校は学校のみならず、知のパラダイムを転換させる。

○特に職業をもっていないために社会的活動をする機会に恵まれない女性たちが、講座をもつことによって可能性をのばすことができる。おおいに賛成。

○おとなの女が学ぶということは、一番大事な事であり、自己を素直に誠実に生きること、個性的に生きる事であり、表現する事である。それは、人間がもっとも生き易い生活を模索することへとつながっていく。

○ふだん言えないことを、ここなら発散できる。そんな場所

がほしい。

○こうした試みははじめてのもので、学びたいと思っている私は大歓迎です。教え教わる関係性が自由にくみかえられるような、権威と無縁の学び合う場所が誕生するよう心から期待します。

○女の中から見た「女自身の意味」を、わたしたちは充分には知りません。自分が「生きている」ことを主張できる言葉、情報をあふれさせる必要があるでしょう。そういう場としての女の学校がたくさん必要です。わたしも作りたいと思っています。

等々……。 「運営」や「経営」面を心配し励ましてくださるメッセージも含めて、山積みの不安を前にした私たちを元気づけてくれるメッセージが次々に到着した。

また、「教える者」「教わる者」という対位関係を越えたところから、講師としてご自分をノミネートしてくださった方々、また「この人のこの講座を！」と他薦してくださった方々も多勢いる。

九月からの第一期ミズ・オープンスクールの現在決定している講師及び講座内容（講師の都合等により、若干の変更はあるかもしれないが）をご紹介します。

○赤木かん子さん・「女性が読んでも面白い子どもの本とマンガとSF案内」。第一回、児童文学の中の自立した女性の

変化。

○宮城好子さん・「目あきのための盲人手引きの仕方」。彼女は講座について次のように書いてくださった。……「盲人の仲間入りして二十年……。五感で空間を感じる作業体験を通して」の講座にしたい、と。

○鈴木美和子さん・「生物学的にみた女と男」。生物学的性差をそのまま社会的意味に直結させる傾向が強いが、自分で価値判断するための素材提供の場としたい。

○丸本百合子さん・「女の立場からの産婦人科講座」。産婦人科医療を受けたい時、その内容をよく知ることができるように、また女として自分のからだと親しくつきあえるために……。

と、ここまで月曜日から順次、講座内容と講師名を書いたが、枚数が残されていないことに気づいてギクッ。お名前と講座名だけを以下、列記させていただく。

○富田満帆さん「自己を文章で表現して、深く、自己に素直に、個性的に生きる」。○馬淵恭子さん「ニュー・カウンセリング——感覚の覚醒」。○青木やよひさん「もう一つの生き方を求めて」。○高橋喜久江さん「売買春問題——買春構造の分析」。○向後友恵さん「放送作家入門——TV番組のつくられ方」。○東由美子さん＆女性建築技術者の会「住宅の設計とは？ 住宅の設計を通して家族を考える」。○北沢杏

子さん「さあ、性について語ろうよ!」。○井上治代さん「長男長女社会、離婚非婚時代の氏と墓」。○鈴木ユリイカさん「詩を生きる」。○吉廣紀代子さん「シングルライフの充実と発展」。○小室加代子さん「フリーライター・キャッチアップ・ゼミ」。○宮淑子さん「産まない性」を考える。○田嶋陽子さん「映画に見る母と娘の関係」。○福島瑞穂さん「フェミニストからみた法律——女・子どもと家族法」。○渡辺澄子さん「近代日本文学——女の苦闘のすがたをたずねる」。○富原真弓さん「マージナル・フェミニスト文芸批評」。○藤本由香里さん「少女漫画は社会の鏡——性・家族・自己意識の変遷」。○青木悦さん「子どものためと自分の人生」。○長谷川啓さん「現代日本文学にみる家族と性のゆくえ」。○秋山洋子さん「女の目で中国を読む」。○松本キミ子さん「写真で自己表現の道具として楽しむ」。○松本キミ子さん「誰でも描ける“キミ子方式”の水彩画」。○中井浩子さん「小さなお店を開く——その哲学と方法」。その他、開期変更のため、現在連絡中ではあるが、第一期の講座として、福本英子さん「バイオ技術時代を読む」、西山景子さん「体験にもとづく新人類の男女差別意識」、ヤンソン由実子さんや河野貴代美さんも講師として参加して下さる予定である。

(おちあい けいこ・作家 クレヨンハウス主宰)

# 生涯学習社会は バラ色？

## 『さらば、履歴書！』

— 学歴社会を

裏側から崩すには② —

保坂展人

学校を離れて生きるには、そのための知恵と方法がなければならぬ。

「学校信仰からの解放」が語られ、「学校を離れて生きる」ことの意義が説かれる。現実に大勢の子どもたちが今、この道を選びつつある。

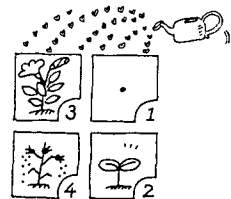
ところが、理念や書物の力には限りがある。勢いよく「学校よ、さらば！」と離陸してしまった子どもたちには、着陸地点を示す地図もコンパスもない。このまま「時間」という燃料を食い潰していくと、不時着しか手段を選ばなくなる——という焦りにかられている若者たちも多い。

どこへ翔ぶことができるのか——を、ここでは読者と共に考えてみたい。かくいうぼく自身、今から十七〜八年前に十五歳にして「学校」を蹴飛ばし、その後は定時制高校へと通ったものの三年目にして中退している。真正正銘、わが身で

体験したことを基本にして「学校」を蹴飛ばして生きる方法を提案してみたい。

「保坂さんの肩書は何ですか」「定収入はどのようになっているのでしょうか」などと聞かれると、答えに窮することがある。ここ数年の仕事をつりかえっても、「フリーライター」「雑誌編集」「単行本の企画編集」「ビデオドキュメント・ディレクター」「テレビドキュメント企画構成」「音楽事務所」「イベント企画」「ツアー企画」等々で、どれも入り乱れていて「本職」「副業」の区別はない。

ぼく自身は、現在は「学歴社会」の重圧などまったく感じていない。マニュアルづくめの企業人間たちが、逆立ちしても届かないだけのオリジナリティーを身につけてしまったからだ。いわゆる「学歴コンプレックス」など、ひとかけらもない。自分の言いたいこと、やりたいことを仕事にしていく



のだから、常に気をゆるめることはできない。大丈夫だろう  
と思つて始めた企画が失敗に終わつて「赤字」を出せば、他  
人のせいにすることはできない。自分の考えた企画にスタッ  
フとして協力してもらつた人たちには、たとえその企画が失  
敗に終わつても謝礼を払わないわけにはいかない。

これまでにも何度か大きな失敗をしてきた。主に「イベン  
ト」によつて生まれた赤字を埋めるために一年半から二年か  
かることもあつた。けれども、青生舎という事務所を二十歳  
の時に設立して以来、十年目にしてどうにか若者たちにひら  
かれたスペースを維持して、家族と何人かのスタッフが食べ  
ていくだけの経済体制をつくることができた。

お母さんたちのグループが主催する講演会などの会場で  
「保坂さんは、どうやつて収入を得ているのですか」と聞か  
れると、こんな具合に説明する。そうすると、三回に二回は  
こんな言葉が返ってくるのだ。

「やつぱり才能のある方は学歴なんか関係がないですね。  
でも、うちの子どもはいたつて平凡ですから、保坂さんのよ  
うにはいきませんね」

つまり特殊なケースとして認識します——というわけなの  
だ。「才能のある方」などと一見、ほめられたようでくすぐ  
った気分だが、よくよく考えてみると才能というよりも  
「思想」と言つて欲しいと思うのだ。

地図もコンパスもない。ただ、一日一日を働いて過ごすだ  
け……という日々を、ぼくは重ねていた。十代の後半の二、  
三年間、骨と皮だけになつても「意地」は残るといふ毎日だ  
つたのかもしれない。思想なんて、おおげさに言つてしまつ  
たが、どんなに孤立していても、また展望がまったくなくな  
うと意地だけは張り続けることが、ぼく自身の中の闘いで  
あつたのだ。

内申書と共にぼくは「学校」を捨てた。そのためには、何  
もかも自力で学び、また人に頼ることは許されなかつた。誰  
が？ ぼく自身である。「学校」を捨て、また「学校」的  
なあらゆる制度(専門学校・大検・留学等)にも背を向けて、  
さらに経済的に親に頼ることをせずに、ただただ突っ張つて  
いた。

今から考えると、何故にそう頑なであつたのか不思議なく  
らいだが、「学校」を捨てた地点の「純度」を維持しなくて  
はならないという変な使命感があつたのかもしれない。

この頃、毎日のようにぼくはノートを持ち歩いてた。そ  
して、仕事の昼休みに、また夕方の一時に、喫茶店にかけこ  
むとノートを広げて、ボールペンを握りその日のページを埋  
めていた。何も書くことがなくて、自分はどこにいるのか、  
自分はどこに行くのか……をずーっと腕組みをして考えて  
は、一行書き、また考えては二行書きという速度だった。

ゼロから考える……そのための訓練としては、これ以上のものはなかった。ノートは、いつやら地図の輪郭を見せ出して、いくつかの冒険の決意をぼく自身にうながしていったのだ。「ただ考える……」「考えても何もなければ、その何もないこと自体と対決する」そうして、ぼくはぼく自身の習慣を作り上げていった。

文章については、こうだった。誰の影響でもない、自分自身の文体を作りたいと思っていたぼくは、一字一句をジグソーパズルのように組み合わせ、自分で納得がいく文章になるまで何度でもノートに書き入れていった。別に作家やフリーライターになるための訓練をしていたわけではない。この点は若い読者に分かってほしいところだが、ぼく自身はひとつの掟を自分の中に持っていた。

新聞や雑誌に寄稿してくれという話が来ても、あるいは本を出さないかという誘いがあっても、それを基盤にして「原稿料稼ぎはしない」という原則だ。十八歳の時、たった一度だけ四百字詰原稿にして五十枚の原稿を書いたが、その後の二年間は何も書かなかった。

ぼくは、もともと「知識人・文化人」という人たちが嫌いだった。ぼくの父親がその気が少しあることもあって「文弱の輩」にはなるまい——と決めていた記憶もある。また、自分の書いた文字を活字にして、人さまに読んでもらうのは恥

ずかしいし、まだまだそんな時期ではない——という「自己規制」がはたらいていたのかもしれない。

おかげで、ぼくは二十一歳の時に印刷屋をやめるまでに二十数種類の仕事を転々とし、まあ日本中どこへ行っても、自分の力で仕事を探し、また食っていけるだけの自信をつけることができた。これは形のない財産である——失業を恐れない精神的な根拠があれば、その人は「仕事を選ぶ」ことができるからである。

文章を書いて稼ぐことを始めて、ちょうど十年になる。その間にぼくは、一回も「後味の悪い仕事」をしていない。取材先もテーマも、すべてが自分にとって興味のあることであり、そうでなくて企画内容に納得できない時には進んで断ってきた。

もうひとつは「持続の力」ということがある。このスピードの早い世の中で、多くのことが一挙に語られたかと思うと、また急速に忘れ去られていく。ぼくは、中高生の立場に立って、彼らの声を聞き続ける——という点では、一貫してその作業を積み上げてきた。

気がついてみたら、もう十年その作業を続けたことになる。また、この十年間に青春舎に届いた手紙約七千通は、すべてファイルして保存している。これもまた貴重な同時代記録だろう。地道にコツコツと積み上げていくことが、ぼくの



仕事の基礎にある。

今の日本社会では「学歴社会」の表はより強固になっているが、裏はますます柔軟になってきている。物を作る仕事は基本的に実力主義であり、その人がいいものを作り出すことができれば、注文は来る。ぼくは、表からのルートは最初から捨てているので、裏道の専門家となってしまった。半ば本能的に仕事を捜し出してきてしまうから、なかなかその道の案内は難しい。表と違って、標識も確かな地図もないので、この道を行くのはカンやコツがいる。ただ若い産業であればあるほど、学歴や経歴にこだわらないということは覚えておいた方がいい。たとえば、コンピュータのソフト産業など実に多くの高校中退者を吸収している。

技術が基本となり、一定の水準によってプロと認定される仕事にも、学歴はない。たとえば、カメラマンは写真専門学校を出たからと言ってなれるものではないが、素人でもある角度を持って写真を撮り続ければ、ある「水準」に達した時にプロとなる。イラストレーターやデザイナーなど、いわゆるカタカナ職業もこの分野だ。

運転免許を持ち、車を運転することができれば、いささかの危険はあるが運転手としての仕事はたくさんある。街の風景の一部となっている宅配便のミニトラックで、さまざまな家や会社を見るのもいいだろう。

自分にあつた仕事が見つからなければ、とりあえず「いろんな仕事」が見える仕事をやればいい。ぼくは、アルバイトニュースの集金人をやつて、なんの仕事でもこれからするかを考えてみようと思つたこともある。

どんな仕事でもいい。働ける人は、今すぐにも働いてみるのだ。自分の時間なんて中途半端に持っていないで腐るだけだ。働いて、自分の身体と時間を使い、それでもなおやりたいことが残っていれば、それが本物の君の欲求なのだ。その欲求を確かめながら、まとまつたお金を作り、一挙に実行に移せばいい。

ゼロから組み立てる楽しみは、絶対に企業人間には味わえない楽しみだ。この楽しみがあるのだから、たとえ失敗したつていいじゃないか。「学校」を捨てたら、もう二度とふりむくまい——とぼくは、自分の道を歩んできた。今、そのことに何の後悔もない。

二、三年間、苦しいバイト生活で悩んでいた期間があつたからこそ、今、どんなチャンスも無駄にしないで動き出す「生きていくためのアンテナ」が発達したのだと思う。

失敗と寄り道と無駄なことが、生きるための知恵と勇気と技術をつくり出すのだと思うのだ。自分の生き方を作るために、楽しい挑戦をあちこちで始めて欲しい。

(ほさかのぶと・フリーライター)

発

言

学びにかかわり続けて



篠田 登美江

学校の教師、そして教育行政に携わった四十数年であつた。現場から離れて、あらたに見えてきたものが多い。たまたま、国の教育行政が、巨大な構造的汚職に巻き込まれている折柄、永年こたわり続けてきた問題を改めて見つめていく。それは、教育の営みと、それに対応する学習の成立についてである。

極めて素朴な表現であるが、私はよく「ホンモノの学習」という言葉を使った。「ホンモノの学習。あなたの口癖ね」と人は笑う。

教壇にあつた頃、私は、子供たちに与えることのため、あるだけのエネルギーを燃やしていた。教師は意義を信じて与える努力をするが、彼らには、受けとめる意志が必ずしもあるわけでない。いったい彼らが行う学習というもろもろの作業は何なのか。その作業は、彼らにとってどんな意義があるのか。よく、こんな自己矛盾にとらわれていたものだった。

——生涯学習ファッション——

のちに、社会教育でいう学習機会に触れるようになって、私の『学習』探究は、ますますふくれあがった。

冷暖房完備、カフェコーナー付き〇〇教室や、華麗な催事セットのセミナー、交通費支給の△△講座等々、近頃、生涯云々と名付けられた事業が巷に溢れ、華やかなキャッチフレーズが人々の好奇心をそそる。今や生涯学習は一種のファッションである。人々は、これに接触することで優越感を味わう。この傾向は、政府の生涯教育施策の実施とあいまって、ますます助長されるやにみえる。ところが、これを享受できるのは金と暇のある人々に偏り、そうできない人との格差が生まれつつある。政府の施策が、この歪み是正に及ぶものであれば幸いだが。

さて、ファッション化している学習に問題はないだろうか。へいいつでも・だれでも・どこでも」という、生涯学習を象徴

する文言がかえってそれをイージーなものにしているようだ。why (なぜ) を抜きにして、時には what (なに) までもとびこえて、安易に行動を開始する人が多い。「生涯学習」もインスタント食品なみに、日本中に蔓延するのだろうか。

インスタントな生活に馴れた人々は、とかく面倒なことを避けたがる。何ごとによらず、即席で入手できることは便利だ。しかし、そこには自分がない。他人の意志に無意識に従うことになる。自己形成につながる学習活動に、これを当てはめることはナンセンスである。

人が、それぞれの暮らしや人生に意義を求める学習なら、面倒でも土台作りから自分でやらなければならない。自己の点検に始まり、自ら開拓し、創り出すプロセスを迎えるのだ。そのプロセスこそが学習と呼べるものではないか。

国の教育政策が、ファッションに流れそうな生涯学習に歯止めをかけ、人々の生涯に価値をもたらす学習を保障するなら、壮大な施設や独善的なシステムはいらない。考える時間と場所、そして考えるための公正な情報があればいい。

### —— ささやかな実践 ——

生涯学習とは、『今日、人々が自己の充実や生活の向上のため、その自発的意志に基づき、必要に応じ自己に適した手段・方法を自ら選んで行う学習』をいうと、昭和56年の中教審の答申は言う。

この答申は、学習を、人の自律的行為とおさえている。今、巷を彩るカルチャールックではないものと理解してよいだろう。しかし、言うは易く、行方は難しで、実際にどうするかはなかなか難しい。人々の多くは、やらされること(教育)に馴染んできた。自発的といってもものつてこれない。のれないどころか、学習とは、やらせていただけのものと決めこんでいる場合が多い。

そうした状況の中で、現在、私はささやかな実践を試みている。一昨々年、私財を投じて「やすらぎと学びの家・花実舎」を開設した。年来の課題の実践研究の場としてである。以下、試行中の事業を紹介しよう。

・相互評価の書道クラブ(花実書道クラブ)

文字の書き方を教授するのではなく、各自の作品の相互評価を中心に、関連した芸術・文化論を交換する。

・私と私の生きた社会を書きとどめる会(田舎の会)

自己啓発を図るために、自分とその環境について文章化しこれを素材に討論を行う。この発展である女性史研究会は調査研究や著述も行う。

小さな雨滴にも似た実践が、大河の流れにどうかかわれるか測ることはできないが、一人の人間が終生追い続ける課題は、社会にとっても意義あるものと信じつつ。

発

言

## 私の生涯学習

——男女平等社会を目指して——

小池 寿哉

豊富な自由時間——何でも好きなことのできる時間——何と素晴らしいことだろう。十五年前、定年退職して得たこの喜びを、二倍にも三倍にもして夢と希望の人生を生きたい——私の胸は大きく膨らんだ。自由な身になって、いわゆる外野席から世の中を眺めると、わからないこと、矛盾していること、不平不満、憤りが頭の中がおかしくなる程一杯あることに気付いた。特に以前から私の心をチョクチョクつつついていた男女差別の問題が、目の前にクローズアップされた。

「女性問題や教育問題について、話し合いや講座でもやってみませんか?」。早速公民館へ行つて相談してみたが、「かたい話はさっぱり集まらないですよ」と軽くあしらわれてしまった。静かな田舎——しかも封建性の強い農村では無理なのかなあ!! とわかる気もしたが、でもこのままではいつまでも前進がない——こんなとき、新聞で、新潟市に「家庭科の男女共修を考える会」があり、半田たつ子さんのお話があ

るということを知り参加したところ、女性問題に対する関心度が一層強くなり、そうだ、この会で勉強しようと、私の学習の第一歩が始まった。しかもちょうどこの頃、同じ新潟市で「PTA問題研究会」を作るとの話を耳にし、期せずして最も関心のある二つの勉強を、都会的感覚にふれながら学ぶことができ、欣喜雀躍した。そして月数回ではあったが、充実した学習を約五年つづけている中に、そうだ! 地元の皆さんと一緒に勉強しようと、この五年間で培われた勇氣と積極性と、併せてボランティア精神を発揮して、県内各地から、時には東京からも講師をお招きして、教育問題を主として講演会や話し合いを始めた。そこで改めて女性問題には教育も大きくかわっていることを痛感し奮起した。

今、女性は、芸能、スポーツその他のいろいろの分野でのサークル活動、そして平和運動、消費者運動と自由に参加し活



躍している。ある一面では解放され、また法的な面でも男女平等に向かって素晴らしく前進しているけれども、社会通念など別な角度から見ると、少しも進歩がなく、腹立たしくさえ感ずるのである。特に女性には、古くからの男社会の慣習を、無意識の中に容認しているかに思われ、旧態依然とした「らしさ」「べき論」に甘んじ、それを当たり前とする風潮は悲しいことである。私は今、かくれた差別を掘り起こし、みんなと一緒に勉強したいと思っていることがある。

●「父兄」ではなく「父母」と言おう ●保護者とは父親だけなのか ●市町村発行の広報などへの誕生のお知らせは「父甲野一郎 長男太郎」ではなく「父甲野一郎 母花子 長男太郎」と両親名で ●コンピュータ作成による家族名寄せの子供の順序が、男が後から生れても、女の先に記入されているものもある ●学校の名簿や、運動会、入学式、卒業式等の入場は、いつも男子が先である ●葦山高校問題は、ウヤムヤになっていないか。

これらについては、日常生活に支障をきたすわけでもないし、そんなことまで考えなくても——と言われるが、そこが問題——こんな差別にも「オヤッ!!」と感じ、「変だわ!!」と発言する女性がなげいないのだろう。各地の婦人会長さんに力説しても、「そうだ!!」と腰をあげていただくまではまだだである。婦人大会、PTA、教育研究大会等には可能

な限り参加し、学習の機会をねらっているが、女性だけの集りでは黒一点、いや白一点でちよつと羞ずかしい思いもする。女性問題を論ずる場へは、もつともつと男性も参加しなければダメである。

意識改革は大人になってからでは容易でない。幼い時から環境と教育が如何に大切であるか、特に小中高の一貫した家庭科の共学に力を入れる必要をひしひしと感じている。最近の若い女性はラクをして生きようと、専業主婦的志向がまた強まってきていることを聞き、いたたまらない気がする。

高校の家庭科教師を退職した妻が、「高齢化社会をよくする会」を作りながらよく夫を理解し、テープをとって来てくれたり協力してくれ、妻と二人の家庭学習の夜のひとときは、素晴らしく楽しいホームルームの時間である。男社会から男女共生の明るい社会の実現のために、いろいろな角度からいろいろな方法で学習と活動をつづけ、一日も早く真の男女平等の社会を実現させたい。北国の一僻地からのこんなささやかな声でも役に立つ時が——と希望をすてず、訪問学習に、話し合いに、そして投書でと、勉学にいそしんでいる。

「校長先生!! また来ました!!」

「婦人会長さんいらっしゃいますか!!」

私のちよつと変わった学習が今日もつづく——

発

言

## 農業の中で学ぶ日々

戸西葉子



我が家が三ヘクタールの柑橘園を放置して、トマトの水耕栽培に切りかえて七年経つ。

すでにみかんは昭和四十年代後半には、全国的に過剰となり、毎年のように市場価格は生産費を割り込んでいて、貯えが底をついていたためである。

私の住む和歌山県かつらぎ町には、何代もみかんを栽培してきた農家が多く、大半の人たちは、不安を感じながらも完全に放棄することなど考えもしなかった時だけに、細かい心配りを必要とする野菜に切りかえる私たちをこわごわ眺めていた。

私は私で、先祖のみかんへの思い入れを重たく感じていたのは事実だし、枯死してゆくみかん山を想像するのは、つらいことだった。

しかし、一方では雨や風にじやまされないで作業できるといふのはうれしかったし、第一、みかんの重量から肉体的に

解き放たれるという楽しみは大きかった。

その上、百姓につきものの雑草との闘いをしなくてもすむ。さらにみかんより儲かるといわれれば、期待はいやでも膨らんでいた。

施設栽培の利点は、播種の時期を市場の品薄になる時に合わせて出荷調整できることである。

「トマトの水耕栽培」というと、たいがいの方は、一株に二万個の実をつける話題の栽培法かと問う。

そんな方法がどんな農家に普及しているのか知らないが、我が家の場合は年二回、苗を育て収穫する方式である。

たしかにみかんより軽い、たしかに雨でも作業できる。そしてトマトの株を雑草から守ってやる手間もいらぬ。

しかし、七年間そのつど三千株のトマトとつき合ったのに、正直な話、いまだに「トマトはよその子」という気持ち

最近になって、これが人工的な干渉に対する植物が示す正しい抵抗のように思えてきた。実際、完全に管理されている水槽の中で、根はのびやかに波うち、作業が追いつかないほど水上部の生育も早い。

しかしちよつとでも注意を怠ると、収穫寸前でも病気にやられたり、水環境に敏感に反応して全滅することもある。

私たちの手に、育てる喜びや収穫の満足感を全く残さず、あっさり枯死してしまうのである。まるでトマトたちは、自分の本当の居場所を求めて、家出する子どもに似ていると思うことがある。

そんなとき、この地球上に人間と同じ重さで生きている「生きもの」としての強い意志さえ感じられる。

最も生きやすい温度がセットされ、過不足のない栄養が与えられ、病害虫から保護されていても、細心の管理の網の目をくぐって逃げるのだから、トマトにとって不幸な状態なのかも知れない。

農業というのは本来、作物が生きたいと願う場所や、発芽しやすい土壌に種を播く仕事ではない。太古から植物が調和を保って快適に暮らしていた森林を倒し、人間が人間のために選んだ植物のために環境を整備してきたに過ぎない。

これを人は、人間の生命に関わる大事な仕事として正当化し、「作る」とか「栽培する」と呼んでいる。

植物の意志を考えずに植えた作物は、人間が手を離すと勝手に生きてゆけなくなる。従って無理に生かそうとすれば、連続して労力と経費をつぎ込む覚悟がいることになる。

今、世の中は暮らしの多様化時代なのだそうだ。食べものも「おしやれ感覚」や「ファッション性」のあるものが求められる。季節の運んでくる香りや味だけでは対応できなくなつてしまった。

この市場や消費者のニーズとやらに比べて、農の現場もめまぐるしく変わっている。

子や孫の代を見越して木を植えるというような農業ではやってゆけない。まして作物と息を合わせてなどいられないのである。

今年、この地域でも大量のみかんの木が切り倒され、代わりにビニールハウスの棟が増えた。モモや柿を覆ったものもある。イチゴや菊は夜通しライトを浴びている。ナスもキュウリも旬をはずすことを目的として栽培されている。

人間の味覚はそれほど高度ではなく、食べなれたものをうまくいと感じるのだと、どこかで聞いた。

「グルメブーム」の目指す先は、実は味もにおいも画一化した味覚にあるのかも知れない。食べる方もつくる方もそのために大金をかけている現象という、言い過ぎだろうか――。

## ◇学習の主人公たち◇

### 学ぶ主人公

#### ——生きる主人公



小金井市公民館——『月刊こうみんかん』の15年から

公民館は、歴史的には戦後すぐからの制度によっており、機能的には私たちの教育権・学習権を生なりで保障するところであるが、その面ではあまり知られていない、というより知ろうとされないままであり、見たところの活用も地味と思う。

わたしのまちの公民館は三十六年の歩みを持っている。人口約一〇万、11km<sup>2</sup>ばかりの、勤労者が多めの地域に現在四館配置されている。市民の集会施設という面では、この三倍以上のいろいろな施設があるが、使いやすさ、その使いやすさの根拠となっている法的位置づけ等まで含めて比べると、いちばん市民に近い。憲法―教育基本法―社会教育法―公民館条例という系列によっているが、教育機関としては行政と一線を画して独立。どこから、何の支配をも受けない。館長人事の承認権までを住民にあずける重みは、乱用の

抑制をもまた住民のものとしなければならぬが、一人ひとり生き方を大切に考える時に、かげがえのない拠りどころとなっている。

ここで紹介する「学習の主人公たち」は、ここ十五年ほどの記録を繰り、とても選び切れないまま、年齢や、かわり方、文章の長短等々から、収めさせていただいた。単に知識や技能の消費的享受ではなく教育の自治生活の自治に、いかようにも呼応しあえる、人の輪のひろがり、つながりを汲みとっていただきたいと思う。この学びの場は、平生の生活エリアと地続きという世界、互いの日常をさらしあいながら、すべてかけ値なしの、生活のことばである。文中に出てくる企画実行委員というのは、公民館が行う事業のほとんどすべてを、職員と市民とで白紙から考え話し合い、組み立てていくための、小金井独自の条例にある制度である。多くの場合、さらに市報で公募する準備会メンバーを加えて企画が練られる。

(若竹キミイ)

## ●M字型就職でも「市民」はやめない

石垣泰子

「何々さんの奥さん」でもなければ、「誰々ちゃんのお母さん」でもなくて、固有名詞の「石垣泰子さん」で呼ばれることに満足しています。長く「奥さん」と「お母さん」ばかりやってきた私にとって、久々に「私」にもどったという感じがしました。

私の新しい人生（大げさかな）の足がかりとなった「公民館」とのつき合いは、本町分館での「ミニコミ誌の編集講座」です。

カルチャーセンターだと二万五千元はする内容、納めた市民税の元を取るまではいかなかったけど、なんて思っていました。

その後、受講者の人たちと自主グループ「えんびつの会」を作り、編集や短文の練習を続けました。その時知り合った人たちは、七十五歳をはじめ、六十代・五十代・四十代と私より年上の方ばかり。なんて熱心なと思うほど向学心に燃えた人たちであり、私の若さゆえのさえない批判にも耳を傾けてくれる人たちでもありました。その後、本館で市民講座を受講するようになり、「地域の子どもを語る会」に入り、仲間も増えました。考え方も感じ方も生き方も違う、年齢も生きてき



た時代も違ふ人達との出会いは教えられることばかり。

それぞれの生き方はもちろん、社会を見つめ共に生きるといった姿勢、学習する真摯な態度には頭が下がります。私も、いつまでもこうありたいと思います。

昨年十月仕事を始めました。ミニコミ編集から始まった趣味を生かして、印刷屋さんで働いています。四十すぎの遅い出発で、まだまだプロの世界では通用しない私ですが、生涯の仕事として続けたいと思っています。

公民館での活動は、何かを続けていくことの難しさを痛感させられますが、なんとか乗り切りたいと思います。多くの人と出会い、育てられた私です。私と同じように、求めるものが何かもわからないままに、公民館に集まってくる人たちの道案内にでもなれたら。

(H・1・5)

### ●転入者——市民への早道

山田 尚子

昨年末、市報を見て、市民講座「心のかよいあう医療を求めて」に参加したのが、私と公民館との最初の出会いです。小金井市に転入して一年足らず、この町について色々知りたいと思っていますところでしたから、身近な

地域の医療の実態や病院見学、健康についての考えなど、関心の深い内容の講座だけに、張り切って参加したわけです。

役立っ勉強ができて、本当によかったと思いました。この講座に参加したことが、公民館に足を運ぶきっかけになり、「楽しい会ですよ」と声をかけていただいたあるサークルに入会いたしました。人生経験の豊富な方や、意欲的に物事に取り組んでいらつしやる方、優しく暖かいお人柄の方などと一緒に、月二回、先生を囲んで学生時代に返った気分を味わっております。

(S・63・3)

### ●男の老後、地域でのスタート

永松 昇

私は昭和五十九年、七十二歳まで製造工場で働き、終始製品の経済性優先という錦の御旗の下で走り続けた。そして、リタイアという境遇となつて、対外的にも対内的にも、「さて、これからどうするか」という迷いの毎日だった。

たまたま、私よりずっと早くから公民館に出入りしていた妻から、公民館の講座を受けることを勧められたのが、私の公民館への関わり合いのスタートだった。そして自分の心境として、「縦割りの社会から、横割りの連

係社会に入った」ことを認識した。「月刊こうみんかん」への寄稿を拝見して、多くの人達と交友関係が生じた。近い旅も共にするようになった。本を借りて知識を増やした。職員とも親しくなり、公民館への出入りが楽しくなった。健康にも気配りするようになった。極めて多種の趣味部門で上達した。知識や教養が向上したなどの素晴らしい体験が理解できた。

ところで私は次の様な意見と提案を抱くに至っている。今、日本の社会では、経済優先、福祉優先、民主主義優先、農業優先、レジャー優先、住宅優先、財テク優先など、優先論争は立場の違いがある限り、決着は着くまい。この交錯する主張の中で、各優先論者から共鳴を得られるのは、緑(自然)の優先である。毎年六月には、全国規模で環境週間が催されるが、こんな一時的行事のみで豊富な緑(豊かな環境)を維持できるものではない。すでに公民館の講座でも、また、その自主グループでも、緑、水、空気、土、ゴミを取りあげており、若い婦人達も活発にこれと取り組んでいる。公民館との関わり合いを持ち楽しさだけでなく、若い人、またその後を継ぐ子孫へ、豊かな緑を残そうという行動を起

こしたいと切望する者である。(S・63・8)

### ●障害児の親：立ち上りのきっかけ

秋田 宣子

公民館との出会いは自閉症の息子（現在中二）が3歳の時。親子で泣きっ面しながら通った幼児グループの合間に、色々の講座や講習に顔を出し、沈んだ気持の慰めとなったものでした。そして二年前お引受けした企画実行委員は、障害児を抱えた私にとりまして本音はしんどいものでした。毎月行われる会議のほか、公民館主催事業の担当、学級開催日に思うように出席できず、心苦しく思いつつ、同じ委員、職員、受講生等、多くの方の暖かい支えにより任務を終了することができました。

「障害児を持つていると、こういう仕事は無理ね」と呟いた時に、「そういう親でも参加できるような活動の場でなければね」。その言葉が支えとなり、これが公民館の本質であり、原点だと思いました。

戦後、住民自治の確立を目指して、また地域社会教育の場として発展してきた公民館事業に暗い影がさしているように思います。自治体財政難による予算、職員削減等、さまざまな難問を抱えて大変だと思いますが、小金井市の公民館をレベルダウンさせることなく、

皆の力で頑張りましょう。(S・59・6)

### ●学生時代——もうひとつの充実

田中 義弘

私は今春大学を卒業し、小金井を離れます。しかし公民館での市民映画会と、青年8ミリ教室のサークル活動、そして職員の方々から得たものは形容し難く大きいと思います。

喫茶店でのダベリングに終始する大学のサークルにいやけがさしていた私にとって、ミニコミも出している市民映画会はまぶしい存在でした。時間的制約のある社会人サークルでありながら創造的なところに惚れたのです。初めて行った時の作品が、チャップリン作品集、そして二年後の昨年末にアンコール上映。ペンネームがチャリー・トーン・ヘストンの私にとってはうれしき限りです。こうした公民館活動での充実感ばかりでなく、人付き合いを通しての喜び、それは私の職業観にも影響を与え、四月からはサービス業へと身を投じることとなりました。(S・56・4)

### ●地域づくりに向かう女たち

堀井 廣子

「子育てと女の成長」公民館と児童館の共催の三回目の婦人学級が去る十二月に終わりました。幼児を抱えて、来る日も来る日も子ども

もとのにらめっこの生活にあせりを感じ始めていた私が、第一回目の婦人学級に参加したのがちょうど三年前のことです。

そこで学び合う仲間に出会ったうれしさは強烈でした。ここから公民館とのかわりが始まったわけです。そして、講座の中で知り合った友人達とグループを作り、お互いの成長を目指して学習会を持ち、次の講座の企画に参加したりするようになりました。

三回にわたったこの共催講座では、子供とのかかわりの中での母親の問題、母親自身の様々な問題、地域での子育ての問題などを、共に学び合い、考え合っていました。

現在、子供たちとその母親がおかれている社会状況は、必ずしもいいものとは言えません。その中で、母親が自分の身近な所でできることは何か、また、しなければいけないことは何かを模索しているところでしょう。

子育ての渦中にある母親を対象にしたこの講座では、お互いに、その悩みや苦勞を分かち合い、相談しながら、子どもと共に成長する親になろうとしています。児童館を通して若い母親たちにとって、この婦人学級は今後も力強い支えになるものだと思ひ、大きな意義を感じています。(S・56・2)

# 読書から

## ● ○ ● 今 月 の



半田たつ子

『女性ニューワーク論』

金森トシエ・天野正子・藤原房子・

久場嬉子著

◇女たちの目覚めは、従来の職業(ジョブ)事業(ビジネス)とは違う新しい仕事・働き方(ニューワーク)を模索させた。企業への要請に合わせた働かせ方から、自分固有の主体的な働き方に—まだまだヨチヨチ歩きだが、セミフォールな仕事(ワーク)が創出されている。神奈川県立婦人総合センターの三年間の調査研究をもとに、この研究に関わった四人が分担執筆した。トータルな生き方を志す人に勇気と指針を与える。

(有斐閣 一五〇〇円)

『男の家庭科先生』

福田三津夫・緑著

◇Weのメンバー福田さん一家が本を書いた。男の家庭科専科として脚光を浴びた三津夫さんはこう書く。「性別役割分担を徐々に打破してきたのは、私たち夫婦の共同作業であったはず……女性からの異議申し立てと、二人の(子どもの)命を育てるという共同作業がなければ今の関係は作り出せるはずもなかったのだから」。てらいなく、事実とその時の気持ちを記してすがすがしい。

(冬樹社 一三〇〇円)

『おれんじ通信』

田沼千恵著

◇小さなレディーたちのために、と副題をつけた見るからに優しい本。学校で「生理」の話聞き、「早く生理にならないかなあ」と待ちながら、不安でもある娘に贈る、こよいいプレゼント。いわゆる性教育の本にはないセンスがかぐわしい。からだを大事にして、元気に大人の仲間入りをしてネとの思いやりに溢れているからか。

(03-4601-5970・田沼・

七八〇円)

『死刑—その虚構と不条理』

菊田幸一著

◇死刑とは、国家による殺人だ、こう漠然と思っただが、この本を読むまで、つきつめて考えたことがなかった。著者は「死刑執行停止連絡会議」の代表世話人。三十数年、死刑廃止なくして我が国の刑事政策の進展はありえないと、この課題に取組んできた。人間として最も卑しい、おとしめられた死刑の廃止が、社会的関心と呼ばないのは、死刑の実状と、その虚構と不条理を、多くの国民が知らされていないから……。ウーン、うなった。

(三一書房 一八〇〇円)

『誰にでもわかる女と政治』(改訂版)

安東尚美著

◇「国会審議に見る女性観」は、税制改革、予算、法律、教育、売買春、福祉など、一四項目について、女性の問題が国会でどうやりとりされてきたかを収録し、貴重だ。「行動の手引き」は、一人でもできる陳情の方法やマスコミ・行政の利用の仕方など、政治を身近なものとし、主権者として行使するための手がかりを提供している。(075-1982

19162・安東・一〇〇〇円 丁二六〇円)

## 「生涯学習」って何、

## 文部省の意図は？

第十四期中央教育審議会がスタートした。

四月二十四日、その初の総会で、会長に清水司（日本私学振興財団理事長）、副会長に山崎正和（大阪大学教授・劇作家）両氏を選出した。次いで西岡文部大臣から「新しい時代に対応する教育の諸制度の改革について」諮問が行われた。

審議事項は次の二項目

1 後期中等教育の改革とこれに関連する高等教育の課題

2 生涯学習の基盤整備

1については、四年制高等学校の設置、学科制度の再編成、新しいタイプの高等学校の奨励策、単位制度の活用、特定の分野などにおいて特に能力の伸長が著しい者に関する教育上の例外措置の可否、高等専門学校の拡充策などが挙げられて

いる。

2については、今後の生涯学習社会に向けて、人々の高度化・多様化する学習需要に応じて、より具体的かつ体系的な生涯学習の振興方策が求められているとしている。生涯学習の総合的な振興を図るための法的整備、地域の生涯学習の中心機関となる「生涯学習センター」（仮称）の設置及び同センターが種々の学習の成果を適切に評価し、学校教育の単位として転換する仕組み等について、具体的な検討を行うことを求めている。

ここでは、最近とくに喧伝される「生涯学習」とは何か。文部省側の考えを知るために総理府編集「時の動き―政府の窓―」5・15号「特集・生涯学習」から「生涯学習Q&A」を転載し、紹介する（一部省略）。

## 生涯学習Q & A

Q 生涯学習とは何ですか？

A 人々の生涯の各時期における人間形成上、あるいは生活や職業上などの諸課題に即して、各人が自発的意思に基づいて必要に応じて、自己に適した手段・方法を自ら選択し生涯を通じて行われる学習を生涯学習と呼んでいます。

この考え方は、学習者の視点に立つことを明確にするとともに、学習活動を自発的、自主的なものとしてとらえ、その範囲を学校教育や職業能力開発のみならず、人間が生涯にわたって豊かに生きていくためのスポーツ活動、文化活動、趣味・娯楽、ボランティア活動、レクリエーション活動など幅広いものと考えています。

Q なぜ生涯学習が求められているのですか？

A 次の三点が考えられます。  
第一は、学校教育に対する過度の依存や学歴社会の弊害等が生じているため、学校中心

の考え方を改めて、人人が生涯を通じて絶えず自己啓発を続けるとともに、その成果が正當に評価される生涯学習体系へ移行することが望まれていること。

第二は、所得水準の向上、自由時間の増大、高学歴化、高齢化などが進行する成熟社会では、生涯の各時期、各領域における人々の学習意欲が高まり、学習需要が高度化・多様化していること。同時に、成熟する社会において、都市化等に伴う地域の変化や核家族化等に伴う家庭の変化の中で家庭や地域の教育力の回復が求められていること。

第三は、科学技術の進歩、産業構造の変化国際化、情報化の進展等に伴い、絶えず変化し新しくなる知識・技術を習得するための学習需要が増大すること。

以上の諸点の要請に応ずるためには、青少年の時期に限定された学校教育だけでなく、学校教育の基礎の上に、人々が各人の責任において自由に選択し、生涯を通じて学習ができるよう多様な学習機会が整備される必要があります。

Q 生涯学習の振興を図るための施策の概要はどのようなものですか？

A 人々の学習需要の高まりとその多様化、高度化に対応して、生涯を通じた多様な学習機会を整備するため、次のような施策を講じています。

(一) 学校教育における基礎・基本の徹底と自己教育力の育成のための教育内容の精選や教育課程の基準の改訂

(二) 大学への社会人受入れの促進、放送大学・専修学校等の振興や大学公開講座の充実など生涯学習機関としての学校の充実

(三) 地域の生涯学習基盤・推進体制を図るための組織づくりと学習情報の提供・相談体制の整備

(四) 地域の生涯学習の拠点となる社会教育施設の整備と生涯学習関連施設のネットワーク化の促進

(五) 家庭・地域の教育力の活性化やふるさとづくり・長寿対策の推進など各種社会教育活動の振興

Q 文部省に生涯学習局を設置した理由は？

A 人々が生涯にわたって行う学習を援助・支援するためには、家庭、学校、社会のさまざまな教育機能を相互の関連性を考慮しつつ、総合的に整備・充実していくことが課題

となっています。

このため、昨年七月に文部省の社会教育局を生涯学習局に改組拡充し、家庭教育、学校教育、社会教育、スポーツや文化活動にわたる生涯学習の振興に関する総合的な施策の企画、調整を行うとともに、併せて生涯学習の推進のための重要な教育機能の一つである社会教育の振興を担当することとしたものです。

Q 生涯学習推進会議とはどのようなものですか？

A 種々の生涯学習事業が総合的に実施されるためには、学習者の視点に立った関係事業者の連携、協力が必要です。

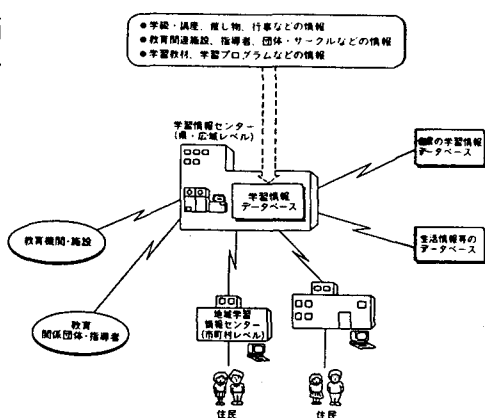
このため、文部省は、都道府県に、教育委員会、知事部局、教育関係者、民間教育事業者等によって構成される生涯学習推進会議の設置を図ることとし、昭和六十三年度には全都道府県に設置されました。

市町村においても同様の組織が置かれていますが、まだ少なく、住民にとって最も身近な自治体であるだけに、今後一層の設置促進が望まれています。

Q 学習情報提供・相談体制の整備とはどのようなものですか？

A 人々の自発的な学習が的確に行われるためには、学習情報の提供や学習相談のシステムが整備される必要があります。

豊富な学習情報を収集、蓄積、提供し、人々の学習相談に応じていく上で、コンピュー

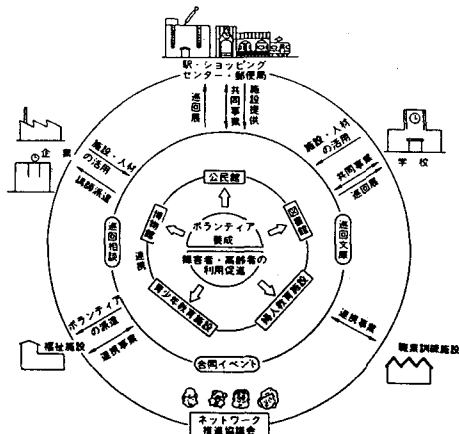


(図1)

学習情報提供・相談システムの整備

タ、ファクシミリ、CATVなどのニューメディアは大きな可能性を持っており、増大する情報量や個性に応じた一人ひとりの学習ニーズに対応できるこれらのメディアの活用がますます重要となってきました。

現在、四県においてコンピュータによる情報提供システムの整備が進められています(図1参照)。



(図2)

生涯学習施設ネットワーク推進事業の概要

Q 生涯学習施設のネットワーク化とはどのようなことですか？

A 人々の多様化、高度化する学習要求にこたえるために、社会教育施設、学校、職業訓練施設・福祉施設、企業その他の関連施設・事業所等の学習施設や駅、ショッピングセンターなどが相互に連携を図りながらいろいろな事業を実施し、地域の学習基盤を総合的に整備充実しようとするものです。

各種の生涯学習施設のネットワーク化を図ることにより、学習機会が学習者の利用しやすい形で提供されるようになるだけでなく、潜在的な学習意欲を顕在化させるとともに、相乗的な効果を発揮することができるようになり、新たな学習機会を増大させるようになることが期待されています(図2参照)。

Q 放送大学とはどのような大学ですか？

A 放送大学は広く大学関係者の協力を得てテレビ・ラジオを中心とする多様なメディアを効果的に利用して、大学教育を実施することにより、

生涯学習機関として、広く社会人や家庭婦人に大学教育の機会を提供する

イ 今後の高等学校卒業生に対し、柔軟かつ流動的な大学進学を確保する

ウ 既存の大学との連携協力を深め、単位互換の推進、教員交流の促進、放送教材の活用、普及等により、我が国大学教育の改善に資する

ことを目的として設立され、昭和六十年四月に学生の受入れが行われています。

平成元年四月において、約二万六千人の学生が学んでいます。学生は、会社員、公務員など有識者が多数を占め、年齢構成も多様となっております。生涯学習にこたえる学習機関となっております。この四月に第一回の卒業生を送り出しましたが、現在、授業放送の対象地域が関東地方等の一部に限られており、その全国化が重要な検討課題になっています。

#### Q 専修学校とはどのような学校ですか？

A 専修学校は、職業や実生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的に、修業年限を一年以上とするなど一定の要件を満たして組織的な教育を行う学校として、昭和五十一年に創設されたものです。創設以来、着実な発展を遂げ、昭和六十三年五月現在、学校数三千百九十一校、生徒数で約

七十万人に達し、職業教育等において重要な役割を果たしてきています。

専修学校は、教育内容の多様性、実益性等をその特色としており、社会・経済の複雑化・高度化に伴うより多様で高度な教育を求める社会の要請に的確かつ弾力的にこたえ得る教育機関として、生涯学習体系への移行の観点からも重要な役割を果たすことが期待されています。

#### Q 学校開放の現状はどのようなになっていますか？

A 生涯学習を推進していく上で、学校と地域との連携を図ることは重要であり、そのため学校の機能や場を地域住民に開放することが求められています。学校開放の主なもの現状は次のとおりです。

- ① 大学公開講座 昭和六十二年度  
開設講座数 約二千九百  
受講者数 約三十六万人
- ② 高等学校開放講座 昭和六十一年度  
開設講座数 約九百  
受講者数 約三万二千人
- ③ 学校施設の開放 昭和五十九年度  
(屋外運動場) 小学校 約84%

中学校 約78% 高等学校 約45%  
(屋内運動場) 小学校 約86%

中学校 約81% 高等学校 約33%

#### Q 技能審査はどのようなものですか？

A 青少年及び成人が習得した知識・技能について、民間団体がその水準を審査し、及び証明する事業のうち社会教育上奨励すべきものを文部大臣が認定して、人々の学習意欲を増進し、知識及び技能の向上に資しようとするものです。昭和六十三年度において英語書写、秘書など十二種目が認定されており、その志願者数は約三百二十万人になっています。

#### Q 社会通信教育とはどのようなものですか？

A 文部省は、社会教育上奨励すべき通信教育を認定し、その普及奨励を図っています。この通信教育を受けている人のうち、四十歳代、五十歳代の高年齢層の占める割合が増加しており、生涯学習の機会として、その役割が期待されています。昭和六十二年末で、経営・管理、電気・無線技術、園芸・造園などの認定課程数は百七十七、受講者数は約二十万人となっています。

(文部省)

## 情報 2

### 「生涯学習」に関する国の予算

「平成元年度 国の婦人関係予算(案)」を聞く会」が、二月二十二日、東京代々木の婦選会館で開かれた。同会館では、(財)市川房枝記念会と日本婦人有権者同盟が、毎年一月に恒例として開いてきたが、今年の会は、第一

一三回臨時国会で成立した消費税の導入や、リクルート事件をめぐって国会が混乱したの

で、例年より大幅に遅れた。

当日は五省七課の担当から予算説明が行われたが、文部省生涯学習局婦人教育課長、大野曜氏の説明を、「婦人展望」編集部が要約し、同誌一九八九年四月号に掲載した記事を、同編集部ので承を得て転載する。

### 文部省関係の予算

文部省生涯学習局婦人教育課長 大野 曜氏

昨年七月一日付の文部省機構改革で社会教育局を廃止。生涯学習局を設置し、新たに生涯学習振興課が設けられた。

従来、社会教育局がやっていた社会教育、青少年教育、婦人教育、学習情報に加え、放送大学、専修学校、各種学校など、これまで初等中等教育局、高等教育局でしていた社会

教育と学校教育の接点にある事務を所管するようになった。平成元年度の婦人対策関係の予算は対前年比一〇%増。

#### 1 生涯学習基盤推進体制整備費補助

家庭教育充実事業の中では、「家庭教育幼児期相談事業」を「すこやか家庭教育相談事

業」に改め、新たに電話相談を設けた。また、ハガキ通信を廃止しパンフレット、リーフレットを作成配布。四七県、四億七〇〇〇万円を計上。

婦人の生涯学習促進事業(ウイメンズ・ライフロング・カレッジ)は、婦人の多様化、高度化する学習意欲に対応するため、新規に設けた。女性学及び家庭教育関連講座を開設している女子大、短大などの人的、物的機能を活用し、情報化、国際化時代に求められる婦人リーダーなどを養成するいわゆるコミュニケーション・カレッジ。三〇講座で、約一五〇〇万円を予定。

#### 2 学習事業奨励費補助

(1) 集団学習奨励費―学級、講座への補助で、家庭教育学級では思春期の子をもつ親のための学級などを行う。そのほか婦人学級、情報活用能力育成講座等の予算が含まれる。

(2) 地域活動奨励費―家庭教育地域交流事業は二〇カ所増の一四カ所、約五七〇〇万円。そのほか婦人ボランティア活動、青少年地域活動等が含まれる。

#### 3 長寿化対策事業費



文部省 婦人対策関係予算案

(単位：100万円)

事 項	平成元年 度予算案	63年度 予算額	対前年度 増 減
1. 生涯学習基盤推進体制整備費補助	567	449	118
2. 学習事業奨励費補助	661	657	4
(1) 集団学習奨励費	428	424	4
(2) 地域活動奨励費	233	233	0
3. 長寿化対策事業費	326	223	103
4. 生涯学習施設ネットワーク推進事業費補助	141	76	65
5. 公立婦人教育会館施設費補助	81	81	0
6. 婦人・家庭教育関係団体補助	19	21	△ 2
7. 教育テレビ放送実施委託	333	323	10
8. その他	17	17	0
計	2,145	1,847	298
9. 国立婦人教育会館	561	531	30
10. 生涯スポーツ振興費事業補助	819	820	△ 1
合 計	3,525	3,198	327

高齢化社会に対応し、生きがいのある、あるいは社会参加を促進するため六〇歳以上を想定して新規に専門・教養課程を設けた長寿学園開設事業、二〇県、一億円を計上。

市町村を対象にした高齢者の生きがい促進総合事業は、従来、学習事業奨励費補助の中

で行ってきた事業に、生きがいセミナー、高齢者国際セミナーなどを加え、総合的な学習機会を整備。五五〇市町村を予定。

4 生涯学習施設ネットワーク推進事業費補助

社会教育施設等のモデル事業でネットワーク整備などを行ってきたが、生涯学習の観点から、民間を含む多様な学習施設との相互連携、合同事業、巡回サービスを加える。一県三市町村(計一四一カ所)を予定。

6 婦人・家庭教育関係団体補助

全地婦連、全国指定都市地婦連、国婦振、大学婦人協会、婦人国際平和自由連盟、女子社会教育会、修養団が対象。大蔵省の統一査定で減。

9 国立婦人教育会館

ODA(政府開発援助)関連事業として新規に海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業に約八〇〇万円。婦人の社会参加のためのプログラム開発研究は、二年目として地域の婦人教育施設との共同研究を加えた事業が認められ、約二〇〇万円増で五〇〇万円となった。

10 生涯スポーツ振興費事業補助

市民スポーツ相談普及促進事業が新たに加えられ、三三市町村、約九九〇〇万円。

新 し い 家 庭 科 を 創 る た め に

「じぎゃん、あまかて知らんだった」

――砂糖について勉強し、健康を考える――

●熊本県家庭科サークル

岡田みつよ

一、晴男君との出会い

入学式が終わったあと、晴男君の母親から「岩岡晴男の母です。つい最近この町に來たばかりです。わたしとばあちゃんただけですので、どうぞよろしく」と声をかけられた。その時晴男君は、廊下側のドアの向こうにかくれて母親が呼んでも、顔を出さなかった。

晴男君は、母と姉の三人で、曾祖父母、祖父母、叔父のいる母親の実家に、父親と別居というかたちで、隣町から引っ越してきたのである。

学級での晴男君は、自分から話すことはめったになく、話しても、その言葉がはつきり聞きとれなかった。友だち

とも遊ばず、席についているか、廊下を一人でウロウロしていることが多かった。またジャングルジムの一段目でもこわがってしがみついているといった状態で、学習面、運動面、友だち関係と多くの課題をもっていた。それはもちろん教師としての私の課題でもあった。

そこで、晴男君に、自分の言葉で、自分の気持ちや考えを言える子どもになってほしい。そして、仲間がいることのすばらしさ、大切さを感じとってくれたら、と願ってスタートした。

二、「これから木村晴男と呼んで下さい」

一年生の二学期、運動会の練習も始まり、私も子どもたち

も落ち着かない日々を送っていたある日、突然、晴男君の姓が変わったことを母親から聞かされた。正式に離婚したこと、姓を岩岡から木村に変更すること、そのことで晴男君が卑屈になりはしないかと心配していることなどを話された。

そこで、私の方からクラスの子どもたちには改姓したことを話すということで、母親とその場は別れた。

しかし、晴男君が、班長である由美さんや他の子どもたちに励まされながら、少しずつ自分の殻を開きはじめている様子を見ていると、これは私が言ってしまったのはだめだ、晴男君自身の問題なのだから、晴男君が自分から自分の言葉で、自分のことを明かしていくべきだ、そして、自分から「言うよ」というまで待とうと心に決めた。

それからは、晴男君と放課後や休み時間に、そのことを話していった。しかし、すぐには、「うん」とは言わなかった。母親にも晴男君が変わりはじめていること、自分の口から言わせようと思えなおしたことを話し、何日も待ってもらっていた。

そんな時期に、母親から、晴男君が、洋服のことでいやな思いをしていることを聞いたので、給食を隣りで一緒に食べる時、服の話を持ち出し、「いやな気持ちを、思いきってみんなに言ってごらん」と励ました。そしてその日の

帰りの会で、「マンガのついでに服のことは、いろいろ言わないで下さい」と自分の思いを小さい声ではあったが、みんなの前でどうにか訴えることができた。

このことがあった二日後、「名前が変わったこと、今日は言えるかな？」と尋ねると、ずい分考えて、頭をひねっていたが、「うん」とうなずいた。帰りの会になって、何と云うだろうか、はつきり言えるだろうかと、私の方がドキドキしていたが、晴男君は、自分から、自分で考えた言葉で、「ぼくは、こんど木村になりました。これからは木村晴男と呼んで下さい」と、ものすごく大きな声で、しかも最後まではっきりした言葉で、自分のことを明かしていった。

私だけでなく、子どもたちも、その声の大きさにビックリして、思わずみんなで大きな拍手を送った。晴男君は、真赤な顔をして、私の方を見て、ニコツと笑顔を見せ席に着いた。母親にもこの時の様子を伝えたら、涙を流して「あの子が何と言うだろうかと心配していました」と話された。

そしてこのことをきっかけに、晴男君は、大きく変わりはじめた。帰りの会でも大きな声で発表できるようになり、友だちとも口げんかができるようになってきた。『さるとかに』の人権学習の時間に、「かには、晴男君のように、はっきり自分の気持ちを言ったのでえらいと思います」といった発言も出るようになり、まわりの子どもたちも、晴男君をき

ちゃんと学級のひとりとして認識しはじめてきた。

なかでも、うれしいことは、家でねん土をいじったり、姉と二人で遊ぶことがほとんどであった晴男君が、気のやさしい辰男君と友だちになり、お互いの家を行ったり来たりするようになったことである。他の友だちも少しずつ増えてきた。しかも、友だちが自転車で遊び回るのに、自分も一緒に遊びたいという願ひから、乗れなかった自転車へ挑戦し、なま傷に耐えながらついに自転車を自分のものにし、生活行動範囲もずい分広げていった。母親も、友だちがいないということが一番心配であったと話され、晴男君の変化には驚いていた。

### 三、虫歯が十一本も

家での晴男君は、甘えん坊である。母親が仕事から帰ってくると、くっついて離れようとしない。まつわりついているといった感じである。「ずうっと母乳で育てて、一歳すぎても乳離れせず、離乳食を余り食べたがらなかったですね。だから、つい母乳を与えてしまっていました」と母親は話してくれた。偏食がひどく、奥歯で物をかむことができず、前歯でかむため、給食なども、お盆や机の上には、ボロボロといったばいこぼしていた。

家を訪ねた時など、おばあちゃんの手づくりおやつがあつても、それは食わずに、わざわざ、お菓子やジュースを買って飲むといった生活をお母さんたちが話されるし、またよく目にもしていた。「言うたつちや、いっちゃん言うこた聞かんとですたい」とおばあちゃんもあきらめムードである。二年生になって少し肥ってきた晴男君である。甘いものが大好きな彼に「そぎゃん甘かつば食うと糖尿病になる」とおどしても、何のことはないと嘆いておられた。

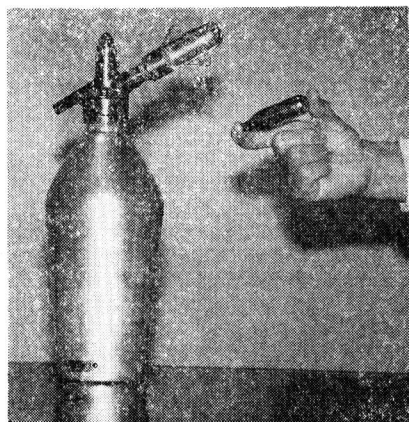
こうした食生活のためか、虫歯もクラスで最高、十一本もあつたのだが、一年生の時には、だだをこねて、とうとう治療をしなかった。

そこで、晴男君にはもちろんのこと、他の子どもたちも同じような状況なので、クラスの子どもたちみんなに、食生活について考えることで、自分の身体を見つめ、健康に生きていくためには、どうしていったらよいかを考えさせたいと思い、「砂糖について」の学習を授業で取りあげて実践することにした。

### 四、「いぎゃん甘かて知らんだった」

晴男君のように、お菓子を食べながら炭酸飲料を飲んでいる子どもたちの姿は、どこでも見かける。おやつ調査をし

## 使った道具



※ハリオ ソーダホン  
ソーダーカートリッジ  
(ハリオ株式会社)

た時にも、一番多かったのは、スナック菓子にジュース類であった。そこで炭酸飲料水を中心に授業をやった。  
。めあて

1 自分たちが日頃砂糖の取り過ぎであることに気づく  
2 砂糖の取り過ぎによって、健康が阻害されていることとがわかる

3 自分の健康をどうやって守っていくかがわかる  
。授業の流れ

七月の中旬の真夏の午後である。教室には、子どもたちだけでなく、授業参観のお父さん、お母さん方であふれん

ばかりだ。

T 「ああ、暑かね、たまらんね、汗がいっぱい出てきた」と言いながら子どもたちの前に立つ。

C 「先生、ぼくも暑か、何かジュースごたつとば飲もうとる(飲みたい)」

と子どもたちも、「氷」「スイカ」などワイワイと騒がしい。  
T 「そうね、冷たいのを飲むと気持ちよからうね。ねえ、ところで今、君たちが言った、ジュースなどには何が入っているんだらうなあ」

C 「水」「砂糖」「炭酸」「ミカンのつぶ」など……。

コーラのカンを見せて、

T「じゃあ、このカンの中に、その砂糖はどれくらい入っていると思うかな」

と尋ねると、好き勝手に、「三グラム」「一〇〇グラム」と言う。そこで、砂糖の含有量を角砂糖で表わした図表を見せた。

C「きゃあ、そぎゃん入っとな」

C「わあ、うそだらう。いっちゃん知らんだった」

そして、コーラだけでなく、板チョコ、あんパン、カステラなどの砂糖の量も見せると子どもたちはビックリしている。

C「先生、板チョコ一枚より、コーラの方が、いっぱい砂糖の入ってるよ」

T「そうね、それなら、今からどんな味がするか、みんなでコーラの方の味見をしてみよう」

と、三五〇 $ml$ の水に三九・一 $g$ の砂糖を目の前で溶かしてみせ、その砂糖水を子どもたちやお母さん方にも少しずつ飲ませた。

C「ワー、甘か、こりや甘すぎる」

C「頭の痛うなってきた」

と、口ぐちに言う。飲む前は喜んでいた子どもたちだったが、中には、顔をしかめて飲んでいる者さえいる。

T「あなたたちが、いつも飲んでいる飲み物は、本当は今飲んでみると同じ甘さなんだよ」

C「嘘、こぎゃん甘くなかよ」

という声が出たので、待ってましたとばかり、その他に入っている炭酸のことを思い出させて、冷蔵庫に冷やしてあった先程と同じ濃度の砂糖水に、炭酸を子どもたちの前に入れて見せた。

シーンとなった教室の中で「シュツ」という音を聞き、子どもたちも一斉に、「ワー」と喚声を上げる。そしてその砂糖水に泡が出ているのを見ながら、一人一人味見をした。

C「へえ、甘くなかけん」

C「ワアー飲みやすか」

と言った発言が出たところで、炭酸を入れたり、冷やしたりすることで、甘みをおさえてあるということを話したら、子どもたちも納得した。そして、一日の砂糖の必要摂取量を表示し、一日の食事だけでもそれを満たしていること、自分たちが砂糖の取り過ぎであることにも気づいた。

こうして、砂糖が多量に入っている炭酸飲料やお菓子を体内に入れていると、骨折、虫歯、イライラして怒りっぽくなる、目が悪くなるといった健康障害につながることを話した。そして、これから自分たちはどうしなければならぬかを考えさせた。すると、

C「のどが渇く時は、麦茶や牛乳ば飲んだがよかよ」

C「スイカば食べるとよかたい」

といった意見が出た。味見をしていたお母さん方も、うなずいて聞いておられた。

次の時間には、『二ひきの白いあくま』養護教諭がつくった食品公害の絵本——（発行所「自然と健康を守る会」）という絵本の読み聞かせをして、病気をしない、強い体にしていくために、親まかせだけでなく、食生活の中でも、自分たちの手でやっていけることもあるんだということ話を話した。

晴男君は、この学習の感想に「虫歯の治療に行こう」と書いた。そして、「甘いものを食べないようにする」とも書いている。そして、一年生の時には、どんなに言っても行こうとしなかった虫歯の治療に、二年生の夏休みには出かけ、二学期の始業式の日、自分から大きな口を開けて見せてくれた。家では、甘いものについて手が出てしまう晴男君だが、「果汁一〇〇%がよかつばい」と母親には話したそうである。他の子どもたちも、親と一緒に学習したこと、この夏は随分ジュース類が麦茶や牛乳に変わったということを親や子どもたちから聞いた。遠足の時の水筒も、炭酸飲料や、コーヒー類が姿を消し、麦茶類だけになった。似たような授業を中学校に勤務していた頃やったこと

があるが、小学校の低学年でやった時の方が、実際には日常生活の中に大きな影響を与えたのに驚いた。

## 五、おわりに

改姓したことを皆の前で宣言して自信もつき、とても無理だと思われた、水泳、縄とび、虫歯の治療、自転車乗りなど、自分ができなかったことへの挑戦を始めた晴男君を見ると、「頑張れ、頑張れ」とかけ声だけかけていても何の力にもならない。やはりそこには、子どもたちの実態をよく見つめ、親の思いを受けとめながら、科学的な視点に立った教育内容をつくりあげていくこと。それが子どもたちの可能性を伸ばしていくことにつながるんだ、ということを晴男君から学んだような気がする。そして、表現の仕方は違っても、感性の豊かさは、中学生でも小学生でも変わりはないことを実感させられている毎日である。

新しい家庭科を創るために

# 「保育学習」から学んだこと

●三重県一志町立一志中学校

島田 喜美子

五年前、全国教研（大阪大会）に参加した時、保育の研究の必要性を実感した。なぜならば、保育は人間の生き方、育て方、家庭生活のあり方等を考えさせることができ、家庭科の根源であると考えたからである。

その年度の三学期から、「保育実習」を取り入れたものの、女子だけの授業である。技術の先生に協力をお願いしたが、なかなか共学に踏み切ることができず、別学で教材研究を進めていった。ここでは、絵本づくりに重点を置き、でき上がった作品を持って保育実習を実施した。

やっと四年目に私の願いがかない、男女共学の保育を実施することができた。三年の間に準備した教材を手にも、一番最初の学級の授業では、男子がどんな反応を示すか、興味と不安で胸がワクワクした。

その時、子供たちに配布したテキスト一ページ目の私のことばを紹介したい。

「さあ、今日から男女共学の保育の授業をすることになりました。私は、四年前からこの日の来るのを待っていました。その日がやっと来たのです。なぜそれほどに私がこの保育の授業を男子生徒にも教えたいか、わかっていただけです。それは、皆さんが将来家庭生活を営む時、両親の愛のもとで、子供を育ててもらいたいからです。





子育ては、母親のことだと決めつけていませんか。

(中略)

育児も家事も夫婦の協力によって成立します。子供を産むのは女性ですが、男性は女性のその機能を尊重して、はじめて男女平等が成り立つのです。人を育てるという事は、とても重要な事です。(中略) 子育てに男性も加わってほしいと願う気持ちから、この授業を計画しました」

最初の教材は「命」である。

「皆さんは、命について考えたことがありますか？」

「皆さんの命は、どのようにしてつくられたと思いますか？」

そして、卒業生Aさんの「生まれた日の日記」を読んで聞かせる。子供たちの目は、キラキラ輝いている。更に「生命の誕生」のビデオを見せる。四十分間、身じろぎもしないで、くいいるようになっている子供たちの顔を、忘れることができない。

B子は、次のような感想を書いている。

「私たちは、三億個の精子の中で選ばれた一人である。たった一個の卵子を求めて、三億の精子が長いマラソン競争に出る。その中のたった一個の精子だけが、卵子とめぐり会う。排卵された卵子が精子とドッキングする時の様子は、まるで宇宙遊泳を見ているようで、神秘的な一瞬であ

った。私達の命は、このようにして得られたものであるから大切にしなければいけないと思う」

ここでは、生命の大切さと正しい性の知識を理解させたかった。二つ目のねらいは、男子に女性の体をよく知ってほしかった。妊娠して二八〇日間、お腹の中で命を育み産む機能を持っていることを男性が正しく認識し、いたわってこそ、真の平等が成り立つということを。

授業の中では、胎児が母親のお腹の中でどのように成長していくかを、また、その時の女性の心理状態や、出産は命をかけた行為であるともふれた。

母親に出産の様子を聞き、書いてくることを課題としたところ、次の文があった。

「僕のお母さんは、ねむり産でした。だから僕は、なかなか産まれてこなくて、家族の者が心配したそうです。やつのことで産まれた僕の頭は長く伸びていました。僕の命はお母さんの努力の結果であるのだと思います」。H君のレポートである。

次に、この領域で強調したのは、幼児の遊びである。幼児期の遊びがいかに、大切かを知ってもらいたかったからである。幼児は遊びを通して、さまざまなことを学ぶ。そこで、人格の基礎がつくられると言っても過言ではない。

しかし現実には、親達が自然の中で遊ばせることよりも、少

しでも早く字を覚えさせたり、習い事をさせることに夢中になっている。幼児期の自然発生的な遊びがいかに大切かを、生徒に知ってほしいと思った。

それには、生徒に幼稚園での保育実習をさせたいと願い、まず幼児の遊びを考えさせた。

「みんなは、小さい時どんな遊びをしたか覚えている？」

「うーん、ままごとしたかな」

「お店屋さんごっこもしたな」

「今の子供たちは、どんな遊びをしているのかな？」

「わからんなあ」と生徒たちは言う。

そう、中学生の周囲には、幼児がいないのである。近所においても、相手になって遊んでやることはない。

「幼稚園に保育実習に行こうと思うけれど、一時間でどんな遊びをしたらよいか、班で話し合ってみよう」

あれやこれやと考えたあげく、昔の遊びをしようとか、合唱や劇をやってみようという案などが出た。

昔の遊びは「花いちもんめ」「かごめかごめ」「縄飛び」など、合唱は、幼児のよく知っている歌をうたおうということで「オバケのQ太郎」を選曲した。劇は、マンガの「セイントセイヤ」をすることに決定した。シナリオから練習まで、すべて自分たちの手で行った。

二週間後、校区の「のむら幼稚園」と「桃園幼稚園」に

準備した物を持って訪れた。四学級なので各園二回ずつ訪れたのである。園児達は時間経つにしたがい、体いっぱい中学生のお兄さんやお姉さんに反応していくのがわかった。

また、こんな光景も見られた。中学生の男子二人が、実習にあまり参加せず、しらけた顔つきで教室の隅の方で、何もしないで立っていた。そこへ二人の園児が近づいて来て、折り紙を差し出した。どうするだろうと興味深く見ていると、彼らは飛行機を折り、飛ばして園児とともに楽しんでいた。私は「これだ、実習の意義がここにある」と思った。純真に遊び相手を求めて近づいてきた幼児に、中学生の心も素直になったのだ。

ある男子生徒の保育実習の感想を紹介したい。

#### 保育実習を終えて

僕は、実習をするまで少し心配でした。

何がという僕たちの言う通りに、園児が動いてくれるか、そして楽しんでくれるかどうかということでした。

しかし、いざ幼稚園につき、園児の顔を見て、その心配に誤りがあることに気づきました。

園児のみんなが、きちんとならんで話しもせず、しきりに話す方を見て、大きな声で「こんにちば」とあいさつしてくれるのです。何か、はずかしく思いました。こんな小

さな子たちにできるのにと……。園長先生のやさしい話し声、純粹に動く心が、とてもなつかしく、どこかに忘れてきたものを見つけたような気分になりました。園児のみんなは、僕たちを友達のようにむかえ入れてくれて、これといって注意することもなく、それは、それは、元氣いっぱい、少しぐらいこけたって、へっちゃらって感じでした。保育の実習よりは、自分たちも楽しんだという方が合っているかも知れません。

しかし、あまり接触することのない小さな子供たちと共に遊ぶことによって、忘れていたもの、これから考えていかなくはないけないこと等、たくさんあることに気づきました。

たった一日の出会い、それでも僕にとって、学ぶことの多い実習でした。そして、これからも男女ともに保育について学ばべきだと思いました。

実習後生徒たちは、なんだか気分がすがすがしくなったと言う。これは、幼児に接することによって、素直に自分を表現し、幼い頃の自分を取りもどすことができたからだと言えよう。理論的な講義も大切であるが、「百聞は一見にしかず」というように、体験から得ることのすばらしさを、家庭科の授業では大切にしたい。

私は、この四月より現任校に転任し、また新たな課題を子供たちから与えられた。その課題とは、授業に参加しないで、突っ張っている一部の生徒たちである。その子たちは「おい先生、どうしようもないんや、なんとかしてくれー」と私に助けを求めているように思える。だからと言って近づいていくと突っぱねる。彼らも大変複雑なのである。

一人ひとりの育てられた背景には、不安定な家庭生活があるようだ。家庭生活には精神的な安定が必要であるが、愛情が不足、親とのふれあいが不足しているようだ。だからこそ、保育の授業の役割は大きいと言える。

暗中模索の中で、共学の保育実習を行ったが、「やった・ふれあった」というだけで、保育学習の真髄に到達しているとはいえない。実習は、たった一時間で、幼稚園の先生達に協力してもらってできたことである。実習を中心とした保育学習に取り組んだものの、もっと幅広く、学ばせたい。「家族とは何か」「生活とは何か」を深く掘り下げたい。家庭科の教師は、常に鋭い洞察力で社会を見通し、子供達に何を学ばせるかを、授業を通じて学ばせていく使命があると確信している。

新しい家庭科を創るために

消費者教育の試み

(その1)

●山形県立新庄南高等学校

田村より子

(一) 研究授業って何？

普通科、商業科、家政科の三学科が併設されている新庄南高等学校に赴任し、はや五年目を迎えました。前任校で自分なりに自主編成しながら教えてきた「家庭一般」から離れて、赴任当初は家政科の専門科目である「被服」や「被服製作」の教材研究と放課後の個人指導に追われる毎日でした。そんな慌ただしい中であって、常に私の心を離れなかったのが家政科という学科への疑問でした。五年たった今も、その疑問に対する明解な答を出すことができないでいる自分が情けなくもあります。

こんな折、山形県家庭部会の総会当日に行われる研究授業を引き受けることになりました。時あたかも新学習指導

要領で共学の道がつくつかぬかの微妙な時でしたが、八百余名の女子生徒が学ぶこの南高で、専門科目にすっぽり漬かり切ってしまうと、以前あれほど真剣に考えてきた共学家庭科が見えなくなりそうで、不安でしかたがありませんでした。そんな疑問や不安からの逃避の気持ちも手伝っていたのでしよう、私は迷わず引き受けました。

県の研究授業は、小心者の私にとっては大問題でした。しかも、進度からすると私の苦手の消費者教育の所になりそうです。さらに頭が痛くなります。私は生来小心者のくせにこう見ずの所があり、危険な緊張感にたまらなく魅力を感じらしく、この時も「とにかくやってみよう。そして多くの人から教えてもらえばいいじゃないか」という調子で引き受けてしまったのです。思えば、文章力もなく筆不精の私がこ

うしてペンを取っていること自体、私の性格のなせる業で、本当に恐縮に思っております。

県総会時の授業は、今まで素晴らしい授業を見せていただいていたので、その負担の重さから、毎年授業者を決めるのに大変時間がかかっていました。私は長年そんな研究授業のあり方を見てきて、誰でも気軽に引き受け、しかもそれに對する意見交換も活発に行われて、「やってよかった」と思える公開授業にすべきだと思ってきました。普段の授業をさて置いて、たった一時間のためだけにかかりつきりになり、揚句のはてに指導案どおりに生徒が動く授業は一見素晴らしい見えても、本物ではありません。

我が県では指導主事の影響力が大で、事前に指導案を何度も持つて行き、指導を仰ぐのが習わしのようになっています。ある方は何度も書き直しをさせられたと言うことで、当日の授業に對する話し合いは問題提起もなく、誠に形式的なもので終わってしまいました。「そんなのおかしい」と思っても「一回ぐらいいは挨拶に行かない」と言う先輩の忠告をきいて、指導案を持つていくと、それへは目もくれず、「こんな例がある」と他人の実践例のコピーを渡され、もう一度書き直してくるように言われたのです。私は権力には弱いので、その資料を参考にしたり本を読んだりして、少々訂正して郵送しました。そうしたらどうで

しょう。帰って来た指導案は、びっちり赤い線と赤い文字で埋められ、私のものではなく、すっかり整形されていたのです。いくら我慢強い私でもこれには怒りがこみ上げてきました。未熟ながらもない知恵を絞って夜な夜な書いた言わば汗と涙の結晶です。どちらかと言うと、私が今まで手抜きをしていた消費者運動と消費者行政を盛り込んだ画期的な試みだっただけに、本当にがっかりしました。こんな訳で、「授業って何だろう」とつくづく考えさせられたのです。

教師が今持ち得ている知識や価値観をもとにして、目の前にいる生徒たちに合わせて計画を立ててやってみる。もし、予想通りの答えが出なかった時は、教師も悩み迷い、そして軌道修正をしながら進む、それが授業でしょ。でも、事前指導どおりにして生徒を台本どおりに訓練しておけば、当日はお誉めの言葉をいただけるかな……等と心が揺れました。でも、後者は私の良心が許しません。「発問がよくなくて生徒が予想通りの答えを出してくれなかったり、予想外の爆弾発言があってもいいじゃないか、その時とる私の判断こそよい問題提起になり、見て下さる先生方と共に学び合えるものとなるのではないか」と思い直して、一番最初の振り出しにもどり「純より子風」の授業を実施することにしました。

こうして授業を実践したわけですが、結果としては私なりに反省する点がたくさんありました。しかし、それに対する

指導主事の講評は、「もっと工夫が必要ですよ」と言う冷やかな言葉だけで、どこにどんな工夫が必要であるかのアドバイスはありませんでした。授業で失敗した時は、曖昧な慰めより、納得のいく批評が欲しいものです。紙面で個人攻撃をするつもりはありませんが、ひとのことより何よりも周りから翻ろうされて本当の自分を見失いかけた愚かな自分を書かずに、本当の授業改善にはつながらないと思います、書かせていただきました。

## (二) 消費者問題

授業をする時は、題材をどう捕えるかという教材観が問われますが、消費者教育についてじっくり考えることのないまま私にとっては、難問中の難問でした。あれこれ本を買って読んで読むことから始め、多くの方の実践例も見ていただきましたが、私の目の前にいる生徒たちの問題としてどう結びつけられればよいかが見えず、本当に悩んでしまいました。

68年五月の消費者保護基本法の成立を契機に、消費者の権利は行政によって守られることになりました。しかし、現実には消費者主権とは名ばかりで、商品の購入やサービスは企業の圧倒的優位のもとで行われ、消費者不在の販売戦略の中で消費者の権利が不当に犯されているのが実態で

す。

かつて、古典経済学者のアダム・スミスは自由経済社会の原理を、①企業は自由に公正に競争する ②消費者は自由に選択するとし、安くて良い品を売る企業のみが生き残って、他は自然に滅びる。つまり、消費者は市場における審判者の役割を果たすという消費者主権の考えを打ち出しています。

しかし、今日のような大量生産、大量販売、大量消費の現代社会にあつては、消費者は品質や価格の情報を正しく入手することができないばかりでなく、「消費者は王様」、「消費は美德」等と言うおだて文句に乗せられて、自由な判断とそれに基づく選択の自由を奪い去られてしまったように思われます。

こうした中で近年とみに消費者教育の重要性が叫ばれ、山形県家庭部会の研究委員会の研究テーマとしても取り上げられています。しかし、世に言う「賢い消費者」育成は、現在頻繁におきている消費者問題の責任を、賢くなかった消費者の責任にしてしまうためのものとされ、消費者個人にその責任を負わせてしまう結果となったり、消費者教育のあるべき姿が国や企業の論理で問われる危険性もあり、消費者教育はそれを扱う教師の価値観が強く問われる非常に難しい所であると思います。

私は今まで「合理的な購入と消費」と言う所で消費者教育

を扱ってきました。そこでは、宣伝等につられた衝動買いへの反省や、量目や品質を確かめて購入する購入時の注意から無駄のない消費へと進め、悪徳商法に引っかかるらないための心構え等で消費者としての権利意識を促す努力をしてきました。また、その後学ぶ衣食住、保育の各領域では、次の問題を取り上げました。

衣……（既製服の買ひ方、衣料公害、クリーニンングトラ

ブル、合成洗剤の害）

食……（食品添加物の商品テスト、加工食品の品質標示

調べ）

住……（広告による家の値段調べ）

保育……（おもちゃの安全性、菓子の景品と量目、菓子の

コマーシャル調べ）

限られた時間の中でですから全てを取り上げることではできませんが、実験や調査等を取り入れながら指導してきました。しかし、このように個々の生活事象の中でのみ消費者問題を取り上げると、それらに共通して横たわる経済の問題点が見えなくなり、国や企業の厚い壁に突き当たってしまうことになりかねません。そうすると、結局は「それを買わない（食べない・使わない）ためにはどうしたらよいか」と私たちの購入姿勢のみを問う形になってしまい、そういう悪い物を作らせない売らせないためにどうすればよ

いか、の視点がどうもボヤけてしまいがちでした。

そこで、家庭経済の最後に消費者問題という單元を置き、そこに十分な時間を取ることにしました。そして、合成洗剤追放や豆腐のA F 2追放運動など、具体例をより多く上げながら、賢い消費者としてとるべきいろんな手段を考えさせたいと思いました。

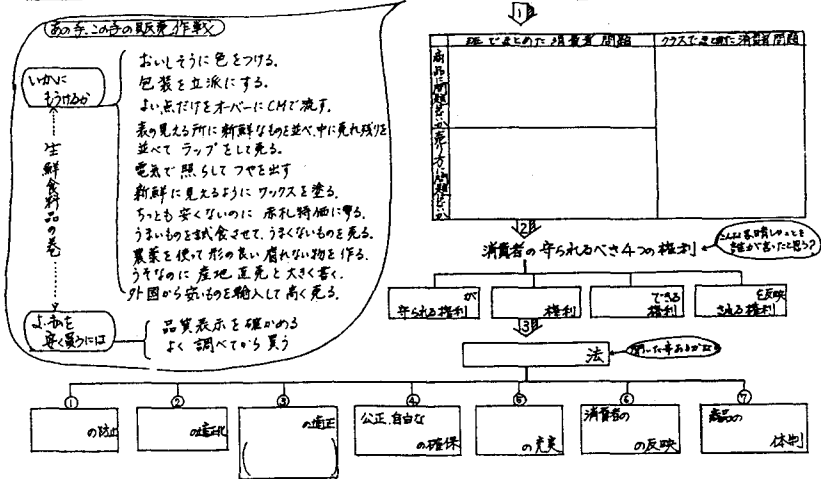
### （三）あの手この手の販売作戦（学習プリントその1）

商業科二年五組は集中力がなく、受身の学習態度が目立ちます。黒板に書いたことは一生懸命写すのですが、メモを取ったり、自分の考えをまとめて書くのが苦手なクラスでした。しかし、知識をただ丸暗記するだけでは身についた学習とは言えませんから、何とか活発に意見が出て、学習したことを自分でまとめることができるようにしたいと思い、生徒たちとこんな約束をしました。

「手を挙げて発言した人は平常点の参考にします。班活動は班員全体の評価にします。また、手を挙げて発言しなくともきちんとまとめて書いている人もいるので、まとめ方も見せてもらいます。とにかく、積極的に参加しましょう」。

こんな点数をぶら下げた学習意欲の高揚は邪道だと、お叱りをいただくことは承知で書かせてもらおうのですが、私も本当に悩みました。静かさがだけが取り得のような彼女たちをど

はじめは、前時学習の確認はしてありますか? 『あの手のうの販売作戦』を分析してみよう。



う奮い立たせるのか。もちろん、学習内容の工夫と指導法の工夫が一番肝心なので、その努力は欠かせませんが、あれこれ試みてもどうも乗り切れない彼女たちに頭を痛めた私は、後ろめたさを感じながらも、点数というスパイスをかけてみようと思いました。彼女たちが重い口を開くの慣れるまでという期限を決めての実施ですが。

ところがどうでしょう、彼女たちはてのひらを返すように競って手を挙げ始めたのです。そのドライさが未恐ろしくもあります。とにかく自分の考えを発言する生徒たちが三分の一程でできたのはうれしいことでした。

また「型にはめてしまうのではないか」と、これも意見が分かれる所でしょうが、画一的な欠点は余白を利用することにして、図のような学習プリントを作り、授業を進めました。

前は商業科の特性を生かしてクラスを二つに分けました。片方は「いかにして儲けるか」、もう片方は「いかにして良い品を安く買うか」を、衣類、家庭電化製品、生鮮食料品、菓子や飲み物の四点について考えさせる「あの手の手の販売作戦」と名付けた授業をしました。生徒がプリントにメモを取ったように圧倒的に悪徳商法の悪知恵が多く出て、それに対する消費者側の弱い守りの姿勢が浮き彫りになりました。それが今の社会の状況そのままであることに気付き、次に学ぶ消費者問題や権利への大変よい問題提起となりました。



## 小金井老後問題研究会

〈二瓶万代子〉

略して老問研と言っています。71年9月に二十名で発足し現在約二百名。募集などしないのに会員が増えてきたことは老後の生活の諸々が厳しく不安多い高齢化社会になってきたからだと思われます。一応、小金井という地域性があるのですが、会員の20%は都区内と他市他県にわたっています。例会、講習、講演、見学、ハイキング、ダンス教室などの他、会員外にも、専門医等によるリハビリ相談事業を小金井市の委託で定期的に行い、家庭介護の手助けとして入浴や訪問等も行います。このように毎月何かがあって、月初めにニュースを発行。全部に出席しようとなるとかなり忙しいのですが、出席率は良く、また必要とあらば行政に陳情して制度や施設建設の運動をして成果をあげています。

これら計画運営は、総会で選出された世話人約二十名が、健康研究、助け合い等の六部会に属し計画など担当。世話人は会の運営のために自分でやりたい仕事にとり組むという意識、他の会員も、参加しよう…という意欲、気力があることが結局自分の健康につながり生き方も学ぶのだと思います。22歳から100歳まで(平均68歳)、会の活動も18年目に入ります。五年毎に記録『老後を考える』発行。『戦争体験記』も二集。連絡先 T184 小金井市緑町5-12-34 二瓶万代子

R0423-81-3457

## 自己紹介 イキイキづる一ふ

### 『共育』の会

〈鈴木圭子・金田富佐江〉

「教育委員の準公選をすすめる全国交流集会」神奈川大会(85年十一月)の参加者を中心に、ミニ冊子『共育』の発行、情報交換、学習会などの地域活動をしています。

『共育』の主な記事は、藤沢市の「教育委員会定例会傍聴記」をトップに、PTAや地域の学習会の記事、お知らせコーナーなどです。友だちから友だちへ、つてをたよりに「B6判一ページをあなたの自己表現の場にしませんか」と呼びかけてつくってきました。出来、不出来は二の次に、仲間と集って一つのものを創り上げることを楽しみに、ほぼ毎月、公民館を拠点に発行を続けて36号になりました。

メンバーは、PTAをきっかけに教育問題に関心を持った者、子どもが通う学校にPTAが無いことから組織づくりに関心を持った者など。社会教育や人権問題、平和問題、反原発と、それぞれの発想を大切に、仲間づくりを進めています。関わり方も全く自由、関わる人の主体性をなによりも重んじています。出発点の課題「教育委員の準公選をすすめる」ためにも、まず市民サイドに自治の意識がしっかり定着していなければ、との思いで活動をつづけています。

連絡先 T251 藤沢市鵜沼桜が岡2-2-16 金田富佐江

R0466-25-0034

〈お詫〉6月号本欄タイトルは大学家庭科教、研究会でした



## 「平井レポート」に対する異議

村田 直文

ここで「平井レポート」というのは、本誌の本年度四、五月号に連載されたもので、昨年初の新島淳良氏の講演を要約されたという平井雷太氏の論稿です。そこへのべられていることは、ウイの仲間としては黙って見逃す

ことのできない問題点をたくさんふくんでいます。ほんとうは、筆者ご自身が自分の書かれたものを再検討されるのがよいのですが、編集部との話しあいの上、私が問題点を指摘して訂正する役目をつとめることになりました。なお、私は新島氏の講演にふれておりませんので、私の議論の材料は、ここでいう

「平井レポート」に綴られている話だけに限られているものであることをお断わりしておきます。

①「平井レポート」はまず、ギリシャ語や中国語の語義を例にひいて民主主義について定義し、〈天皇制と民主主義とはちっとも対立しない〉とのべています。デモクラシイとは〈支配の一形態〉であって、〈民主制と本当に対立するのはアリストクラシイです〉と

ものべています。

デモクラシイに対立する体制はアリストクラシイだけではなく、モノクラシイ（モナーキイ・君主制）もあればティラニイ（専制）もありました。天皇制は君主制の一形態ですから、「平井レポート」は、民主制は君主制と対立せず貴族制だけと対立する、もしくは天皇制は君主制に非ず、という主張をしていることになります。

そういう主張の論拠らしきものとして、中国中世の名望家支配の話がでてきます。しかし、中世だけでなく古代でも近代でも、専制君主にも独裁者にも、中国でも他の地域でも、名望家の支配はあり得たし、名望家でない支配もあり得たことはよく知られていることです。従って、歴史の流れをアリストクラシイ・名望家クラシイ・デモクラシイの三段階でとらえるかのような、もしくは三つの体制に分類するかのような議論は、事実には反するものです。

②天皇制のもとでは、天皇を神としたり、名望家のイメージで売りだそうとするような情報操作がおこなわれます。こうした情報操作に対する批判的検討なしに、それをうのみにした議論を展開することは正しくありません。

ん。

さらに、「平井レポート」のいう通りに、天皇制が名望家信仰の多数の人々の意向を反映しているものとすれば、それは文脈上名望家クラシイに分類されなくてはならないはずですが、いつのまにやらそれをデモクラシイに分類して、天皇制は〈日本的民主主義そのもの〉と結論づけるのもおかしい話です。このような文脈と論理の無視は「平井レポート」のあちこちにみられます。この結論の例の場合、例の人間宣言に対する裕仁天皇の注釈と同一の主張をするためにおこなわれるわけですが、論理の乱れは結論の誤りを証明するものです。

③中国社会主義（の体制）の現実には社会主義（の理想）からは遠いとか、日本的民主主義（の体制）なるものは民主主義（の精神）を実現していないとか、そういう議論なら現にあちこちでなされていることです。だからこのままでは民主主義（の体制）への関心がうすれてファシズムがおこる危険があるとか、民主制への関心を強化しようとか、そういう議論がなされるのももつともなことです。

ところが、新島講演をまとめたという「平井レポート」の風変わりな点は、民主制すな

わちデモクラシーは政治体制すなわち支配の体制であるから、〈新しい時代〉の人々が関心を示さなくなるのは当然だ、というような命題をうちだしたところにあるでしょう。こうした命題は、ウイのひごろの理念に反するものです。

こんな命題を提示するために、〈日本で民主主義とよんでいるものを中国では二つに分ける〉という思ひつきが示されます。べつに中国でなくても、英語にも日本語にも同様な用例がありますから、〈中国では〉と断わるのもおかしいことです。さらに、〈中国語の民主制はデモクラシーの訳語だ〉と特記することで、あたかも中国語の民主主義はデモクラシーを意味せず、デモクラシーは民主主義の考え方を意味するものではないとするかのような印象を与える記述をしたのもまちがいです。デモクラシーという英語には体制という意味も考え方という意味もあり、その漢字訳としての民主主義という言葉も、二つの意味で用いられているからです。

人々の政治学的関心は、人が人を支配する力をめぐって、そのあり方とか、その用い方とか、その改革・廃絶・創設・消滅など、さまざまな議論を生みだしてきました。民主主

義の理論もそのひとつです。また、それらの議論のなかには、マルキシズムとかアナキズムとか、特に支配の消滅について論じたものもあります。「平井レポート」も支配の消滅にふれているようですが、〈民主制という中国語の語義〉を論拠とし、それは〈支配の体制〉を意味するから、また〈新しい時代〉の人々は支配に関心をもたないから、だから〈民主制の時代は終わった〉と主張しています。こうした議論は言葉のからまわりというものではないでしょうか。

④ 〈民主主義というのには「能力のあるものは支配者になれる」という信仰の上に成り立っています」として、特に太字で書かれた命題も同意できません。

そういう「信仰」は、いつの時代でも、どんな体制のもとでもあり得たでしょう。しかし、だからといって、現代の民主主義はもちろん、古代のデモクラシーにしても、その体制がそういう信仰の上に成りたっている、とすることには根拠がありませんし、「平井レポート」の上でも、納得のいく形で示されてもいません。そういう「信仰」は、覇権主義の時代にはふさわしいかもしれませんが、民主主義の考え方とも体制とも無関係でしょう。

ツキジテスがペリクレスに語らせているところでは、古代ギリシャのデモクラシーでも、各人の平等とか多数意見の尊重とか、能力主義とは異なる価値観が展開されています。アテネの歴史のなりゆきも、そういう「信仰」とは無縁の、反対のといつてよい動きをしました。すぐれた能力をもつアレキサンダーの支配は、デモクラシーの否認の上に成立しました。もちろん近代の民主主義は、そういう「信仰」とは全く異なる動機から出発したものです。

⑤ 「平井レポート」における民主主義の定義は、古代ギリシャのデモクラシーの語義や、〈民主制という中国語〉の語義から説明されています。

現代民主主義と古代アテネのデモクラシーとの間にはたくさんのがががあります。決定的なちがいは、近代以降の民主主義は、「個人の尊厳」という理念にもとづく人民の努力によって築かれてきたことでしょう。この点を無視して、民主主義についての恣意的な定義をつくり、民主制の消滅を説くことは正しいことではありません。

⑥ 「平井レポート」がのべているように、〈民衆出身の大臣や支配者が生まれる体制が

民主制なのだ」ということになり、明治の日本はおろか、織豊体制も幕藩体制も民主制ということになってしまいます。大間も公方も、もともとは一定の能力によってのしあがった人たちだからです。民主主義または民主主義体制を、能力信仰乃至能力主義によって特色づけようという「平井レポート」の試みの破綻は、このようなごく単純な例示からだけでもあきらかです。

⑦「民主制がヒトラーを生み出した」とか、「ヒトラー権力はワイマール憲法の条項を一つも侵さずに成立した」とかという「平井レポート」の記述も誤りです。

ワイマール憲法が民主的先進的と評価されるのは、生存権保障をふくむ経済的正義の保障条項にもとづいています。自由権保障の形式は、明治憲法の形式とそれほどの変わりはありません。しかもこれらの条項は単なるプログラム規定で、実際には施行されず、「憲法を暮らしに生かす」どころか、はじめから空洞化が進んでいました。つまり、ワイマールの民主的諸条項は、ヒトラー登場時すでに「侵された」状況がありました。しかもヒトラーは、例の国会放火事件で八十余名の共産党議員を逮捕し、はじめて例の全権委任法を

成立させることができました。反対した社会民主党はじめすべての反ナチ団体は、ワイマール憲法の条項に反して解体におこまれました。こうして、憲法の精髓としての人権保障条項が侵犯され、停止されたのです。こうした状況は、民主主義の精神が未成熟で民主主義の体制が不備であったからこそおこったことで、民主制であったからおこったというものではありません。ヒトラー権力が「ワイマール憲法の条項を一つも侵さずに」成立したというのは、事実には反します。

ヒトラーの全権委任法によく似た日本の国家総動員法も、その成立の際には明治憲法違反という批判が提出されています。ヒトラーははじめから憲法を蹂躪する運動を進め、暴力とデマゴギーを武器として民主制を破壊したのです。

⑧「平井レポート」が、「人権擁護の思想は、アメリカ独立宣言から出たということになっていきます」とのべているのは、何を根拠にして言われることでしょうか。こういう言い方は、人権思想の歴史を偽わるもので、アメリカ独立宣言成立に至る民主主義の歴史をかくすものです。

また、アメリカ独立宣言には、「平井レポ

ート」でいうような「人権を侵したものに對しては国家によってそれを罰する」と謳われている部分などありません。「平井レポート」はこれをアメリカ独立宣言のなかでも特に「重要」として引用する形をとっているわけですが、この「引用」は全くの虚構にすぎません。むしろ、アメリカ独立宣言は、「人権を抑圧する国家を人民が打倒する」との正当性を謳った文書として知られています。

民主主義の歴史の中の重要文書についてのこのような歪曲は、民主主義の歴史を論ずる見識の有無を疑わせるものです。私は、かりに新島講演がそのような虚妄を論じたとしても、文責をもってそれを紹介する者は、なんらかのコメントがあつてしかるべきところであろうと考えます。

⑨「人権擁護の思想とは、国家によって人権を守ってもらおうという思想です」という「平井レポート」の記述もたいへんなまちがいです。

たしかに、民主国家は人権擁護を目的に掲げて設立されましたが、それは、人権を権力によって守ってもらおうというのではなくて、人権を尊重し人権を侵さないような権力

をつくらう、そういう国家をつくるのが人  
民自身の人権努力を守る、という論理にもと  
づくものです。つまり、人権を守るのは人民  
自身で、これが日本国憲法97条や12条に示さ  
れた人権擁護思想の「常識」で、私のまわり  
の人々の常識でもあります。もし、「平井レ  
ポート」筆者周辺の〈現代の常識〉がそうで  
ないというのなら、人権思想の歴史と憲法に  
反するその点をこそ問題とすべきだったの  
ではありませんか。

もちろん、現代の人権擁護は、孤立した少  
数の人民の努力だけによつては困難という事  
情があり、人権擁護の社会的努力を国家が援  
助することが求められています。所得の再分  
配をはじめ企業間競争の調整や有害商品の規  
制等々、行財政上の多くの課題が国家に課せ  
られているのはそのためです。多数者支配と  
しての議会政治は、この課題の遂行のために  
必要です。なぜなら、人権擁護の自助努力に  
おける障害は各人各様で、その意味では人  
みな「少数者」であり、そのような少数者こ  
そが実は社会の大多数をしめているからで  
す。現代の議会を批判するのなら、そのよう  
な「少数者」の意思が反映されていないこと  
をこそ問題にすべきであり、多数者支配とし

てのデモクラシーを非難することは見当が  
ちがうものです。

人権擁護思想とは（だれかに）人権を守つ  
てもらおうという思想だとする「平井レポ  
ート」の議論は、幾多の關いを通じて築きあ  
げられたこの思想に対する、さらにその人権  
擁護努力そのものに対する、全くいわれのな  
い誹謗中傷のたぐいにあたるものです。人権  
侵害に苦しむ人々が、国家をふくむ他者にむ  
かつて救援を求める声をあげているとして  
も、もともと人権は人民共同の努力の上にな  
りたつものであり、人民の連帯によつてこそ  
守られるものである以上当然のことです。救  
援が求められているのは人民各自の自助努力  
に對してなのだ、という真実を理解しない者  
は、救援の実をあげることもできないでし  
う。

「平井レポート」が、民主主義の考え方に  
ついて、人権擁護という言葉でしか言い表せ  
ない」としていることには同感します。しか  
し、これを〈実に単純でわかりやすく、あ  
まり魅力的でもない〉と言ひ、その上で右に  
引用したような人権擁護思想に対する誹謗中  
傷をのべたてていることは、ヒトラーのデマ  
ゴギーと同様の、人間性に対する犯罪行為に

あたると私は考えます。

⑩「平井レポート」は、人権擁護という  
民主主義の考え方は、少数は多数に従うとい  
う民主主義の制度と対立する」とものべてい  
ます。

「少数は多数に従う」というのは民主主義に  
おける集団の意思決定のしかたのひとつで  
す。その際同時に「多数は少数を尊重する」  
という原則が守られなければならないこと  
は、よく知られていることです。成員個人の  
人権を守る、ひとりひとりの個人の尊厳を守  
る、ということが民主主義の土台だからで  
す。「平井レポート」はこのことを無視して  
民主主義についての恣意的な定義づけをして  
いるだけでなく、多数決原理についても一面  
的な定義づけをして歪曲しています。

「民主主義と民主制との対立」という命題  
は、「専制主義と専制の対立」と同じように  
あり得ることではありますが、「平井レポ  
ート」のような歪曲を伴う主張はうなずくわけ  
にはいきません。

⑪教育関係の話にもまちがいが目立ちま  
す。

〈江戸初期の武士は本を読むことを毛嫌ひし  
て、チャンバラの練習ばかりしていた〉とい

う言い方には、チャンバラの練習は勉強の範疇にはいらない、読書による知識の蓄積だけが学習なのだ、とするような偏見がうかがわれます。能力開発のためにせよ自己実現のためにせよ、学習には実にさまざまなしかたがあるのが事実ですから、本を読むことだけを勉強とするような見解は誤りです。チャンバラの練習の大家の中には、例えば「五輪書」のような名著をものした人もいることです。

また、多くの藩学が十八世紀半ば以降に設立されたことは事実としても、昌平坂学問所や水戸の彰考館など、その百年もそれ以上も前から開設された武士の学校も少なくはないのですから、「みんな吉宗以降」とするのは言いすぎでしょう。藤原惺窩や林羅山の登用など、江戸開幕当初以来の武士の学問的関心を軽視することも如何なものでしょう。ついでに、「水戸の講道館」と書かれてるのは、弘道館のことをさしておられるのでしょうか。さらに、「貴族制では、支配階級になることを約束されていた者は勉強しなかった」という断定もおかしなことです。有力貴族の間でも支配的地位をめぐる暗闘や能力主義の競争があったことは知られていますし、読書能力だけを競ったわけではありませんが、諸文

書をこなす知的教養は出世能力の重要な要素でした。古今や新古今なども勉強の産物で、彼らの勉強ぶりもかなりのものといわないわけにはいかないでしょう。

「民主制時代の教育制度」というのは、実は支配者になるため、支配制度にのるための制度にすぎない」という「平井レポート」の主張は、以上のような教育史についての誤りや先きのべたような民主主義についての歪曲を複合してのべられたもので、現にその制度を利用している子どもたちやその保護者を惑わすものです。古代でも近代でも、教育制度にそういう一面があったのは事実ですが、近代の多数の人民は、支配者になるためではなく勤労の能力を修得するためにその制度を利用したので、すし、いつの時代でも、支配のためでも支配者に雇用されるためでもなく、例えば楽しみのため、自己実現のためなど、別な動機による学習はあり得たし、学校はそのためにも役立つものでした。

現代日本の学校のありかたには、批判されるべきものがたくさんあるのは事実ですが、「平井レポート」のようなきめつけは、事実

⑩以上のようにみてくると、新島講演に關する「平井レポート」は問題点だらけといえます。

結語部分の「理解せずに仲良くやっていくこと」のすすめにしても、それが「新しい時代」の特色だとするのはどんなものでしょうか。例示されているような関係は昔もあつたことですし、新島氏や平井氏個人にとつて新しい経験であつたとしても、時代のとらえ方はほかにもいくらかあることです。敢えて主張するためには別に言葉が必要でしょう。

「仲良くしよう」(本当につきあつていこう)という言葉には異論ありませんが、同様のことは昔から言いふらされてきた言葉なのです。すから、ことあらためて提言するには、仲良くするとはどうすることなのか、本当のつきあいとはどういう関係なのか、なかみを明確にすることは論者の責任でしょう。私は、「仲良くする」ということの諸要素の中では、一定の幻想の共有とか、仕事やくらしの中の互助協力とかが重要だと考えますが、人権擁護思想に対する歪曲や誹謗を共にしたくはありませんし、民主主義とその制度に対する無関心の助長には協力したくありません。

ついでに、「平井レポート」には「ただ有縁を度せよ」という歎異抄の引用があります

が、私の手もとの原典（大正三年有朋堂書店版「親鸞上人文集」）では、核当箇所は「まづ有縁を度すべきなり」とあって、文脈が異なります。ほかに異本があるのでしたらご教示をお願いします。

⑬「平井レポート」を読み進んできますと、最終結語では「民衆を支配するという意味での民主制の時代は終わる」として、とつぜん、言葉のすりかえがおこなわれます。

「私の朝鮮史」の岡百合子さん、三年前に社会科教師の職を辞し、今は、岩崎書店から刊行予定の『お話各国史』の「朝鮮史」の仕事に専念。十年間の中学校勤務のあと、高校へ。七〇年安保を境に、子どもたちの状況がかわり、次第に授業の成立はむずかしくなる。「伝えずにおくものか」と迫る「熱心」な教師だったのが、授業の内容が問題なのではない、生徒は教室での一斉授業に飽き飽きしているのだと気づき、知識の伝達より人と人とのふれあいを、と思うように。

生徒は興味を持てば、こちらを向いてくれるので、ベン・ハーのビデオや、ジャンヌ・ダルクの絵本で授業を。が、くたびれはてて

ついさっきまで、民衆へが支配するのが

民主制といい、民衆の時代は終わった

とのべていた、そのこと自体をめぐる問題点はすでに指摘した通りですが、それがここへ

きて急に、へがではなくてへをに変えられるのです。民主制や民主主義について筆者

と共に考えようとする読者ははぐらかされてしまします。筆者は書くことに責任をもつべきですが、こうしたすりかえは無責任という

帰宅の日々、ライフワークと決めた朝鮮史との両立は無理と退職を決定する。でも、私を育ててくれたのはあの子たち、と。

学者の歴史学は、くらしには遠い。もつと

### 〈私の朝鮮史〉

の

岡 百合子さん



肌で感じる歴史を書きたい。朝鮮民族の侵略と抑圧の歴史は哀しい。が、底に流れる明るさ

とバイタリテイの素晴らしさも伝えたいと。  
男兄弟の中の紅一点。恵まれた「優等生」

ものです。

「平井レポート」で気になることはほかにもありますが、お願いして与えられた紙面が尽きてしまいました。私は、四月二十日に「平井レポート」の問題点をウイ編集部に指摘し、昨日この稿をまとめることを要請されました。意見を申しのべる機会を与えられたことを感謝します。

（一九八九年五月十四日）

の子ども時代。女学校二年のとき、母と弟と共に疎開し、夢中で働いた。敗戦、一年足らずで帰京、学力の遅れに愕然となるが、当時の体験が、どんなくらしもOKの自信に。

女子大入学後半年で、自治会の委員長に。

おつれあいの高史明さんとの出会いは学生運動の中で。仲間が準備してくれた披露宴は、一升瓶と赤飯を某大学自治会和室に持ち込んでの会費制。花婿が「潜行中」のため、二人とも偽名、花嫁は流行歌手の名前を借用。

戦後の動乱期の真只中。が、そうであるがゆえの明るさと希望があった、と。

カラツとしてダイナミックな素敵なかつた。ユーモラスな、オフレコのエピソードの数々をご紹介できないのが残念です。（稲邑）



# ！ Weの会通信 ！

連絡先 石川由紀  
東京都世田谷区上野毛4-19-12

☎03-701-8578

FAX 03-704-2254

本欄編集担当 平井雷太

東京都文京区本駒込6-15-1

河西ビル5F すーすーくらぐだ

☎03-941-4659

FAX 03-941-5427

## ★関西から熊本につなぐ（その2）

第一日全体会に原田正純氏を迎えての、'89年Weフォーラム。水俣病を原点として自然との共生を改めて考えようという真摯な企画に、大きな魅力を感じています。今年もきっと、ここでWeと初めて出会うひとびとがたくさん集まられることでしょう。そこで、ぜひ実現してほしいひとつふたつの提案を。

まず、よく目につくところに、We誌の発売から今日までの歩みがわかるイラスト入りの楽しい「We入門図」を見やすく掲示する。それから、We誌やWeの会のこともっと知りたい人や、We編集部の人々と直接話したい人のために小さな部屋をひとつつくる。そこにはWeのバックナンバーやパンフレット、購読申込み書などが置かれていて、全体会以外の時間にはいつでも誰かがそこに居て、冷たいお茶を飲みながらゆっくり語り合えるすてきな空間を——。せっかくWeフォーラムで出会ったひとびとを、三日間だけのなかにとどめないで、ぜひWeの新しいなかに迎える工夫をしてほしい。

それからもうひとつ。「We誌拡販アイデア」保持寄「全国交流会」なども設定して下さるとうれしいですね。

では熊本実行委のみなさん、阿蘇でどんな図柄を織りなすことができるか、楽しみにしています。

（金森順子）

## ★熊本からのお誘い（No 3）

一日目、夜の部は、水俣病をテーマにした砂田明さんの一人芝居を行います。先日、水俣にお住まいの砂田さんを訪ねました。

熊本市内より三号線を下ること二時間半。

やつとの思いで、お住まいのある乙女塚農園に到着。ここは、患者さんが最も多く出た袋地区です。竹林に囲まれた古い民家で、おつれあいとお二人で暮らしておられました。

ご挨拶の後、水俣病で犠牲になった生類の全てを祀る乙女塚へおまいりしました。塚の前には、一人芝居用の屋外舞台があり、住まいの横には、民家を増改築した宿泊所もありました。全国はもちろん、海外からの訪問客も少なくないとのこと、なるほど「世界のミナマタ」なんだなあと、改めて痛感。

一人芝居は、石牟礼道子氏原作の「苦海浄土」を劇化したもので、時間にして一時間四十分。一人で演じる砂田さんの姿から、私達が決して忘れてはならない水俣が迫ってきます。We夏季フォーラムin熊本に御期待あれ!!

（片山富美子）

## ★東京でも準備が始まりました

五月初旬一回目の集まりを持ち、子ども活動を中心に首都圏での取り組みについて話し合いました。参加可能な方、是非、実行委になつて下さい。

（鈴木昭彦）

## ★第3回首都圏We誌合評会のお知らせ

日時 六月二十四日(土)午後二時半—五時半  
場所 前掲「すーすーくらぐだ」JR駒込下車  
内容 本誌四月号「子どもたちに生き抜く力」関千枝子さんを迎えて

担当 間瀬中子さん 03-369-0409

ぜひ多くの読者の参加を！（会費五百円）

# 家族と家庭科

酒井はるみ

## 「家族領域」四十年の歩みに

### 着手するにあたって

これまで、家族領域や家族の視点などをさぐるという姿勢を強調してきたかもしれない。それをみつけることは、このシリーズの目標なのだけれども、ひとまず、もっと身近な課題から手をつけよう。

新学習指導要領の家族領域は重複が多く、とりあげる範囲に限られており、独自の視点は説得力に欠けるなどという不十分な点があった。また家族に関する政策上の介入を受けやすいという問題もあった。今回付加された内容もなぜその内容だったのか疑問も出てくるところだが、どんな過程を経て、現行のごとき家族領域の内容を結果させたのだろうか。

家族の領域が、家族関係 (family relation) としてわが国の家庭科にはじめて位置づけられたのは、小・中学校では一九四七年、高等学校では一九四九年であった。戦後教育の出発点であり、最も「明確な立場で家族をとらえた時期」（六月号）であった。高校においては『家族』という教科書が刊行されたほどだから、内容の多さにおいても豊かさにおいてもこの時期を越える時期はなかった。まさに家族領域の原点であった。そして、家族の領域はこの原点に拘束されてもきたのである。今回から当分のあいだ家族領域の四十年の歩みを辿ってゆきたいと思う。

なかでも、さきに述べた家族関係の原点は、軍国主義・超国家主義の排除と、民主主義の家族観の解釈、日米間の文化的なギャップの問題などに直面させられ、混乱とともどいなかにあった。それは、連合国軍最高司令官総司令部（GHQと略記する）の占領政策のもとで、教育に対する四大指令、学習指導要領（試案）をへて、具体的な『家族』教科書となつて学校で使用されるまでの期間であるが、この原点がどのようなものであったかを明らかにしてみたい。この時期は、家庭科の家族領域については、いまだに闇の中だからである。

この時期をことさら長々と書くことをお許しただいて、著者のわがままにつきあっていただきたいと思う。

GHQは教育に対する四大指令（45・10・12）を出し、学

校教育から軍国主義と超国家主義を一掃することをめざした。翌年早々よりGHQ/CIE（GHQ民間情報教育局、精神風土、教育、宗教などの文化的側面の非軍事化・民主化を担当した局、以下CIEと略記）の「検閲」のもとに暫定教科書が刊行された。

ここでは『高等科家事』第一学年用（46・8文部省検定済、46・10発行）をとりあげ家族にふれた内容の一部を紹介しよう。

祖孫一體のうるはしい風は、家庭に於いて老人に仕へる心の上にも、おのづから現れます。家の事は、何事も先づ老人にはかってし、老人が満足すれば家の者も皆満足するといふやうな家風はまことにゆかしいものでありまして、いはゆる敬老は、かうしたなごやかな心から湧き出るものであります。（中略）

老人は又、あらゆる世の辛酸を越えて、長く世に生きた方だけに、ゆたかな経験や、深い思慮の持ち主であります。随って、老人の意見には聞くべきものが多く、その教へには、祖先の遺風が生きて生きたと傳はつてをります。老人は生きた家風であり、家訓であります。（中略）

時勢の進運に伴なふ家事の改善などに就いても、家のふりいしきたりの精神を新しく生かすやうに努め、よく老人の指導を乞ひ、諒解を求めるやうにしなければなりません。（二）三頁、

原文のまま）

祖孫一體の風とか祖先の遺風など、「家」制度の考えを色濃く残したものとなっている。「家」制度は、皇室を宗家とする一大家族制度であるから、超国家主義に触れるという理由で排除される対象であったが、わが国古来の淳風美俗（素直な気風、美しい風俗）として「検閲」の目をくぐったものであろう。

また老人のみを重視しており、家族は三世代からなる直系家族がモデルとなっている。「家」制度は個々の家族レベルでは直系家族制（家族は直系的に継続再生産され、親の社会的地位、遺産、祭祀などをあとつぎが独占的または優先的に継承する）をとっていたのであるから、この家族モデルもまた「家」的な発想にもとづくものといえるだろう。

常見育男は、戦前の学校における家族に関する指導は、主婦の責任の強調と、老人への絶対の奉仕であったと述べているが『家庭科教育史』、暫定教科書の内容は、いわゆる墨ぬり教科書に近かったようである。

一九四七年には新学制となり、新しい教科書も用意されたので、この暫定教科書は半年のいのちだったことになる。

## 親子論と心理学

### 親子関係診断テスト

をめぐって



小沢 牧子

(カット・井田裕子)

### 心理学の不遜な望み

臨床心理学の「修業」をはじめたばかりの頃、師事していた心理学者が言っていたことが印象に残っている。

「心理学は個人の内面をとらえることをめざしてきたけれど、これからは二者間、複数間の関係をおさえることが大きな課題だ」と。つまり、Aという人、Bという人個人ではなく、両者のあいだに生じてくる関係法則を説明することが、今後の心理学に期待されているというのである。

若かった当時の私は、ふーんそんなものかな、とそのことばを聞いたのだけれど、いまはそんな不遜な望みを心理学に

持つてほしくないと思っているし、また事実、ありがたいことに、それは実現不可能な期待だと考えている。

二者間、といえど親と子はそのありふれた例なのだが、親がこうであれば一般的に子はどうなる、という具合に決していかなないところが、生きもの同士のおもしろさなのだ。

### タバコ、そして親と子

先日、親と子の関係などをがやがやとおしゃべりする集まりがあつて、話の流れがタバコのことになった。ひとがタバコを吸うようになること、または吸わないことと、親の喫煙との関係についてである。

Sさん(女性)は、ヘビー・スモーカーである。でも高校生の娘さんは、わたしは絶対にタバコを吸わないよ、とそれを嫌うという。そう、親はだいたい反面教師になることが多いからね、という声。じゃあ、Sさんのお母さんはタバコなどに縁のないマジメ人間だったの? と質問がとぶ。いいえ、母は吸う人だったわ、家のなかはいつも煙、と答が返る。

Mさん(男性)はタバコ嫌いなので、息子さんが中学生の頃、こっそりタバコを吸ったのをみつけて、きびしく叱った。中学生の年で、という理由ではなく、ただ自分がタバコがいやなので禁じたのだ、という。それで、成人になった息子さんはいまは? ああ、ずっと吸ってます。なんとなく皆笑う。

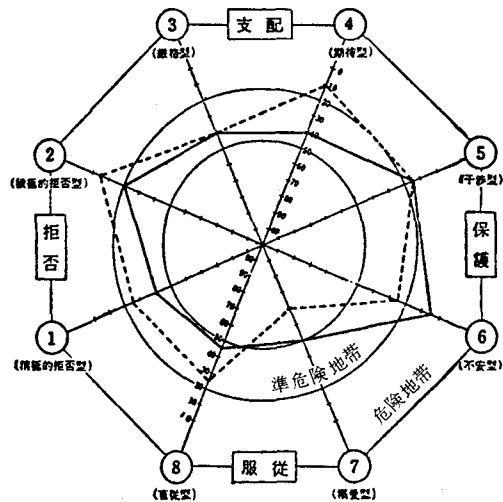
親に似たり、似なかったり、惚れたり、反発したり、親と子の縁のありかたはいろいろだなあ、とおもしろい。

私の家では、夫がほとんど吸わず、私がたまに吸い、ふたりの大学生のうち長男は相当に吸うが、次男の吸う姿を見たことはない。ひとは時間の流れと空間の広がりのおかげで、それぞれ自分独自の姿にたどりついてゆくが、なぜその姿を選びとったのかを測り知ることは到底できないし、その必要もないのだと思う。大切なのは、子どもの姿を親子関係に閉じこめて見すぎないことだろう。子どもが、強者である親の影響のもとにあるのは確かだが、しかし親子関係を肥大させて見すぎるのも、しばしば危い。

## 測定をこばむ確かな力

親子関係をめぐる心理学的研究はたくさんあるが、具体的にそれを測定しようとするものに、「親子関係診断テスト」とよばれる心理テストがある。100項目の質問をもとに、親のタイプを大きく5型に分け、それぞれをまた2型に分けて、合計10型に分類し、各タイプの親が子どもにひき起こしやすい問題が指摘される。テスト結果はダイヤグラム(図参照)によって表わされ、親子関係の「正常性」、「問題性」が視覚的によみとれるようになっていいる。

テスト作成者によれば、このテストの意義は、親が自分の



をはぶき、要点をつかむために便利なテストになるであろうと信ずるものである」とも、はしがきにのべられている。

親と子の相互関係をすつきりととらえたいという願望は、それを測ろうとする側にも、また測られる側にも同様に強いようだ。しかし親子の間に「たごた」と立ちこめる混とんは、混とんであるがゆえの本物性と力づよさをもって、浅はかな測定や分析への欲望をこばんでいるように、私には思われる。

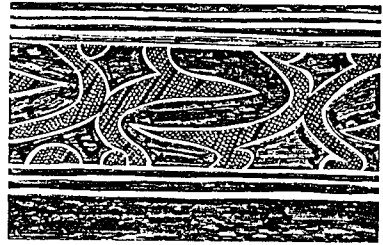
態度を客観的に自己評価し、子どもが親をどのように見ているかを知る手段を提供すること、そして親と子の間の問題点を科学的に診断することにあるという。また、「これは必ずや多忙の現場教師のために、その労力

# 海の輝く日

## 齢ということ

佐藤通雅

(カットも)



「レディに齢を聞くのは失礼よ」「齢の話はやめましょうね」「ああ、齢はとりたくない」……齢のこいいい出すと、いやがる人が多いのです。でも私はいうんです。いじわるだから。年齢相応に内も外も齢を重ねるのが最も理想的にちがいないりません。でも女性の多くは齢をごまかしたがる、いつまでも若くいたがる。どうしてだろう、どうしてレディに齢のこ聞くのが失礼なのだろうか——ずいぶん長い間解けない疑問です。

周辺の女性を見るともなく見ていて、正直なところ心を痛めることがあります。三十も過ぎるといやでも皮膚がたるんでくる。それをかくそうと化粧する、しだいに厚くなる、厚くなるにつれて皮膚はいよいよ老化する。それは老いを恐怖

し、あくまで若い日の自分になぎとめようという、ほとんど必死のあがきのように見えます。当然、この時期の女性に齢や化粧の話をするとてもいやがられます。こちらも話題に気をつかい、相手を傷つけないようにとずいぶん気配りもします。にもかかわらず時間はいやおうなくなつた。今まで年齢の自然に反した改造を外側にほどこしていたのに、それもやがて限界に来る。このとき、どのように無惨な思いで老いを受容するのだろうか……。この一瞬のドラマに私は心が痛みます。

しかし女性の目が晴朗になるのは、このハードルを越えとげた後にちがいありません。生き生きしている、かくしごとがない、シンプルだ。こちらにも全く対等に、何の気づかいもなく対せる気持になります。もし、もつと若くからハードルを越えていたら、男女の関係はもつともつとちがったものになつていたらうと私は想像します。

こんなことを考えていたところに「棧橋」が届きました。短歌結社「コスモス」の若手の人たちの集合している歌誌です。騰写版刷りを貫いている本造りが好きで、ずつと愛読してきたのですが、今回の十八号に河野裕子さんが「横に走る涙」というエッセイを書いています。電話で馬場あき子さんと話していて、「あのね、私、ある時に、思い切ったんだよ。若さということね。前髪をあげたの。思いきってひきつめ

にあげちゃったの。あの時に、もう思い切ったんだ」という声が届いたということです。河野さんはここから話を展開させ、「誰もが自分は若いと思っている。人は内側から齢をとるのではなく、外側から齢をとるのではないだろうか。人から容姿や能力や感受性の衰えを指摘されたり、他人との比較から、つまり外側からいやおうなく齢をとらされるのである」といいます。そして結びは「この頃気づいたことなのだが、うまく齢をとった女の人たちは、たいてい明るいはずだった眼をしているのだ」です。そうなんです、裕子さんと、思わずつぶやいてしまいました。実際はうまく齢をとれない人が多くて、ぎりぎりのところで地獄にでも落ちるようなハードルを越えるのですが、それでもその後こそ晴朗な目をとります人も多いのです。

ところで私は、若がえりたいと考えたことは一度もありません。年齢不相応に若く見えることがどんな目にあうか、恥を忍んで書きます。意志に反して童顔がなかなか消えようとしないうちに、ある日パチンコをしていてママポリスに補導されてしまいました。学生の頃ならともかく、教員になってからですから身分を明かすのも恥ずかしく大変困りました。高田馬場の本屋で成人雑誌を見ていたら、「ボク、やめな」とくり返す低い声が聞こえます。誰のことかと顔を上げたところ、店のおばさん、自分の方を見ていっただけでした。女

子高に勤めたときは二十七ですから、少しは貫禄がついてきました。ところが新聞部の合宿で鳴子に引率して行ったときのことです。合宿所は温泉街のもっと奥にありました。いったん荷物を置いた後、一人の生徒と車で買い出しに街にもどったのですが、誰が見たのか「○○女子高の生徒がへんな男と温泉で遊んでいる」といううわさが流れてきたのでした。講演に呼ばれて会場に行き、時間を待っていました。すると係の人、自分の目の前で「講師の先生、まだ来ない」というろろしているのです。むこうは立派なバリツとした講師先生を想像していたのですから無理ありません。こんな恥ずかしい話がいつぱいあって、段々穴に入りたくなってきたからもうやめます。

四十五に近い頃から、やっと白髪が出てきました。顔の皮膚もぶよぶよになってきましたから、もう誰も見誤りません。立派に「齢」です。活字を見る目もとうとうかすんできました。そこで先日眼科で検査を受けたら「まだ眼鏡はいらないが老眼の初期です」という診断でした。

「オレもいよいよ老眼だぞ、年齢相応に齢をとりはじめたんだぞ、腰だって痛いんだぞ、どうだ、まいったか」。

自転車で帰りながら、大空いつぱい叫びたい気持ちでした。誰に向かって？ さあ……。

私、捨て子

だったんです

——川崎絢子さんへの

インタビュー——

NETWORKNETWORKNETWORKNETWORKNETWORK

## 広がる ネットワーク 〔Ⅳ〕 平井 雷太

NETWORKNETWORKNETWORKNETWORKNETWORK

そう」って言うてくれる。だから、こういう話はあんまりしたくないなという思いはあるんですけど。自分のことをかわいそうって思ったことはないんです。

五歳で火を起こして、お新香切ったりとか、おしめの洗濯までやりました。そのころは洗濯機なんてなかったけど。

平井…五歳の時に捨てられたんですか？

川崎…西内さんと「強者の論理」をめぐるって論争することになったのは、川崎さんとの話がきっかけだったんですが……  
川崎…「学校という制度にあまり期待しない」という話をしていた時に、西内さんが「学校というのは弱者にとつて必要なのよね」と言ったんです。そうか、彼女は自分を「教育する側」に置いてものを言っているなと感じましてね。  
みんな学校で救えると思ってる部分があると思うけど、私は救えるなんて思わない。弱者って一体何だろうって思ったんですよ。自分のおいたちから考えてね。

平井…自分のおいたち？

川崎…私、捨て子だったんです。まわりはみんな「かわい

川崎…捨てられたのは小一の時ですけど、実は本当の両親は離婚していて、五人の子どもを母親がひきとっていたんです。その苦労がたたって病気になり、五人のうちひとりをお父さんがひきとることになった。それが私でした。父のところには継母がいて、その人がちやうどその時期つわりだったのね。だから、自分の子どもが生まれるのに私をひきとりたくない、それを無理やりひきとってしまった夫に対して不満があったと思うの。その不満の八つ当たりが私にきて、私に家事を全部させるということになった。実際、自分もつわりで動けないというのがあったみたいですけど。

連れてこられた時は実の母親にだまされて、「お父さんのところに行くから」と言われて一緒に行って、それで母親は



「ちよっとトイレに行ってくる」と言つてそのまま。

父親に「今日からこの人をお母さんと呼べ」と言われまして、呼べないわけですよ。ましてや母親が恋しくて泣いていましたから。でも、泣いてると怒られる、そんなわけではなくビクビクしていました。

父親は中学で国語の先生をしてましたけど、昼間仕事に行つていると私はいじめられちゃう。うっかり逆らったりすると、父親がいない時に「あの時にあんたは」つてやられる。

平井..それで、どうして捨てられたんですか？

川崎..私が原因でしょっちゅう喧嘩になるんです。私が行つてから二人目の子どもが生まれ、実の子を二人抱えてね、生活も苦しかったから、その女の人の実家で暮らすことになったんですけど、私だけは連れていかない、ということになったらしいの。連れていく連れていかないで、すごい夫婦喧嘩して、「じゃ、私は別れても、この子は連れていかない」と継母が言った時に、父親がハタと困った。

平井..子どもを取るか、奥さんを取るか……

川崎..そう。そうすると当然私をとるということにはならなかった。その頃、私は町のはずれの方に住んでいて、五歳の子がおしめの洗濯したり買い物したり、米屋さんに米をとりに行つてひきずるようにしてエッチラオッチラ運んでいるという光景は、その町の中でも異様だったと思うのね。

平井..そんなことやつてたの？

川崎..ええ。水道なんかないから、水くみなんかもね。そのころは川の水をこして飲み水にしていた。井戸掘るなんてお金がかかるから。私は冬でも川の水で洗濯してたから、しもやけができてもう皮がむけちゃつてるわけ。

平井..それが五歳の時？

川崎..そう。そういうのつて、やはり見てるとかわいそうだし、近所の人はいわさは知っていたわけですよ。あそこは継母だから、いじめられてるらしいつて。私が町の方に買い物に行くとな、大人がちよっと「これ食べながら帰りな」とか言ってくれた。親切だった。どこの家の人が私をかわいがっているかということは父親も知っていたらしい。

それで、ある日すごい夫婦喧嘩をしてね、「こんな子がいるおかげで」と言つて、義理の母が出刃包丁をもって、私を追いかけてきたの。

平井..ええ!!

川崎..で、とにかく一目散に逃げたけれど、さて、当分もどれないつていうのだけは分かった。で、なんとなく町の方に歩いて言ったら、その人(後の義父)が声かけてくれたわけ。「どうしたの？」つて。ちよっと様子が違うから。「ちよっとこういうことだ」とか言ったら、「夫婦喧嘩なんてそのうちおさまるもんだから、それまでうちにいたらどうか」と。そ

このうちにいて三時間くらいしたら、父親が来てね。一晩明ければ彼女もわかつてくれると思うからって。それは私の前で話したんです。それで一晩だけお預かりしましょうっていうのが、次の日迎えに来なかったのね。

三日たっても来ないのでその人が行ってみたら、私の家にもぬけのカラ。私の学校の道具だけ、家の入口のところに置いてありましたけどね。その人に「引越先知っているか」と聞かれましたが、私も、「わかんない」。

平井..もうそれっきり？

川崎..その人のところでは私を預かるつもりはなかったのに、親を捜しているうちに日数がたつてしまい、それじやという事で小五の終わりの養女になった。五年間は面倒見てくれた人と姓が違っていたわけです。

平井..普通に考えたら、川崎さんは弱者の部類に入ると思うんですが、自分を弱者だと思ったことはないわけでしょ。

川崎..ないですね。私、自分をかわいそうな子だと思ったことないし、私が弱者って言う時は、それこそ足が悪い人や手が悪い人、身体が悪い人って思い込んでいたの。

でも、役所に勤めてから他のところでいろいろな人に出会ったりして、手話なんてやってみたりすると、そんなことはないって気がついた。ハンディを負っているから弱いものだ、なんて言えない。私なんて自分のこと、あの年齢でよく

あんなことができたな、という思いの方が強いんです。

平井..辛くはなかったんですか？

川崎..辛いとは思わなかった。やることで自分の居心地がよかった。私にとってはやるだけのことやっているんだからという感じでね。ごはんなんて、帰ってきた時に用意できていると、本当に「食べてもいいんでしょか」という感じでした。ところが、自分でやって作って、「はいできました」という時は、自分で遠慮なく食べられるという感じ。

平井..そういう意味では昔の徒弟制なんて、外から見ているほどしんどくなかったのかもしれないですね。一生懸命仕事をするのに、そこにいさせてもらえる、食事ができる。主婦も同じかな。家事や子育てをきちんとやっていることで居心地がいい。

川崎..さんがそんな育ち方をしていると自分の子どもにはこう育てたいという思いがあったのではないですか？ 子どもにはこう育って欲しい、こうなって欲しいとかいう時期もあったのでは？

川崎..期待はしていませんね。私は養父母に期待されたことですごく苦しい思いをしましたから。ただ、どんな環境でもその場に溶け込んで生きていける、そうやってほしいなとは思っています。現在、息子は高校卒業後一浪して、長野の旅館に住み込んで雑用していますけどね。

#### (4) 学校氏の欲望 (一)

「学校とはどんな所ですか？」

もし、《遊び人国》からやって来た人が、こう質問したならあなたはどうか答えるのかしら。

「社会へ出るために必要な知識を教える場所です」

「すると賭博場のようなものですね。わが国ではいかに社会で生き抜くかを賭博場で学びます」

「責任ある大人になるためのルールを学ぶ所です」

「ああ、すると酒場のようなものですね。わが国では子どもたちは酒場での大人の有り様を見て社会のルールを学びます」

これは要するに《遊び人国》とこちらの国の文化の違い。私達は《遊び人国》を困った国だと思つてはアカンのやね。

なら、この人にこっちの学校をどう伝えるか？

「学校とは、①同年齢によるクラス編成②教室③時間割④カリキュラム⑤教科書⑥試験・成績、によって成り立つ場所です」が答えやと思う。

## あっちゃ、こっちゃ、フフフ

### 田中正彦

随分あっさりした、身もふたもない答えやと思う人もきつとあると思うよ。それは器の話であつて、その中身、目的を伝えるべきやつて。

けど、この「六つの大切」は学校氏の性格・性質であり、これによつて学校氏は存在する。つまりアイデンティティやね。私達はいついつい中身へばかり目を向け、その改善や改革を議論する。せやから器はそれの従僕だと考えてしまふけど、中身は器が存在して初めて成立する。器を方法と呼んでもいい。それは当たり前と言う仮面を被つて、したたかに存在し続ける。歴史的に見れば、学校氏は、別に子どもの未来のために作られたのやなくて、近代資本主義のために作られた生き物ネ。私達は自分の子ども時代や青春時代が空しくなるのは厭やから、学校時代を内容的に意味があつた・無かつたと言うレベルで判断しようとする傾向があると思う。けど、実際の話し学校で学んだことは、授業の中身以上に、「六つの大切」の方なの。つまり中身・目的とは、ある意味で学校氏からのキャッチ・コピーであり、出向いた私達はそこで別のこと、器の正当性をインプリントされるの。

(続く)

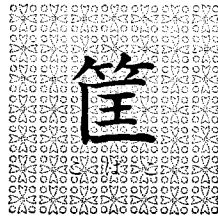
七月、笹の葉のそよぎを見て星に祈り、愛の物語をなつかしむ。天皇制国家は四大節く五大節を盛大にして節句の変質を謀ったのに、何の国家的意義もない行事が今も親しまれている。

なぜ笹の葉なのか。なぜ短冊や紙飾りなのか。同じ疑問は五月の鯉のぼりにもあてはまる。鯉は汨羅の淵に果てた屈原の操のしるしとしても、それはなぜ掛軸や置物ではないのか。なぜ矢車や五大を象徴する五色の吹き流しを伴うのか。

インドネシアのバリ島では、七夕飾りに似たペンジョルが全集落に林立している。それは竹竿にやしやすきなどの繊維の工芸をとりつけた織りで、造形は多種多様だが、どんなかすかな風の動きも逃さないところに特色がある。風はアニマ、アニマの原義は空気の意だが、やがてその動きや生きものの息吹きや気配、それらを生み出す主体としての精霊を意味するようになった。人々はペンジョルのゆらぎに各種精霊の降臨憑依を感じ、その供養をしながら共に生きる。こうして、バリ島は神々の島として知られるようになった。

近代の実験室での知見よりはるかな昔から、空気の实在や森や湖や木石・工作物までの生命を悟

## アニマの風



■村田直文

り、重々無尽の相互依存の世界観を築いた感受性や想像力は、愛すべく学ぶべきものと私は思う。精霊は善悪多様で、悪霊を退け固有の精霊を守るために、各種造形と共に金属宝玉のアクセサリーも考案された。精錬研磨は往時最高のハイテクノロジーで、製品にこもる人間の精魂は靈妙不可思議の働きをした。人々はそれらのゆらぎやきらめきに精霊降臨を感じ、安心立命を確かめながら生きた。精霊はしばしば、いわくちに立ちかまくらにこもる。かまはアーク、くらはポジシンの意で、世界各地の磐座・鎌倉崇拝は、見あげる高みや奥深い暗闇に対する人々の感受性を物語る。

かつて東西の戦士は、戦闘の機能よりも旗幟を掲げることを優先した。各地の霊場には必ず、ゆらぐもの、はためくものが飾られている。韓国シヤーマニズムの憑依儀式では、高い竿頭の羽根飾りのゆらぎが憑依成立のあかしとなる。

大空の鯉のぼりも夕闇の七夕飾りも、このようなアニミズムをうけつぐものだ。歩揺や瓔珞、首飾りや耳飾り等の服飾表現にも同じ意味がある。機能主義に隷属してこの感覚を失うことは、人間生活の原点のひとつを失うことにもなる。

# 幼児クラブ やってみる?

「リュックの中身は着替えと弁当」

佐多和子

準備がすすむにつれて、母親たちのおしゃべりも盛んになりました。

「みんなの家で、朝、子ども達は自分で洋服に着替えているのかしら」「自分でやってる」「今、練習中」「私が着せてる」「子どもが着替えできるように前あきでボタンのものを探すわよ」「後あきは格好いいけど、自分で着られないものね」「お弁当は箸を持たせるでしょう。最初はフォークとスプーンを一緒に使いながらでも、だんだん慣れるから」「弁当の中身は、最初少な目にしようね。とにかく、全部食べた喜びを子どもが味わえるように」「お弁当も一枚の布で包んで紐結びができるようにしたらどう?」「あつ、はさみ使える?」「うちでは大きいのはさみも全部使わせる。おかげでカーテンの隅っこをちよんと切られたこともあった。でも、包丁・刃物も取り扱いさえきちんと教えたら、危ないものではないのよね」「うちは、危ない、危ないで触わらせないな」「こわがらずに使わせてみない。そんなに怪我はしないものよ」「やってみようか。それなら、工作の時、セロテープで

なく、糊を指でつけるようにしよう」「ね、持ち物はどうするの? 子ども達とは外で思いきり遊ぶんですよ。公民館に集っても散歩に行くんだから、着替えやお弁当を持っていけるといいわね。外でだって食べたいもの」「自分の物は自分で責任を持つという意味も込めてリュックを背負わせるのはどうかしら」「いい考え!」「リュックもうんと指先を使うようなものにしたら」「どんなもの?」「例えば、口は紐にして結ぶようにするとか、蓋を止めるところはマジックテープでなくボタン止めにする。肩ひもも調節できるようにしておく」「うちの子には、できない」「それなら口はゴムを使う。それに、今できなくともだんだんできるようになるものよ」「そうかなあ」「そんなリュック売ってるかしら」「お母さんがそれぞれに作るのよ。難しくないよ」「えっ、私、できない」「あとで、見本を作っておくから見て。大丈夫、何でもやってみればできるものよ。頑張らましよう!」

と、いうわけで、子ども達は、着替え、弁当、クレヨン、はさみを入れたリュックを背負ってあっちこち動くことになりました。もちろんのこと、子どもの大きさに合ったさまざまなリュックが揃いました。

(カット・加藤友子)



## 高遠高校での共学

その3

こんなこともあった。栄養学でビタミンEの説明をしているとき、教科書にはEの欠乏症として不妊と書いてあった(当時の教科書にはそのような記載があった)。とたんに男子が「俺たちには関係ネエな」と言った。あわてたのはこちらである。不妊は俺たちに関係ないことはない、ということとをわかってもらうために、食品成分表のビタミン表をひろげさせ、Eの欠乏症をよく見るように言った。そこには「雄は精子虚弱、睾丸萎縮、雌は不妊、流産」というような記述があった。「これでも関係ない?」と聞くと「ヘエー」というような顔をして、そのあとうなずいた。動物実験ではこういうことが言われていて、不妊は、女子や雌だけの問題ではなく、両性の関係でままるのだという説明を加えて一件落着いた。とっさのことなので、十分な補足ではなかったと思うが、不妊Ⅱ女という図式についての誤りは、理解してくれたのでは……と思っている。もしも、ここで彼らが、あの発言をしなかったら、このやりとりはなかったし、素通りしてしまっただろう。ひっかかっ

たことで、女子生徒も不妊のことについて学べたのだから、授業が立体的になるというのは、こういうことを言うのだらうと、あとで思うのだった。当然、性教育にもなったはずである。

それから数年のちのこと、「食物」の授業のはじめに、学校のすぐ側にある高遠城趾公園へつれて行き、野草を摘んで調理することを思いついた。この城趾は、県下でも桜で有名なところであるが、今は水のない堀を中心にして、野草の豊庫である。フキノトウ、ミツバ、セリ、ヨモギ、ノビル、ナズナ、タンポポ、コゴミ、フタバハギ、ウコギなどなど。かつて、私たちの先祖が、長い年月をかけて、山野に自生する植物や木の実を食用になるものと、ならないものに分別し伝えてきた歴史がある。現在の野菜も、そういう野草のなかから、人工的に改良されたものが沢山あり、原点に帰る大切さを教えたくて、野草の実習を試みた。毒があつたりして食べられない野草についての説明をしたあと、それぞれに、ナイフや、摘んだ草をいれる紙袋を持たせて、春の公園を歩かせた。折しも花見どきである。生徒たちのうれしそうな様子といったらなかった。一時間後、袋の中からはいろいろな草が出てきた。

湯沢 静江

## フランド 花郎徒

ひとつの国がつくられていくとき、そのかげには多くの青年の働きがある。新羅の場合、それを象徴するのが「花郎徒」である。花郎徒とは、青年貴族の集団である。上級貴族の子弟で、人格がすぐれ、容姿の美しい、十五、六歳の者をえらび花郎とする。その花郎の下に数百人の青年が属し、花郎徒とよばれた。彼らは集団で武術をみがき、精神の修養につとめた。平和なときには山野をめぐり、詩歌や音楽を楽しみ、風流の道もきわめた。

この人びとが、ひとたび戦争になると、先頭に立って新羅軍をリードしたのである。新羅の全時代を通じて二百余人、同時代には七、八人の花郎がいたというから、花郎徒全体では数千人の集団となる。この、いわばエリート集団が、新羅の三国統一の、推進力となったのであった。

それにしても、なぜ少年を推戴したのであろうか。新羅には昔から、若者が一定の年齢になると、集団生活をしながら団結心を養い、社会のおきてを学んでいくという、共同体のしきたりがあった。花郎徒は、三国時代にそれを戦士団として制度化したもののだが、運命共同体のシンボルとしては、いまだ無垢なる少年こそが、ふさわしかったのであろうか。

花郎徒の武勇伝は数多く、そのどれもが、一身をかえりみず、戦に命をささげた話である。彼らが規範とした「五戒」には、君に忠、親に孝などの儒教的徳目もあるが、むやみに殺生するなかれ、などの仏教的なものもある。仏教の影響は強く、花郎は弥勒の化身とも考えられていた。青年たちはむしろ、弥勒の衆生救済のために、身をすてたのではなからうか。その基には、生死を共にと誓いあった友への信頼が、強く働いてもいたのであろう。

私は、この花郎徒という美しい名をもつ、若武者たちの話が好きである。中世ヨーロッパの騎士物語を読むように、ロマンを感じつつ、自分なりのイメージをいだいていた。

しかし最近、韓国の中学国語の教科書で花郎徒のことをとりあげ、この犠牲と奉仕の精神こそ、民族発展の推進力だと説いているのを見て、急に現実のものとして立ちほだかるのを感じた。実際にいま、若者たちの美しい血が流されているのは、物語りではないからである。ひとつの国が動くとき、その下には無数の青年の死体がある、などと言いたくはない。

## 私の朝鮮史

岡百合子

# 食

## べもの

# 文

## 化史

石川 尚子

## こめの 食べ方

(2)

(江戸時代から今日まで)

米作が始まって以来の米の食べ方をみると、基本的な調理法は、平安時代までにほとんど出そろっている。

江戸時代には、それまでの調理法を集大成し、さらに新しい工夫をして、めしを中心とする和食の献立形式を完成させた。そして、これらを伝達するための料理書も数多く出版され、普及してゆく。下表は、享和二年(一八〇二)刊行の「名飯部類」という飯料理専門書に出てくる調理法の一覧だが、実に多様な工夫がなされている。この背景には、経済的なゆとりが食べものをぜいたくにしたことと、飢饉の多発などで節米料理を工夫せざるを得なかったことの二面性があるのではないだろうか。こうした二面性は、都市生活者や富める人びとに、江戸わづらい(ビタミンB<sub>1</sub>不足による脚気)を引き起こすほどの白米常食を定着させ、農民や貧しい人びとには、雑穀常食を甘受させた。〈慶安御触書〉で、「百姓は分別もなく末の考もなきものに候故、秋に成り候へば、米、雑穀をむさと妻子にもくはせ候。いつも正月、二月、三月時分の心もち、食物を大切に仕るべく候に付き、雑穀専一に候間」とあるのは、この間の事情をよく物語っている。こうした状

況のなかでは、味よりも増量のための調理法、食品をけして無駄にせぬための調理法に庶民の知恵は絞られた。

明治時代に入ると欧米文化が急激に流入するが、米食に関してはさしたる変化はみられなかった。むしろ第二次世界大戦時の米の配給制が、雑穀常食者に米食の機会を与え、白米常食者にも混主食・代用主食・代用全食といった米節約の食べ方を工夫させたことの方が大きな変化といえる。

現在のわが国には、世界中のありとあらゆる米調理法が流入し、食卓を賑わしている反面、基本的な技術がおろそかにされたり、先人たちの知恵と工夫が忘れられたりしている。もう一度それらにスポットライトをあてるのもよい教材となるであろう。

### 名飯部類の米料理

尋常飯 <small>でまじいめし</small> の部	十八品目
諸叔飯 <small>しよしよめし</small> の部	十品目
菜蔬飯 <small>さいしよめし</small> の部	十一品目
染汁飯 <small>せんじゆめし</small> の部	四品目
調魚飯 <small>てうぎょめし</small> の部	十四品目
烹鳥飯 <small>かうちよめし</small> の部	四品目
名品飯 <small>なひんめし</small> の部	二十六品目
雑炊 <small>雑炊</small> の部	二十品目
糜粥 <small>みじやく</small> の部	十一品目
鮓 <small>ず</small> の部	十三品目
完魚鮓 <small>かんぎょず</small> の部	二十品目



# よそおい

## 内山裕子

「先生には小さなお子さんがいるのですかってフアンレターが届くのよ」といたずらっぽく笑う山本まつ子さん、そんな嬉しい勘違いがある程、み



ずみずしいタッチと生活感のある絵本。1924年生れ、童画家。パンツ歴46年。函館生れ、5歳で上京。活発な子供で、小学校の頃から画家になりたかった。昭和初期、母の手作り服を講談社の幼年クラブ、少女クラブの挿絵を見て、自らリフォームする個性派。初めてはいいたパンツは戦争中のモンペ。それも両親の服をほどこいて胸あて付。パンツは戦争中のモンペ。いた絵も戦争で中断、軍需工場に勤める。くる日もくる日もモンペの毎日、8月15日「嬉しい、これで思いっ切りスカートがはける！」絵も再び始める。師事していた先生が政治漫画、挿絵もてがけていた事から、挿絵の才能を見出される。展覧会で注目され大手出版社専属に。数少ない女性の童画家としてスタート。そのころプロポーズされ、絵をやめない条

絵、山本まつ子

山本まつ子さんの挿絵

件でOK。しかし仕事と家庭の両立は今より難しい、まして絵かきなんかといわれた時代。台所で絵を書き、ノイローゼになりそうな時期もあった。ラフなスラックス姿に姑は「もう少しきちんとした服を着なさい」。けれどアトリエではパンツが一番。普通のお母さんスタイルは似合わない。二人の娘にも得意の型紙なしの手作り服、一度雑誌で紹介されたら御近所中同じ服が……。とにかく書いてあるまま作ってしまう人が多い。現在愛用パンツは十数本、楽でゆったりしたラインが好き。体型もカバーできるし、初めてはお方にもお勧めです。色は霞がかかったアースカラー、白、黒の無地。さわって肌ざわりの良い柔らかな素材が好き。同じパンツでも固い素材は、はくと気持ちいがガチガチするけど、柔らかなパンツは気持ちもゆったりリラックスするから不思議。靴はフラットがいい。とにかく家でも講演会でもパンツスタイル。パーティーでは皆が、シンプルな中にもキラリと光るその着こなしを楽しみにしている。仕事柄、街でも電車でも観察眼は鋭い。今は年代も幅広くパンツを楽しむ人が増えた。若い人も流行るとすぐ真似するんじゃないかと、自分なりに工夫して着てみたら？髪が白くなってからなんでも似合うようになった。特に赤なんか最高！いつまでもすてきにパンツをはく秘訣は？「うじうじ着ない。堂々としていると自然に身につくわよ!!」

## コンピューターと暮らし

今回はアメリカ映画とコンピューターについての考察。「ハッカー(hacker)」という言葉がコンピューターに無縁な人の耳にも触れるキッカケとなった「ハウォー・ゲーム」という映画があった。ハッカーとは最近では勝手に通信ネットワークに機器を介して侵入し、不正利用をしたり、混乱を起こさせたりする者を指すが、もともとはコンピューターに熱中している者を意味した。なかなか頭のよい少年ハッカーがいてパソコン通信に夢中になっている。学校のコンピューターのデータを呼び出して落第判定を合格に変えたり、ゲームソフトの盗用に興じたりしている内はよかったが、対ソ防衛用の超大型コンピューターを作動させてしまい、あやうく第三次世界大戦を惹き起こしそうになるという半ば現実的なSF映画。コントロールの効かなくなった機械に絶対に勝負のつかない「三目並べ」を続けることの愚かさを自ら学ばせることで漸くミサイルの発射をくいとめるといふ工夫のある反戦映画だった。その二はドキドキ、ハラハラさせつつ徹底的に笑わせる黒人女優W・ゴールドバーグ主演の「ヘジャンピン・ジャック・フラッシュ」。世界の銀行間の送金業務に明け暮れるO・Lが、上司の目を盗んでこれも通信を利用しては勝手なお喋りを楽しんでいる。すると

突然に「knock knock」(しやれた呼び掛けだ)モニターに字が現れ助けを求める。名前を尋ねるとジャンピン・ジャック・フラッシュ(ローリングストーンズの曲の名)と名乗り、呼び出すためのコード・キーはいっしょに歌って探せといって通信が切れてしまう。歌詞にあらわれる様々な言葉を試しては失敗し、結局コードは「Bフラット」と分かるのだがその後が大変でCIAとKGBがからんだスパイ事件に巻き込まれるコメディー大活劇。監督は女性というので又びつくり。もう一つ極め付けのコンピューター映画といえば「スーパーマンⅢ・電子の要塞」、コンピューター操作の天才である男が給料の端数が切り捨てられ、それはコンピューターの空間を彷徨ってるだけと聞いたことから、社員全員の端数を集めて自分宛の経費精算口座に振り込むプログラムを組む(これは現実にあった犯罪だそうだが)のが発端。三つの映画に共通するのはコンピューター操作場面の描写のリアルさ、丁寧さ、機器を使うアイデアの豊富さだろう。それにしても観客のコンピューター知識レベルにある程度の保証がなければこんな映画を大衆向けには作れない筈だ。私自身もワープロ通信を始めてから観直したらまるで鑑賞の度合いが違った。教育との関連で考えてしまう。

### その4

### 碧海西葵 (あおみ ゆき)

失敗なんて

気にせずに

石けんづくりは

手づくりの

おもしろさ



よしだあきひろ

(イラスト 十倉ゆかり)

連絡先：〒665 兵庫県宝塚市亀井町5-8

## 石けんコンサート通信 <4>

コンサートだけではなくて、廃油から石けんづくりなんかもやっているのですが、これはWe兵庫の会の西本さんに教わってから、得意になってやっているのです。

ところが僕の場合、たった一回教わっただけで、しかも恐る恐る作っているというのに、もう何年も経験を重ねているかのように、あっちこちで講習を引き受けたりして、時には大失敗ということになります。それでも「今日は油がわがままです」とか「こんな風になると失敗です」なんて言い訳をして、みんなも笑っているから、いいよね。

失敗と言えば、それはそれはミジメな時もある、油を熱しすぎて真っ黒コゲになってしまったり、憧れのキミちゃん「私もやりたい」というので、僕の手とり足とり懇切丁寧な指導のもとに油をかきまぜていると、火が入ってしまったりでかわいそう。それに苛性ソーダと油とが反応して石けんがでかすと、ほらあの何とも言えないニオイがしてくるでしょう。これがアレルギーだと言う人もいて、僕は愛すべき大好きなニオイです

が、家で作ると、家族から苦情が絶えず、なかなか苦労しているのですよ。でも子どもたちと作るのは楽しいな。

少し前に小学校の理科クラブでやったのですが、天ぷらの油から石けんが作れるなんて、それだけで子どもたちはビックリしていました。やがて石けんができて、手を洗ってみると、泡がブクブク。「やっぱり石けんだ」とうれしそうに、ハートの形にしてみたり、人形みたいなものあれば、野球のボールみたいのもあって、子どもたちは思い思いの石けんを完成させて、大事そうにしていました。

石けんづくりの楽しさは、手づくりの楽しさだと僕は思います。「手前みそ」という言葉があるように、自分で作ったものには愛着があるものだ、なんだか誇らしげでもあります。誇らしげな気持ちになったところでまわりを見まわしてみると、いろんな人がいて、いろんな暮らしがある。そんなことに気づいた時、僕たちは自分らしい暮らし方、生活を見つけることができそうだし、石けんづくりはそんなキッカケを与えてくれそうです。あなたも作ってみませんか？

# 波

五月二十一日、晴天

半田たつ子

人間が、ある一つの道をまっしぐらに突き進んで、小さな赤い実がついたとしよう。そのことは、もしかしたらこの人の別の可能性を潰したのかもしれないのだ。この春、断ち切り難い愛着をもつ高校教師を辞め、ある大学に新設されたポスト・留學生のカウンセラ―を兼ねた仕事―についた妹と話し合ったことである。

私は、英語が好き年少女だった。担任の稲垣保民先生は、英語の教師で、大変かわいがって下さった。が、英文科に進みたいと相談すると、ノウだった。「じゃあ、女の子だし、家政科に」、親の言葉に安易に妥協した私は、女子大に進学してすぐ後悔した。一番学びたいことをこそ学ぶべきだと、思い続けてきた。卒業のころ、女にも大学の門が開かれていて、私は京都大学の木原均氏のもので、遺伝学を学びたくなっていた。でも、不在地主

で郷里の福井に帰り、なれぬ百姓を始めた親に、進学を言い出せなかった。

私は福井県で、絶対にやりたくなかった教師になり、学ぶ意義を認めなかった家政学をバックに、家庭科を教えた。このことは、いつも自分に問い、自分で答を探す道をたどらせた。けれども、胸の中に低く鳴り続けるメロディーに「それこそが私の歌かもしれない」と思う時もあった。「ちよっと待って！ この問いに答えないと、私は動けないの」そう自分に言いきかせた。メロディーが、ひとりでに歌い出すこともあった。私の中の、パランスを取ろうとする動きだったのかもしれない。

二十年近い昔、私は稲垣先生に長い手紙を書き、愛知県犬山市に先生をお訪ねした。先生はよく覚えていて下さって、英語への夢を潰したことを詫びられ、「今からでもよい。

辞書を片手に小説を読んでごらん。あなたならきつともものになる。ヘミングウェイがよいでしょう」と言われた。「ものになる」とは、具体的にどういうことかわからなかったが、私はうれしかった。一生懸命打ち込んでいることの他に、もう一つ別の可能性があることを、先生が認めて下さった。体のうちから、わき上がる力を実感できた。

女子大を出る時のお別れの会で、私は「未来のことは何一つわからないけれど、一生学び続けるであろうことは、お約束できる」と言った。その私を、稲垣先生の言葉は、支え励ました。「生涯学習」なんて喧伝されていなかったが、自分の中のもう一つの可能性に自信を持たせた稲垣先生は、本物の教育者だった。

私は東京都立第三高等女学校で学んだ。いま、日本で最もしやれた街となっている六本木―麻布の北日ヶ窪という所にあり、美しい庭、上下二面の運動場、上の運動場には、太田道灌の故事にちなんで名付けられた、道灌山があった。今の皇太后が、昭和天皇と婚約された後、妃の準備教育を受けた建物「仰光寮」があった。

一九四五年五月二十三日の空襲で、この

建物を守るために校舎は全焼した。卒業を待たず女子大に進んでいた私は、少女の日の思い出をギツシリつめた校舎の、焼け落ちるさまはもちろん、焼け跡も見えていない。学校は移転し、その土地の名を取って駒場高等学校となり、仰光寮も移された。

東京に移り住んですぐ、私は一人で六本木に行った。懐かしい芋洗い坂を下りると、ああ、そこは港区立城南中学校となっていた。

昔日の面影がないのは当たり前、何しろ全焼したのだから。そうっと校庭に入ると、あつ、ない！ 上の運動場が！ 道灌山が！ かつての上の運動場には、ギツシリ、マンションが立ち並んでいるではないか！ 自分の心の芝生が荒らされたようで、すごすごもどつてから、私はもう第三高女跡を訪なう気力を失った。

ところが、今年の三月、同窓会報が届いた。総会は、麻布のキャンパスで開くという。一面には銀杏の木の写真、その前を歩いているのは、白い袍を肩から掛けた男子中学生だけれど、大銀杏のそばに碑が建っており、碑文が紹介されている。

「この地は明治三十五年（一九〇二）開校された東京府立第三高等女学校発祥の地であ

る。太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五）五月米軍機により全校舎が焼失するまでの四十三年間、向学心に燃えた多くの乙女たちが学んだ由緒ある女学校の跡地でもある。

この大銀杏は、同女学校第六回卒業生が、明治四十三年（一九一〇）に記念植樹したもので、先の大空襲の時、猛火を浴びて枯死寸前にまで至ったが、見事に蘇生し、今日樹齢百年を数えようとしている」

別の欄に、駒場五回生の男性が、この碑を好奇心から見に来た時、トレパン姿の中学校長が「港区の歴史の一つとして、生徒たちの学んでいる所は、どのような場所だったかを教えただけです」と語られたのに感動した文がのっている。「もう一度訪ねよう」そう決意した。私は《戦争と少女》をいつの日か腰を据えて書きたいと思ってきた。《ミングウェイは、どうもものにならないのだが、《戦争と少女》は、書きたい思いがどんどん膨らんで来ていた。そのためもあった。

五月二十一日、晴天。芋洗い坂を下り始めると、体中心臓になったみたいに、ドクンドクン……。

総会には、城南中学校の山村校長先生も招かれていて、話して下さった。

「この学校に赴任して、学区の人たちがいままお第三高女を愛し誇りとして知っていることを知った。時に年配の御婦人が校庭でたたずんでいるのを見て、声をかけ、校長室に案内し、お茶でもすすめて話を聞くと、思った通り第三の卒業生だった。奇跡的に芽ぶき、昭和十五年頃の写真とそっくりになった銀杏の由来をとどめたくて、一昨年、40周年を記念して碑を建てた」。

続いて、「一九四四年十一月、赴任したその日、B 29 が昼間初めて東京の空を飛んだ」と語りだした渡辺先生は、東京最後の大空襲になった五月二三・二五日の両夜、仰光寮を守った様子を、昨日のことのように語られた。いま、大銀杏と石段、木と石と（もう一つは聞こえなかった）、三つだけが昔の姿をとどめている……と。

もう一度、運動場に立ってみた。今日は佗びしくない。胸にあふれるものがあるから。生涯学習って、あちこちの講座を巡り、資格を取ることはないと思った。自分をしかと見定め、自分の可能性を自分で切り開いていくことだろう。そう。学ぶことは、生きること。生きることこそが学びなのだ。そんなことを考え、考え、学校をあとにした。

## 春の公開ゼミナール 報告

### テーマ「わたしにとっての一月七日」

#### ―観て・聴いて・感じたことを話そう―

Weの会主催第一回目の春ゼミでした。

一月の準備会は昭和天皇が亡くなってまもない頃でした。この日が来るのは昨年から予想していたとはいえ、昭和から平成への移行は、やはりさまざまなことを考えさせました。自分の信条を確かめさせられた日々でもあり、準備会でも一番の話題となりました。天皇問題は切りこみ方が難しいのですが、いろいろ意見を出し合った結果、わたしたちが観（見）たり、聴（聞）いたりしたことをもとに、素朴に感じたままを話し合おうということになりました。一月七日の東京の街に繰り出して写真を撮った東京写真専門学校の生徒や、大喪の礼人権一〇番の人のお話も聞きたいと、期待の声も挙がりました。

#### 春ゼミ担当 東田 洋子

春ゼミの開催日の四月一日はエイプリルフールです。何だか不安でした。人の噂も七十五日といえます。一月七日から数えて八十三日経っています。外は満開の桜の季節です。できればお花見と思う気持ちをおさえて、中野駅までの長い桜並木を自転車をこぎこぎ会場に行きました。

次に紹介するのは会場で話されたことの一部です。

「役所勤務の立場から言うと、ファクシミリが導入されてから事務手続きに余裕が無くなりました。それまでは郵便や交換便で通達が来ていたので、末端に届くまでに二・三日かかりました。作業に取り組むまでに何かしら考えたり、いろいろ話し合ったりすることが

できました。しかし、ファクシミリが入ってからは上部で決定したことが即日通達として末端に届きます。通達に対して考える暇無く末端は実行していくわけです。今回の年号の改正もファクシミリで通達が届きました。私の職場は窓口なので、即昭和から平成への書き換え作業で忙しい毎日でした」

「小学校の話です。一月七日は始業式の前日でした。たまたま職場に行く用事があってお昼頃学校に着きました。職員室の電話の前で教頭先生が疲れた顔をして教育委員会の指示を待っていました。弔旗や黙とうをどうするか、指示があったのだと思います。翌日の校門には弔旗が掲げてありました。始業式での黙とうはありませんでした。後日、日の丸掲揚について教頭先生と話す機会がありました。祝日に日の丸を掲げてないと、近所からどうして掲げないのかと電話が必ずくるそうです。今までに日の丸を掲げないで欲しいという電話はなかったそうです。日の丸掲揚を固執する人たちはそれなりに積極的に努力しているのですね」

「小学校の卒業アルバムについてこんなことがあります。わたしの住む市の小学校の卒業アルバムが卒業を前にして子供たちに配ら

れました。卒業アルバムにはたいいていその年の内外の主な事件をグラビアにして載せています。一月七日とそれに続いたできごとは、企画・印刷の段階をすぎた後のことだったように、アルバムには載っていません。そこでどうしたかというところ、昭和から平成への転換を示す写真を組み合わせた写真をB4判のカラグラビアにして子供たちに配ったのです。親が希望したわけではない、父母の承諾をとったわけでもない。ある日突然卒業アルバムと一緒に子供たちに配られたのです。配るほうにこのことについて問題意識があったかどうか分からない。どういう理由で、どうして配ったのかやはり問題にする必要があると考えています」と言ってグラビアを見せてくれました。

「わたしは在日韓国人です。在日韓国・朝鮮人には選挙権はありません。今まであまり日本人のことが見えてきませんでした。でも今回の事を通して、うまく言い表わせませんが日本人の動きが見えてきたように感じました」

「わたしは山が好きなので、毎週のように山歩きをしています。東京近郊の山は二月には雪が積もっています。大喪の礼の前の山歩きで何回も経験したことです。東京の街を追

## ◆編集室からあなたに

\* 宮坂広作氏の『消費者教育の創造』が

七月初旬完成します

家庭科教育の中に、消費者教育の占める位置は大きいのですが、誰でも認めながら、なかなか難しく、皆さんも戸惑っていらっしゃるのではないのでしょうか。宮坂氏は、東大教授ですが、象牙の塔にたてこもることなく、家庭科の教師向けの現職教育なども、気軽に引受けていらっしゃいます。一般的な流通経路によらず、Weの読者を中心に、注文に応じて販売する、という方法を取ります。葉書又は電話でお申込み下さい。定価は2000円です。

- \* この夏のフォーラムは、度々お知らせするように、熊本（阿蘇）でおこないます。特に西日本にお住まいの方がた、どうぞふって御参加下さい。御案内のチラシを挟みました。お仲間をお誘い下さい。電話またははがきで御連絡下されば、チラシをお送りします。
- \* こだま、Weになんでも言おう・なんでも聞こう、わたくしからあなたに等に、どんどん御寄稿下さい。家庭科ネットワークも順調に動き出しました。こちらの情報もまたお知らせしましょう。

われた「浮浪者」に幾度も会いました。今までは何度も歩いて勝手知ったる山道です。ふと見ると登山靴ではない足跡が雪の上に続いている。それを辿っていくと無人の神社や寺に行き当たります。ある時は、池袋や新宿の地下道にいるような「浮浪者」が前方から来るのに行き会いました。こちらは女一人の山歩き、自然と身構えてしまいました。あの人たちは大喪の礼のために東京の街を追われて、ねぐらを探して雪のある山道を登っていったのだ

と思います。山登りに必要な物を何も持たずにまた身に付けずに。寒かったでしょうね」

まだまだたくさんのお話を話しました。広い会場の片隅で少ない参加者同士がコーヒを飲みながら、五時近くまで話し合いました。自分の身の回りの不思議なこと、疑問に思ったことをまず話し合うことが大切だと思います。

（於中野区勤労福祉会館）

## わたくしからあなたに



◆私は、85年に奈良女子大学文学部教育学学科体育学専攻を卒業し、お茶の水女子大学家政学部児童学科の研究生になりました。翌年、家政学研究科（児童学専攻）に進み、昨年の春、修了しました。在学中は主として、ことばの発達の遅い子どもとの相談活動を行っており、いわゆる被服、食物は門外漢です。

教育実習は幼稚園と、中・高校には保健体育で行き、大学院時代には家庭科で実習の希望を出したのですが、「単位はどの科目でも共通だから、履修済みとみなされるので受け入れられない」と断われ、実習の機会もなく、高校教師として生徒たちの前に立つたのです。

私の高校では、一・二年の女子に家庭一般が必修になっています。三年次に男子も選択で家庭一般の授業をとれるようになっており女子は食物の履修が可能です。しかし、男子は選択する者がいない年がほとんどで、たまに希望しても、その時の受け入れ側の先生が拒否したり、ためらったりして実現していき

いのが現状です。女子も家政学部に進学するにしても、家庭科は受験科目になく、選択するのは英語、国語、数学というところに落ちつくのです。それでも数年に一度は選択「食物」を開講できることもあるということです。

家庭科、保健体育、芸術の諸教科は、英語、数学、古典等の受験科目の息抜きや内職の時間になっている、ということも否定できない事実です。

以上のような現状をふまえて、家庭一般で何を学ぶのか、ということを一・二年生の家庭一般の最初の授業で行うことにしました。

まず、戦前の料理、裁縫教育について述べました。

次に家庭科で扱う領域を大きく三つに分けて説明しました。

### 1 生活の科学……食物・被服・住居

家庭科は、身近な生活の中で行われている諸活動について、それを科学的に解明していく、つまり生活の科学であるということを述べ

べました。生徒の理解をはかるため、ほうれん草をゆでるときに経験上、なべに入れてふたをしないという方法がとられているが、それはふたをするとうれん草の葉緑体がO<sub>2</sub>と化合して黄変するためである、ということが科学的に解明された例を話しました。

また被服の分野でも「着ごこち」を解明するために、吸水性や通気性などが実験で調べられていることを述べました。

### 2 生活の文化……家庭経営・被服・食物・住居

人間の生活が時代と共に変遷したこと、それぞれの時代で家族、すまい、服装、食生活が変遷してきたことを述べました。生徒の理解をはかるため、戦後の核家族化や、明治時代以降にはじまった洋装化の歴史を「制服」の学校への導入を例にして話しました。

### 3 人間の発達と理解……保育

人が生まれ、どのような道すじを通じて成長していくか、その発達の過程を学び、子どもにとって適切な環境とは何か、母性とは何



か、人間とは何かを学ぶ領域が保育であることを述べました。

実習に関しては、一年では被服製作、二年には調理を行います、教科書に載っている教材だけではなく、生徒の希望を考慮して教材を選ぶことにしました。被服領域では①エプロン、②パジャマ、③スカート、④ブラウス、⑤編物のうち二つを選んでもらったところ、①、⑤の希望者、特に⑤の希望者が圧倒的でした。それで①を中心に実習し、編物は四時間程度で基礎編み、糸・針の選び方、ゲージのとり方、測り方を学び、あとは個人の希望に応じて初心者向けのテキストでセーター、カーディガン、ベストを選択させようと考えています。

二年生の調理実習では、最後の回に、生徒の立てた自主献立で実習をする予定です。

実習では、作る喜びと共に服装文化や食文化に関連した授業をしたいと考えています。

オリエンテーションをかねた最初の授業の感想を生徒に書いてもらったところ、次のようなものが主でした。「家庭科っているんなことをやるんだな———と思った」「いろいろあっておもしろそう、でも少しむずかしそう」家庭科でやりたいことのアンケートをあわ

せてとりましたが、調理実習、編物という希望が多くありました。これは一年でも調理を、二年でも被服領域に関連する編物をした、ということですが。我が校では、学期末に講座制授業というものがあり、先生方の開講科目を生徒が自由に選択できますので、その中で一年の調理、二年の編物を実現したいと考えています。

家庭一般の領域を大きく三つに分けましたが、その分類そのものに問題があるかも知れません。また関連領域との接点から家庭科を考える視点も必要であると考えます。

家庭科教師としてまだ一か月、あゆみを始めたばかりです。未熟な授業例をあえて提出しましたのは、みなさんの意見に耳を傾け、今後の参考にしたいと思ったからです。

試行錯誤の連続ですが、各クラスに用意した家庭科ノートの「今日の話は、興味あることだったのでおもしろい授業だった」という声に助けられて日々送っています。

(大阪府立大東高等学校常勤講師・衣笠ヒロ子)

◆卒業式の日に、手塩にかけたゼミ生に『家

庭科新時代』をプレゼントしました。二人は小学校へ、一人は横浜国大大学院へ、もう一人は、しばらくフリーで働きながら進路を見つけてゆきました。茨城の教育環境は大変厳しく、『家庭科新時代』のような心の豊かなのびやかな発想の家庭科が、可能かどうかさえ、当分は考えることもできないでしょう。

本日は読書会等をやって、その後も交流ができればいいのですが、懸案のまま、忙しい日々の中を流されています。いつか何気なく手にとって、ハッと思ってくれば、と願っております。

(水戸・酒井はるみ)

◆今年は、車椅子の女生徒がいる共学クラスの担任です。その子は昨年入学してきて、私が副担任をしていましたが、今年は正副を交替しました。ペアを組んでいる人が数学で、数学はほぼ毎日あり、色々と目の届く人なので、一安心です。その点、家庭科は、女の子のみであったり、単位数が少ないので、担任としてやりづらい面がありますね。

(熊本・立山ちづ子)

# Weに なんでも言おう なんでも聞こう



◆「家庭科NETWORKING」、いい企画を立てられてよかったと思っています。いずれ男女共修の年度を迎えても、この分では家庭一般のみが採用されることはまずないでしょう。生活技術、生活一般、どの科目で学ばせることになるうとも、要は、しっかり教えたい内容を、子どもたちに教えなければならぬのであって、そのためには、半田さんが言い続けてこられた家庭科の教師の方々の力量こそが、切り札になると、私もひしひしと感じるこの頃です。

どこで、どうして、その機会をつくってあげばいいのか。子どもたちの親が、家庭科への新しいイメージをしっかりとつくっていくことも、側面的な力となるでしょう。本当に、どこから手をつけたらいいのかと、焦ってし

まいます。教科書づくりも、家庭一般のみならず、他の二科目についても、積極的にかわる必要があるのではないかと、ふと思っ  
ています。そのような時、この企画は、本当にいい企画の一つだと喜んでいきます。

市民対象の家庭科の模擬授業をやってみた  
らどうだろう、などとも考えています。Weを  
広め、購読者数を増やすためにも、生活生協  
めぐりや、そのための自分たちのチラシづく  
りもしたいと、いろいろ気は走るのですが。  
「高校制度改革」五年目を迎えた京都府立高  
校では、Ⅱ類（進学コース）の家庭科男女共  
修がなくなり、女子のみ必修になった学校が  
多いと聞きます。その理由が、Ⅱ類の特色を  
出すためと聞いて、ウーン、それこそ性差別  
じゃないの、と思わずにはいられませんでし  
た。京都府教委は今、十数年の積み上げのあ  
る高校家庭科の男女共修を、一九九四年の全  
国的な共修実施を前にして、女子のみ必修に  
強引に持っていこうとしているのとは思えま  
せん。

最近の新聞で、大学生の生活実態調査報告  
を見ましたが、その中にお米をとぐのに洗  
剤を入れて洗った例などが出ていて、ヒヤッ  
とさせられました。しかし、実際には、知識

と生活感覚が、ますます離れていくのを感じ  
ます。

また、若者に人気の「朝シャン」など、マ  
スコミのコーナーシャリズムの前で、主体的に  
考えることに弱くなっている若者像が浮かん  
できます。それから男性の結婚難を取り上げ  
た報道番組が、女性の結婚観が変わっている  
のに、男性のそれは旧来のもので出ず、相  
変わらず仕事第一になっていることに、結婚  
難の大きな原因のあることを、明らかにして  
いましたが、これらは、家庭科の男女共修の  
必要性を、どれも表しているのではないでし  
ょうか。

「ひと」一月号で、半田さんの文章を読み、  
Weの誌上では、これだけたっぷりとこの世界  
を展開していただいたことがなかったな、と  
思いました。Weの読者は心得ている、という  
こともなく、あのくらしい紙面をさいて、こ  
のように豊かな世界の展開を、せめて一年に  
何回か、していただくことが必要ではないか  
と思いました。このことは、一度考えてみて  
いただけませんか？（長岡京市 金森順子）  
◆四月号は、どのページも読み応えがあり、  
フレッシュな気持ちですが、53ページのこう  
変えられる「教育」…情報3には大変驚きま

した。59ページの声明文を読みながら、やはり心配していたことが起こりそうな現実にはショックをうけ、すっかり見つめて行かないと、逆行をくいとめることができないな、という思いで、まるで頭の中に重い石を詰込んだような暗い気持ちにさせられました。

こんな時「家庭科ネットワーク」を考えられた若竹さんや編集部の方々に拍手を贈りたい気持ちです。是非参加させて下さい。

五月号はとて内容が濃くて、くり返し何度も読み、考え悩みました。特に学習の主人公たちとの交流、生徒の意見、座談会がよかったです。自分もその席と一緒に座っているようで、内容は重いの、楽しかったです。こんな企画を、私は期待しています。子どもたちの生の声に耳を傾け、大人は共に考えていくべきだと思います。

内申書の弊害は、受験戦争の害でもあるという駒野さんの意見に大いに賛成。教員も生徒同士も不信に陥っている事実注目して、先生方は、授業の質の改善に全力を尽くしてほしいと思います。小・中・高の教育の検討の必要を感じます。

(岐阜・掛布禮子)

◆神奈川方式で県立高校にこの春進学した孫娘は、早速県下一斉模擬試験があり、その結

果が保護者に知らされました。すぐに中間考査があり、その結果でクラブ活動を検討するよしです。高校に入学するや、息つく間もなく、今度は大学入試の心配を母娘はしています。クラブ活動もままならぬ様子です。

大学なんて、教師は授業はそこそこ昇格のための工作に忙しく、アンケートを集計して怪しい論文なるものを学界誌や学内の紀要に発表する。学生はバイトに忙しい。孫娘は何のために大学に行くのかと言いたくなりま

す。「内申書に言いたいこと」から座談会の「内申書、その功罪を問う」を読みました。短大では、内申書に似た形式で、補導簿があり、記録して、学生の戸籍簿として残すんです。人権問題だと気がきました。

「さらば内申書！」勇気ある保坂さんに感心しました。しかし、これほどの苦勞を強いた日本の社会の罪の深さを愛います。

高校に勤務していたころ、私の担任していた生徒が退学処分を受け、定時制高校に入りました。その生徒は、それから間なしに事故で死亡。私は20数年たった今も、命日には数人の同期生と仏前に詣で、老父母を慰め続けています。絶対に退学者を出してはならないという私の信念は、この時からのもので

しかし、沢山の生徒が自暴自棄になって退学していきました。教育者の敗北だと何度自責したとか。

「内申書の開示を」を読んで、廃絶への前段階の運動としてはよいでしょうが、実際問題として、異議申立てが続出したら、担任はそれを訂正していけますか、疑問です。

「内申書制度を支える土壌」―学歴社会がある限り、子供の不幸はなくなるということとは、教師は百も承知です。だから教師も被害者なんです。最後の「内申書制度がなくなっても、云々」でよくまとまっています。

期待していた特集をじっくり考えさせられながら読みました。そして教師として生活してきた我が身を振り返り自問自答、自責の念にかられて、胸の痛み思いをしました。

「新しい家庭科を創るために―高校では」田村より子さんの文は、重苦しい記事の後だけに余計にさわやかな気分で見ました。一昨年、兵庫県の郷土料理が出版され、私も担当しましたが、そのとき資料を集めながら、田村さんの文章にあるその通りのことを考えました。私の言いたいことを、きれいな文章で見事に記述して下さっている、うれしくなりました。

(神戸・橋本幸子)

# 泉

この頁は、あなたと私の情報交換の場。小さなスペースですが、ご利用ください

## ◆講座—かながわ女性学

「女たちは今、世界を変える!」

この講座は、経済、法律、政治などの社会の基礎的な仕組みについて、女性学の視点から解明することを目的にしています。

・日時 六月十五日(木)～七月十八日(火)

・場所 神奈川県立婦人総合センター

第一研修室ほか

・定員 八十人(託児の用意があります)

・受講料 無料

☆六月二十日—家事や子育てでは、どうしてタダなのか 久場 嬉子(東京学芸大学教授)

☆六月二十七日—神奈川県で迎える老後、ハッピーな女を増やそう 沖藤 典子(作家)

☆七月四日—女たちが政治を変えた! 金森 トシエ(県立婦人総合センター館長)

☆七月十一日—女と法律のいい関係をめざして 金城 清子(津田塾大学教授)

☆七月十八日—国際化社会かながわを生きる

女のジョーシキ 内海 愛子(恵泉女学園大

学)

・申込先 神奈川県立婦人総合センター生涯

学習部(〒251 藤沢市江の島1-11-1

☎0466-27-2111内線562)

## ◆フォーラム'89「働くこと、生きること」

・日時 七月一日(土)

・場所 スペース・ゼロ(全労済ホール)

・入場 無料

・内容 講演「私を生きること」落合 恵子

パネルディスカッション「もっと広げよう、あなたの世界」

コミュニケーションシンポジウム

(ハロースマイルコーナー)「しごとからだ

の相談」女性専門書コーナー 山形 由美

フアンタスティックコンサート

・申込先 東京都労働経済局労働部婦人労働

係(〒100-81 東京都千代田区丸の内3-8

1-1 ☎03-212-5111内線21-235)

・葉書に、住所・氏名・年齢・職業・電話番号を明記して下さい。招待状を送ります。

締切—六月二十日

・「きらめく女性の写真展」も行います。応募方法その他は、申込先まで問い合わせ下さい。

## ◆「第一回「人間祭(にんげんまつり) FROM TOKOROZAWA—真魂の叫び」」

・日時 八月十一日(金)～十三日(日)

・場所 埼玉県立所沢航空公園野外ステージ

(所沢市並木 西武線航空公園駅前)

・内容 ①昼間—演劇・コンサート・舞踊・

パフォーマンス・各市場開設など ②夜間—

野外劇「真魂の叫び」午後七時開演

・連絡先 入間祭制作実行委員会(〒156 東

京都世田谷区大原2-22-15 代田橋ハイム

501 劇団今井英臣事務所内 ☎03-3257-403)

または同所沢事務所(〒359 所沢市元町8-16

古着屋ドーニャ・ケメ内 ☎0429-24-3085)

◆高松市婦人行政研究会報告書

「変わる女と男の意識」

高松市婦人行政研究会は、高松市婦人行政

推進連絡会のもとに、婦人行政や女性問題に

ついて、より具体的・専門的に調査研究する

機関として、昭和六十一年度から設置されて

います。これは、六十三年度の報告書です。

・内容 第一章 研究会の経過／第二章 高

松市女性行動計画の具体化にむけて／第三章

自立度チェックアンケート他／第四章 研究

員のひとこと

。B5判 三十一頁

。問合先 高松市市民生活課婦人係

☎0878-39-2277

◆性格テストって何のためにするの? 刊行

練馬区の「学校での性格テストを考える会」が発行した冊子です。

。内容 性格テストとは何か/学校は何のために性格テストをするのか/性格テストはなぜ問題か/性格テストはいらない/人権侵害の性格テストをなくそう

。B5判 二十頁 頒価 四百円

。問合先 〒117東京都練馬区東大泉7-50-

40-2-101 島田方 ☎03-978-6544

◆映画「潤の街」の上映運動

現在の日本の映画では、良心的なテーマを追った作品は、製作の困難さ以上に、上映劇場確保の問題がはるかに大きいと聞く。日本人と在日韓国・朝鮮人の若いスタッフが、鋭く問題提起したこの作品は、今東京・新宿の一劇場でロードショー公開されている。上映委員会スタッフは、ちよっぴりうれし。

大阪の下町で明るくエネルギーに生きる潤子(ユン)、大学を中退してモラトリア

ム的な生活をしている雄司、ぐんぐんひかれ合う二人。しかし、在日三世のユンと日本人の雄司の二人を、不幸な歴史の中で生まれた深い溝が阻む。特に家族は、複雑な反応を見せる。

「なんにも知らなかった」雄司が、ユンの状況に、ユンの思いに初めて気付き、自分自身に真剣に向きあっていくプロセスは、観客を

●Weの読者会だより

〈We東久留米の会〉

四月二十九日、滝山団地集会所にて。集まった七人のうち、初参加の馬場さんは小平からはるばる福島から参加のはずだった西内さんは風邪に倒れ、皆残念がることしきり。

さて、五月号の特集テーマの内申書ですが、仲間の大半は小学生の親としてまだ身に迫った切実感はないものの、つい最近高校受験を経験された中村さんの体験談には、やはり一同ため息でした。ともかく偏差値による学校間格差をどうにかしないかぎり、内申書をうんぬんしてもどうにもならないのではな

い……というところに、ついつい議論は収

も導く。ユンは、強く爽やかだ。が、彼女の手首の傷は、幼い日からの戦いと、アイデンティティを求めているものがきを語る。

ユンの祖母役の初井言栄のかなく美しい達者な演技が、まぶしい青春を引立てた。全国で上映され、若者の心を洗ってほしい。

上映委員会……☎03-403-8791

束してしまいます。状況へのいらだちに足を取られて、迂遠なようでも内申書開示といった「一歩」をとにかく進めることの可能性を積極的に検討する姿勢には、なかなか向かえないのでした。もちろんこれは、いつもの悪い癖でも言うべきもので、またまた反省の種なのですが。今号でもっとも皆の共感が集まった記事は、小沢さんの連載でした。「幼児期の強調」への反問」に、我が意を得た!との感想で一致しました。

次回は六月二十四日 a.m.10~12時 滝山団地第一集会所の予定。(瀬戸井厚子)

(問合先) ☎0424-74-6293 川住 広子

☎0424-72-6206 瀬戸井厚子

# 十字路

〈福島〉原発本当に安全なの? (朝日4/23)

福島市内の主婦らが企画した原発勉強会「すこしなら安全なの? 放射線」が四月二十二日、市公会堂で開かれた。市民の関心が高まっており、約五百人が参加した。会では市川定夫教授(埼玉大)が「放射線はわずかなら安全、原発から出る放射能は自然界にある放射能と同じものという誤った前提のもとで推進されてきた」原発政策を批判。次に、清水修二助教授(福島大)が福島第二原発3号機の再循環ポンプ破損事故の内容や危険性について報告した。(西内みなみ)

〈長野〉定員割れで不合格 内申書——教育受ける権利は (信濃毎日5/3)

県下の公立高校の入学試験で、受験者が定員割れしながら不合格となる定数内不合格者の増加が最近目立ってきた。学力不足以外に、中学時代の非行や校則違反を内申書でチェックされたケースが少なくない。今春の二次募集の前に「一人でも多くの合格者を」と、異例の声明を出した高教組内部でも揺れている。

る。高教組によると、中学側に対し「内申書の内容は具体的に正直に書いてほしい」との要望が出ているという。正確な数は不明だが、今春の二次募集の不合格者は三十人前後とみられる。(宮崎春美)

〈石川〉障害児の手作り教材を出版 (朝日3/14)

石川郡野々市町の県立明和養護学校では、障害者を克服するために児童、生徒が使う教材・教具を先生や父母が協力して作り続け、このほどその中の「傑作」を紹介した本を出版した。題名は「手づくりの教材・教具による授業」(明治図書)。児童・生徒が持つ障害は千差万別で、個別の指導が必要と、八年前から一人ひとりの生徒に合った教材作りを始め、二千点に及んでいる。(荒井紀子)

〈埼玉〉丸木俊さん、東電社員にドクロで応対 (毎日4/28)

「原爆、原発一字の違い。爆発すれば被害は同じ」と、反原発運動を続けている「丸木美

術館」が、福島第二原発事故の原因も解明されないのに、原発が発電に占める24%分の料金は払えないと支払いを拒否した。二十七日、同館の丸木俊さんは説得に訪れた東電社員に、ドクロの面と木刀で応対した。同社員は、近日中に電気を止めると言った。同美術館は昨年九月にも料金支払いを拒否し、二日間電気を止められた。(協美智子)

〈愛知〉スタートした 高校「転学」「転科」制度 (中日4/10)

学校不適応や進路変更などを理由に、全日制公立高校間で学校や学科を途中で変えることのできる「転学」「転科」の制度が、全国で初めて本県でスタートした。また、中途退学者の復学や、海外帰国生の編入学も、大阪府に次いで始まった。新制度では、生徒の個性を生かし、希望に沿った進路選択ができるようにとの狙いで、高校側に強かった慎重論を押し切る形で実施された。(平野利依)

〈大阪〉消費税——なんで女のからだにかかんね (朝日4/21)

「女のためのクリニック準備会」を中心に、出産にまで消費税が課税されることを怒る女

性たちが、府内の産婦人科病院百カ所余りの出産などの費用と消費税転嫁の実態調査を進めている。子どもを産むことを「消費」ととらえ、税金をかけるのは人権問題、母子保健事業の後退にもつながると。消費税に似た税を導入している国々でも、出産をめぐる医療は課税対象にはなっていない。

(徳永美知子)

〈大阪〉遊んで体力つくろう「ひ弱な」浪速っ子よ(朝日4/24)

府教委では毎年、児童生徒を一定数抽出して、体力や運動能力を調べ、前年度の全国平均と比較している。ここ十年來指摘されている「ひ弱な浪速っ子」像は相変わらずだった。体格は全国平均と変わらないが、筋力や敏捷性、持久力は下回った。特に高校女子が目立っている。毎日二時間以上、運動や遊びをしていけば、平均かそれ以上の能力を示すこともなかったもので、今年度は小学校の体育学習に遊びを取り入れて、体を動かすよう重点的に指導する。

(大江美香子)

／10  
〈京都〉結婚 家庭問題の調査(全国婦人5)

ソ連科学アカデミー社会学研究所は、モスクワ、ボストン、デトロイト、ニューヨーク、サンフランシスコ各市の市民千人を対象に表題の調査を実施した。20〜25歳で結婚したのは米国四市ではほぼ50%、モスクワでは66%、男女の同棲については、ボストン70%、デトロイト63%、ニューヨーク96%、サンフランシスコ71%が肯定している。妊娠中絶について女性に権利があるとするのは、モスクワ86%、ボストン59%、ニューヨーク59%、サンフランシスコ65%だった。

(安東尚美)

〈鳥取〉「夫婦別姓」の自由を「国際女性問題ゼミナール」で(日本海4/17)

二月二十日からウィーンで開かれた民間団体「国際女性権利モニター協会」で、鳥取市の尾崎薫さんが、日本の戸籍制度を取り上げ「夫婦同姓か別姓かを選択できるようにしたら」と提唱した。世界的にみると、夫の姓を名乗ることは習慣にすぎない国、同姓、別姓、複合姓などを選ぶ国、夫婦平等の権利として別姓を原則としながらも、同姓、冠姓も選べる国などがあり、同姓を法律で決めているのは日本だけ。連絡先0857-22-0060尾崎

(前田享子)

〈福岡〉西暦使用の出張伺 受け取り拒否(西日本5/13)

県立久留米ろう学校で、六人の教師が遠足の引卒のため校外へ出る申請をした際、申請用紙の「出張伺」の日付を西暦で記入したところ、学校側から受け取りを拒否されていることが五月十三日分かった。県教委の文書規定では元号使用は「使うことが期待される」とし、義務化はしていない。教諭らは①思想信条の自由を定めた憲法一九条に違反②校長の裁量権の乱用——などとし、書類を受理するよう学校側に求めている。

(安部宣人)

〈宮崎〉女性の自殺増える(宮崎日日5/3)

警察庁は二日、88年中の自殺の概要をまとめた。全国で二万三千七百四十二人で、前年に比べ七百十八人減少。だが、社会進出に伴う女性の自殺、病苦や精神障害などによる自殺が増えている。経済生活問題によるもの、男女関係を悩んだの自殺は減っている。男女別では、男性が一万四千九百三十四人で、前年比八百六十八人減。女性は八千八百八人で、百五十人増。宮崎県では全体で二百九十八人。男性が百七十七人で前年より六人減り、女性は八人増えて百二十一人。

(永田育)

## アンテナ・アンテナ・アンテナ・アンテナ・アンテナ・

「連合」が加盟組合を対象に、アンケート調査（1,813組合回答）をしたところ、会社側が改善した制度としては「募集・採用」を挙げた組合が最も多く34%、次いで「賃金体系」22%、「定年・退職・解雇」17%など制度的には前進したものの、同時に改定された基準法の「女性の時間外労働の規制の緩和」で、係長にもなっていないのに時間外、休日労働を男性並みにさせられるなど、企業側に都合よく運用されているケースも多いという。（5.19日付朝日）

### ★沖縄・新石垣空港一サング保全のため白保地区断念

青木環境庁長官は25日、サング礁の保護か開発かをめぐって揺れている石垣市白保の新空港建設計画について、アオサングなど周辺の自然環境に重大な影響を及ぼすとの判断を固めた。（4.26日付朝日）

このため沖縄県の西銘順治知事は、建設地を約4キロ北の同市大里の海岸に変更したが、日崎茂和三重大教授らの調査によると、この地も天然記念物級のユビエダハマサングの大群落があり、建設に伴い壊滅的な打撃を受ける恐れがあると指摘。この調査結果を受けて、日本自然保護協会等の自然保護団体や地元住民らは代替案にも反対していく方針だ。（5.14・20日付朝日）

### ★反原発の代表を国会へ

チェルノブイリ原子力発電所の事故をきっかけに広がった反原発運動が、決め手を欠き、推進側に押し切られがちだった運動への危機感から、各地の反原発グループが連携して、自分たちの代表を国会に送り込もうと、夏の参院選の運動母体となる「原発いらない人びと」を発足、全国連絡会を置いて準備に入る。（5.5日付朝日）

### ★体外受精卵—母体に戻す前に性別判定

体外受精後わずか3日目の受精卵から細胞を1つ取り出して、母体に戻す前に性別を判定し、重い伴性遺伝病回避に、画期的な技術が英国で開発され、近く臨床応用さ

れる見通しとなった。この判定法は体外受精の研究では世界をリードしている英国の共同研究チームが、体外受精と顕微鏡手術、それに遺伝学の先端技術である遺伝子増幅法の3つを組み合わせて開発した。ハマーミス病院のロバート・ウィンストン教授は、「倫理上の承認も受けたので速やかに臨床応用したい」と話しているが、倫理上の議論の必要性の声も。（5.13日付朝日）

### ★「国連・子どもの権利条約」要望書

（社）「日本家族計画連盟」（加藤シヅエ会長）はこのほど、国連に向けて、条約の一部修正を求める要望書を関係者に提出する。連盟が修正を求めているのは、同条約の前文「子どもは、身体的および精神的に未熟であるため、出生前後ともに、法律上の適切な保護を含む特別の保護およびケアを必要とする」の中の「出生前後」のくだり。出生前の胎児も同条約のいう「子ども」で、人権を行使できる、と解釈される危険があり、同連盟は女子差別撤廃条約でうたわれている「子どもの数や出産間隔を自由に選択する個人の権利」に抵触し、その権利をおびやかす、この条約が中絶禁止につながる恐れもあると見て、反対していく方針だ。（5.16日付読売）

### ★ますます「嫌煙」声高に

嫌煙運動の高まりに応じ、国民意識を探ろうと総理府が初めて行なった世論調査（対象—全国の成人、有効回答者数2339人）によると、喫煙できる場所を今よりもっと制限すべきだと考えている人が52.1%と過半数を占め、そう思わない人は39.5%にとどまり、人が吸うたばこを迷惑と感じたことがある人が64.9%にのぼっているのに対し、喫煙者の側の周囲への配慮は必ずしも十分でないこともわかった。今後力を入れるべきこととして、「健康への影響についての情報提供」48.2%、「自動販売機の規制」46.1%を挙げた人が多かった。（5.7日付読売）



## アンテナ・アンテナ・アンテナ・アンテナ・アンテナ・

### ★新中教審スタート

第14期中央教育審議会は24日、都内で初会合を開き、西岡文相が「新しい時代に対応する教育の諸制度」について諮問した(情報の頁参照)。

とくに、高校改革では「4年制高校」設置について、文相諮問の基本構想は、現在の3年制高校のほかに全日制でも4年制高校の設置を認め、高校4年に大学の一般教育の内容を降ろし、3年修了時の大学入試も認めるが、高校4年から大学2年に編入できるというもの。実施されれば高校のあり方を一変する大改革になるとあって、「画一的な教育に一石を投じる」を評価する一方、「4年は事実上、予備校化しないか」「現状でも落ちこぼれなどのひずみがある、4年制が併設されれば、差別化がさらに進む」との否定的な意見も出、教育界には、早くも激しい論議が渦巻いている。(4.25日付読売)

### ★北京に戒厳令発動

中国では4月15日、改革、開放路線の推進に積極的だった胡耀邦・前党総書記の急死から学生を中心とした民主化要求のデモが広がる。5月13日からは政府との対話要求をかざして学生がハリストに入り、ゴルパチョフ・ソ連共産党書記長の訪中に合わせ、反政府運動が全国的な広がりを見せていたが、党・政府当局はこうした行動を「動乱」とし、20日、北京の中心部のほぼ全域に戒厳令を敷いた。

インフレや物不足、汚職などに対する不満が背景とみられ、新中国成立('49年)以来初めての戒厳令発動。10年余り続いた鄧小平時代のかげりを印象づけ、中国は最大の政治危機を迎えた。(5.20日付各紙)

### ★少年法改正の論議が活発に

東京・足立区の少年(16~18歳)グループが女子高校生を監禁・殺害し、ドラム缶にコンクリート詰めにして捨てたり(3月30日発覚)、昨年の11月16日、足立区綾瀬のマンションで母子を殺害した犯人の少年

3人が犯行当時中学3年生(4月25日逮捕)だったこと、また2つの事件の少年たちが同じ中学を卒業した少年グループだったことなどで大きな衝撃を与えた。

現行の少年法では、16歳以上の少年が刑事事件を起こした場合、家裁が検察庁に送り返す「逆送」措置により、成人と同じように刑事責任が問われるが、18歳未満は刑が緩和されていたり、氏名や写真の掲載が禁じている。今回の事件で名前の公表や保護すべき年齢の引き下げを求める声が警視庁や新聞社に相次いだといい、『週刊文春』はコンクリート詰め殺害で逮捕された4人と親の実名を掲載、「少年法改正をめぐる論議を広げるための問題提起として、あえて踏み切った」とした。改正に反対の立場をとる日本弁護士会連合会では「少年犯罪は社会的背景があるとして、安易に“法が甘い”“だから凶悪犯罪が起こる”と感情論が先走りすぎている」とし、見解を独自にまとめることにした。(4.21日付朝日)

### ★覚せい剤の「吸煙」警戒

東京や大阪の若者らの間に、注射器を使わず、煙にして、口から吸い込むという、覚せい剤の新手の使用方法が広がり始めていることが、各地の麻薬取締官事務所から報告があり、厚生省では、若者向けに漫画本を作って覚せい剤の怖さをPRするなどして使用禁止を呼びかけている。「'87年版麻薬・覚せい剤白書」によると、覚せい剤の検挙者の4人に1人が10代後半と20代の若者で、注射の跡が残らず、方法も簡単なこの新手口の出現で、乱用者が広がる恐れもあり、警戒を強めている。(5.18日付朝日)

(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センターが青少年400人に意識調査をしたところ、5人に1人はシンナーの使用を誘われたことがあり、誘われれば断る自信のない人も1割程度いるという結果も出ている。(4.19日付朝日)

### ★均等法3年

男女雇用機会均等法が施行されて3年。

●人間関係

- 83/7 コミュニケーション (¥500)  
84/6 地域に生きる (¥530)  
84/10 支え合いつつひたすら立つ (¥530)  
84/12 つき合いを考える (¥530)

●生を考えると、自分らしく生きる

- 84/8.9 “遊ぶ”ということ (¥530)  
84/11 “病む”ということ (¥530)  
87/2.3 明日一人はみな、成熟に向かって (¥530)  
88/11 いのちを医療に任せていいのか (¥550)  
88/冬 ゆたかさを紡ぐII  
一人が人と向き合うところで (¥700)

●世界・社会

- 84/1 「1984」 (¥500)

- 86/12 平和—今年を顧みる (¥530)

- 87/1 女性—世界を変えようか (¥530)

- 87/5 情報化社会の光と影 (¥530)

- 88/7 なぜ、家庭科にコンピューター (¥550)

- 88/8.9 コンピューター、何をどう変える (¥550)

- 88/12 マスコミと文化の変容 (¥550)

- 89/2.3 上すべりの国際化

- 85/1 “学び・教える”とは (¥530)

- 87/冬 ゆたかさを紡ぐ—山形のくらしから (¥700)

◆近刊のご案内

- 〈詩集〉 絵Ⅲ 羽生慎子 (¥1030 送260)

★バックナンバーのご案内★  
ご注文は、最寄りの書店(地方小扱い)または、料金をおさえの上、振替で直接ワイ書房へ。

## WE EDITOR'S NOTE

◆「体罰」裁判の公判の傍聴に先日行ってきました。

六回目公判は、証書書類提出のやりとりと、次回は四

カ月先とよめて、十分ならず。先が、まだまだ延々と

るかなあなたの感じを抱く。原告代理人の弁護士氏も

“まだるっこしい仕事と口にするほど。先の長い道のり

に、裁判をおこされた方々の気持ちを考えて、なんと

と過酷なことを要求する制度だと改めて思う。(青木)

◆熊本の夏季フォーラムへのお誘いのチラシを同封しました。八月四日(金)から

六日(日)の二泊三日。「豊かさを紡ぐ——自然と

の共生を求めて」の全体デ

ならではの全体会・分科会が目白押しに。砂田明さん

の一人芝居「天の魚」も。是非ご参加下さい。(稲色)

◆今号の「十字路」の長野県と、愛知県の動きを興味

深くみた。教育先進県と言われる長野では、内申書重

視で定員割れ高校が多数出ており、管理教育で名高い

愛知では、転校、復学制導入。私は、刻々と成長して

いく時期の内申書など必要ないと思いますが。◆本誌

の特集に興味を持って下さりそうな方に一冊でもお薦

め下さい。代金は後払い、切手でも結構です。(中野)

♥アツと言う間の、一カ月

てみても、自分の至らなき

非力さに、がっかりすることばかりです。そんな時、

励みになるのは、創刊からのWe。力付けられる号が、

必ずあるのです。本棚で、子供の本に押され気味だけ

れど、ズラリ並んだ。私だけの大事な本です。(柳田)

★小金井市の婦人問題会議の一員として、昨年九月オ

ープンした横浜女性フォーラムを見学しました。JR

戸塚駅に近く、41億3千万円をかけた小豆色の親しみ

易い建物、施設設備は、きめ細かい配慮がゆき届き、

センスも抜群。幸せな気分

新しい家庭科

Vol.8 No4 1989年6月20日発行  
定価567円(本体550円+税17円)送料共  
年間購読料・定価7107円(本体6900円+税207円)  
編集兼発行人/半田たつ子

発行所/(有)ワイ書房

〒182 東京都調布市西つつじヶ丘2-25-14  
☎03(326)1380 郵便振替 東京6-59867  
第一勧業銀行 調布仙川支店 普預1075292  
印刷所/(有)佐佐印刷所 〒112文京区春日1-6-7

# 人と人とのかわりを紡ぐ

## 若いいのちの像

—私のカウンセリング入門—

児玉澄子

色眼鏡をはずして、自分の眼で、自分の心の中に起こっていることを静かに見つめよう。自分に都合のよい論に乗ったり、あれこれとがなり立てる、騒音にしか過ぎない情報に振り回されたりすることなく

▼定価 一三三九円(税込) 千二六〇円

全国学校図書館協議会選定

もしかしたらちいさなじゅくはコートピア

## 私塾霞国語教室風景

武田 秀夫

さまざまな種類のけものたちが、強いものも弱いものも、狷介なものも臆病なものも、傷を負ったもののおとなしきで互いに争わず、つと湯につかっている静寂。小さな塾は、もしかしたらさびしく悲しいコートピア

▼定価 一七五一円(税込) 千二六〇円

## 子どもつて不思議

—学ぶことは生きること—

長谷川 孝

教育の文化を農耕の文化にたとえればへまなびの文化は土壌の文化地球を支えてきたへつちの文化へつちがこわされたとき地表はささくねだつて 緑も失われ実りは手からさぼれる

▼定価 一三三九円(税込) 千二六〇円

## 人間つて不思議

—一つの視角—

半田 たつ子

人間は、人間を信ずることが出来た時、人間の美しさに酔う時、最高の幸せを味わう。家庭科にかけてきた著者の、人間を見る一つの視角をここに

▼定価 一五四五円(税込) 千三二〇円

日本図書館協議会選定

〈詩集〉

## 木、鳥、娘たちとわたし

羽生 楨子

自然と人間の営みをこよなく愛す詩人が、しなやかに上げた作品集。うるおいを失い、金がすべての世相の中で、これはまごうことないオアシス

▼定価 一〇三〇円(税込) 千二六〇円

〈詩集〉

## 絵 III

羽生 楨子

ピカソ レンブラント ルノワール ミーロ……そして、浮世絵から……向井潤吉 荻須高德 猪熊弦一郎……羽生楨子の感性が絵の世界にたゆたい、あそび、ひびきあう

▼定価 一〇三〇円(税込) 千二六〇円

■お近くの書店に「地方小出版流通センター扱い」でご注文下さい。  
■直接小社にご注文の場合は、書名・冊数および住所・氏名を明記の上、代金に送料を加えた金額をお送り下さい。

■二冊以上の場合は、実費を請求いたします。  
■電話、はがきでお申し込みの際は、代金、送料を記入した振替用紙を同封いたしますので、到着次第お支払い下さい。

## ウイ書房

〒182 調布市西つつじヶ丘2-25-114  
03-326-1380 振替 東京6-59867